原の辻遺跡調査事務所調査報告書　第24集

原の辻遺跡

原の辻遺跡特定調査事業発掘調査報告書Ⅳ
（環濠等状況調査３）

２００２

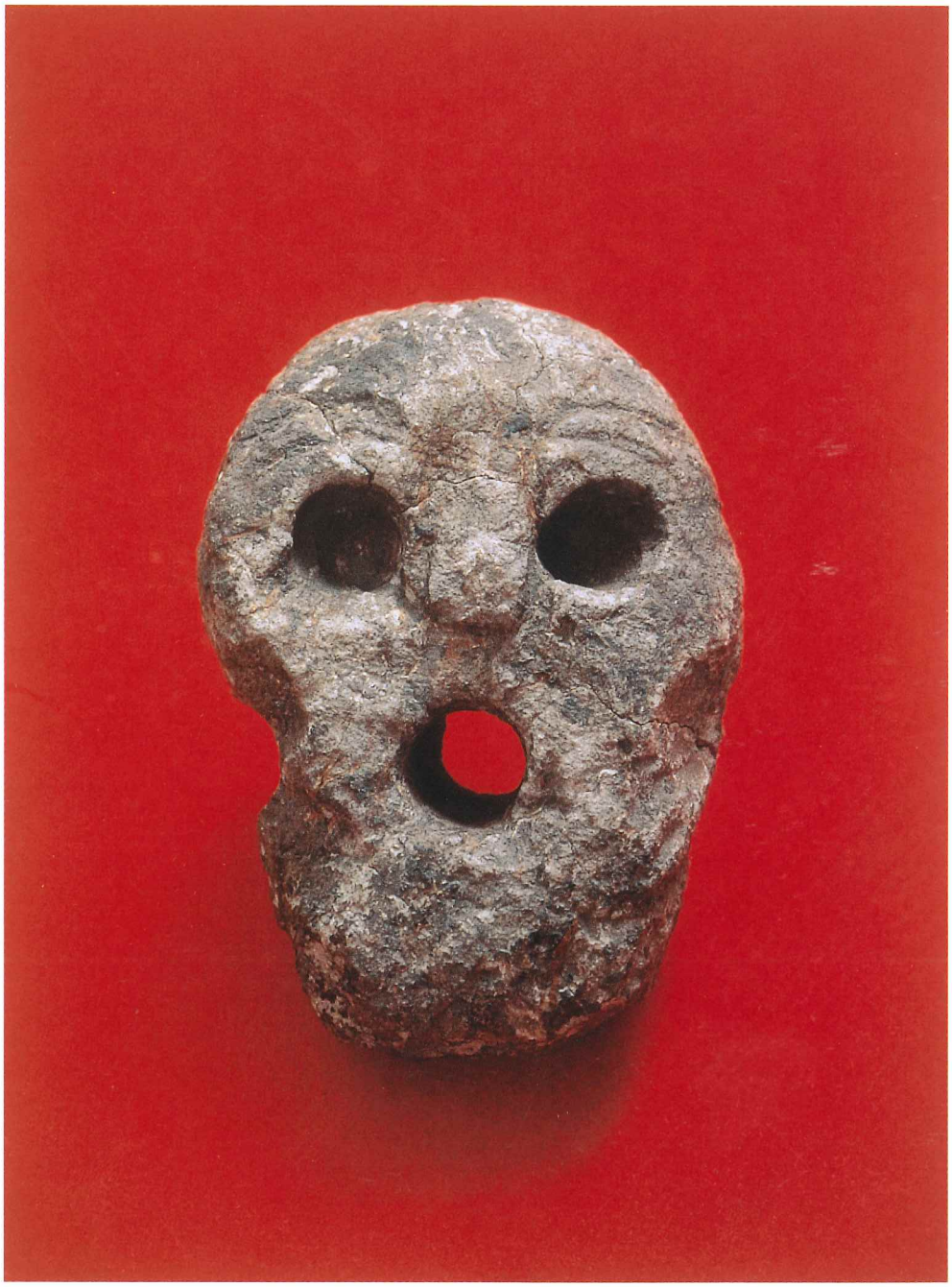
長崎県教育委員会

原の辻遺跡調査事務所調査報告書　第24集

原の辻遺跡

はる　つじ

原の辻遺跡特定調査事業発掘調査報告書Ⅳ
（環濠等状況調査３）



発刊にあたって

本書は，原の辻遺跡特定調査事業に伴って実施した，平成13年度の原の辻遺跡発掘調査報告書です。

原の辻遺跡は，『魏志倭人伝』に登場する，「一支国」の「王都」として特定されている遺跡です。『魏志倭人伝』に登場する国々の中で唯一その所在地が特定されているのが原の辻遺跡です。その重要性が認められ，平成９年９月に国の史跡指定，さらに平成12年11月には特別史跡の指定を受けました。弥生時代の集落遺跡としては静岡県登呂遺跡・佐賀県吉野ヶ里遺跡に次いで全国で３番目ということで，弥生時代を解明していくうえで稀有な遺跡として高く評価された結果であると思います。

平成10年度から平成12年度に実施された特定調査は遺跡の北西低地部を中心に行われ，弥生時代前期末の溝，弥生時代中期の環濠や弥生時代後期の濠，旧河道などが確認され，北西低地部の状況を明らかにすることができました。

今年度は南西低地部の調査を行い，台地を取り巻く環濠を３条確認するとともに，「人面石」や「三耳付三韓系瓦質土器」など貴重な遺物も発見しました。

今回の調査成果を学術的な資料として活用し，また文化財の保護のために役立ててていただければ幸いです。

平成14年３月31日

長崎県教育委員会教育長　　木　村　道　夫

例　　言

1．本書は，原の辻遺跡特定調査事業に伴って実施した，平成13年度の原の辻遺跡の発掘調査報告書である。

2．本書に収録した遺跡の調査地区は，長崎県壱岐郡芦辺町深江鶴亀触字八反に所在する。

3．調査は長崎県教育委員会が主体として，原の辻遺跡調査事務所が担当した。

調査組織	所長	高野晋司	
	課長	安楽　勉	
	主任文化財保護主事	町田利幸	（現場担当）
	文化財保護主事	藤村　誠	（現場担当）
	文化財保護主事	小玉友祐	（現場担当）
	文化財保護主事	中尾篤志	（現場担当）

4．本書で使用した遺物と遺構の実測および製図は，原の辻遺跡調査事務所が行った。

5．本書に収録した遺物・図面・写真類は，原の辻遺跡調査事務所に保管している。

6．本書の写真は，町田利幸が撮影した。

7．本書の執筆担当者は本文目次に（　）で示した。

8．本書で方位の基準としたのは磁北である。図ではＭＮの略字を使用した。

9．本書の総編集は，町田利幸が行った。

本 文 目 次

Ⅰ　地理的・歴史的環境

1．地理的環境……1（中尾）

2．歴史的環境……2（〃）

Ⅱ　調査の経緯……5（藤村）

Ⅲ　調　　査

1．調査概要……7（藤村）

2．土　　層……7（藤村）

3．遺構・遺物……10（町田・藤村）

Ⅳ　ま　と　め……77（町田）

挿 図 目 次

第１図　壱岐島地質図……1
第２図　壱岐島内弥生時代主要遺跡分布図……3
第３図　原の辻遺跡概要図……6
第４図　調査区位置図……8
第５図　台地西側主要遺構配置図……9
第６図　遺構配置図……11～12
第７図　中央区西壁・北壁土層図……13
第８図　ＳＤ１・ＳＤ３土層図……14
第９図　ＳＤ１Ⅰ層（上図）・Ⅱ層（下図）遺物出土状況……15～16
第10図　ＳＤ１Ⅱ層・Ⅲ層遺物出土状況……17
第11図　ＳＤ１Ⅱ層出土土器……19
第12図　〃……20
第13図　〃……21
第14図　ＳＤ１Ⅱ層・Ⅲ層出土土器……23
第15図　ＳＤ１Ⅲ層出土土器……24
第16図　ＳＤ１Ⅰ層出土石器……25
第17図　ＳＤ１Ⅳ層……26
第18図　ＳＤ１Ⅱ層出土石器……27
第19図　ＳＤ１Ⅲ層出土石器……28
第20図　ＳＤ２Ⅰ層（上図）・Ⅱ層（下図）遺物出土状況……29～30
第21図　ＳＤ２Ⅲ層遺物出土状況……31～32
第22図　南区ＳＤ２報告書掲載遺物出土状況……31～32
第23図　南区南壁・西壁・北壁土層図……33
第24図　ＳＤ２Ⅰ層下……38
第25図　ＳＤ２Ⅰ層出土石器……39
第26図　〃……40
第27図　ＳＤ２Ⅰ層下出土石器……41
第28図　ＳＤ２Ⅱ層出土土器……42
第29図　〃……43
第30図　〃……45
第31図　〃……46
第32図　〃……47

第33図　〃　……49
第34図　ＳＤ２Ⅱ層出土石器……50
第35図　ＳＤ２Ⅲ層出土土器……51
第36図　ＳＤ２Ⅲ層出土石器……52
第37図　北区ＳＤ３Ⅰ層（上図）・Ⅱ層（下図）遺物出土状況 ……53～54
第38図　北区西壁・北壁土層図……55
第39図　中央区ＳＤ３遺物出土状況……56
第40図　ＳＤ３Ⅰ層出土土器……58
第41図　〃　……59
第42図　〃　……60
第43図　ＳＤ３Ⅰ層出土石器……61
第44図　〃　……62
第45図　ＳＤ３Ⅱ層出土土器……64
第46図　〃　……65
第47図　〃　……66
第48図　ＳＤ３Ⅱ・Ⅲ層出土石器……67
第49図　ＳＤ３Ⅲ層出土土器……68
第50図　ＳＤ４遺物出土状況及び断面図……69
第51図　ＳＤ４Ⅰ層出土土器……70
第52図　ＳＤ４Ⅰ層出土石器……71
第53図　その他の層及び遺構出土遺物……72
第54図　〃　……73

表　目　次

表１　Ｐ番号取り上げ遺物　レベル表①……34
表２　Ｐ番号取り上げ遺物　レベル表②……35
表３　Ｐ番号取り上げ遺物　レベル表③……36
表４　出土石器一覧表①……74
表５　出土石器一覧表②……75

図 版 目 次

図版１　調査区遠景（南から）・中央区ＳＤ１・ＳＤ４検出状況
図版２　中央区ＳＤ１Ⅱ層遺物出土状況・中央区ＳＤ１Ⅲ層遺物出土状況
図版３　中央区ＳＤ１横断土層・中央区ＳＤ１横断土層
図版４　中央区ＳＤ１・ＳＤ３検出状況・南区ＳＤ２検出状況
図版５　南区ＳＤ２Ⅰ層下遺物出土状況（南から）・南区ＳＤ２Ⅰ層下遺物出土状況（西から）
図版６　南区ＳＤ２Ⅰ層下遺物出土状況（西から）・南区ＳＤ２遺物出土状況
図版７　南区ＳＤ２遺構検出状況（南から）・南区南壁ＳＤ２土層
図版８　南区ＳＤ２遺物出土状況・中央区ＳＤ１・ＳＤ３・ＳＤ４検出状況（西から）
図版９　中央区ＳＤ３調査風景・中央区ＳＤ３遺物出土状況
図版10　北区ＳＤ３礫群検出状況（北から）・北区ＳＤ３礫群検出状況（南から）
図版11　北区ＳＤ３遺物出土状況・北区ＳＤ３遺物出土状況
図版12　中央区ＳＤ３横断土層・中央区ＳＤ３横断土層
図版13　中央区ＳＤ２・ＳＤ３検出状況・北区ＳＤ３検出状況
図版14　中央区ＳＤ４遺物出土状況・南区Ⅲ層刀子出土状況
図版15　中央区ＳＤ４検出状況（南から）・中央区ＳＤ１・ＳＤ４検出状況（南から）
図版16　調査区全景

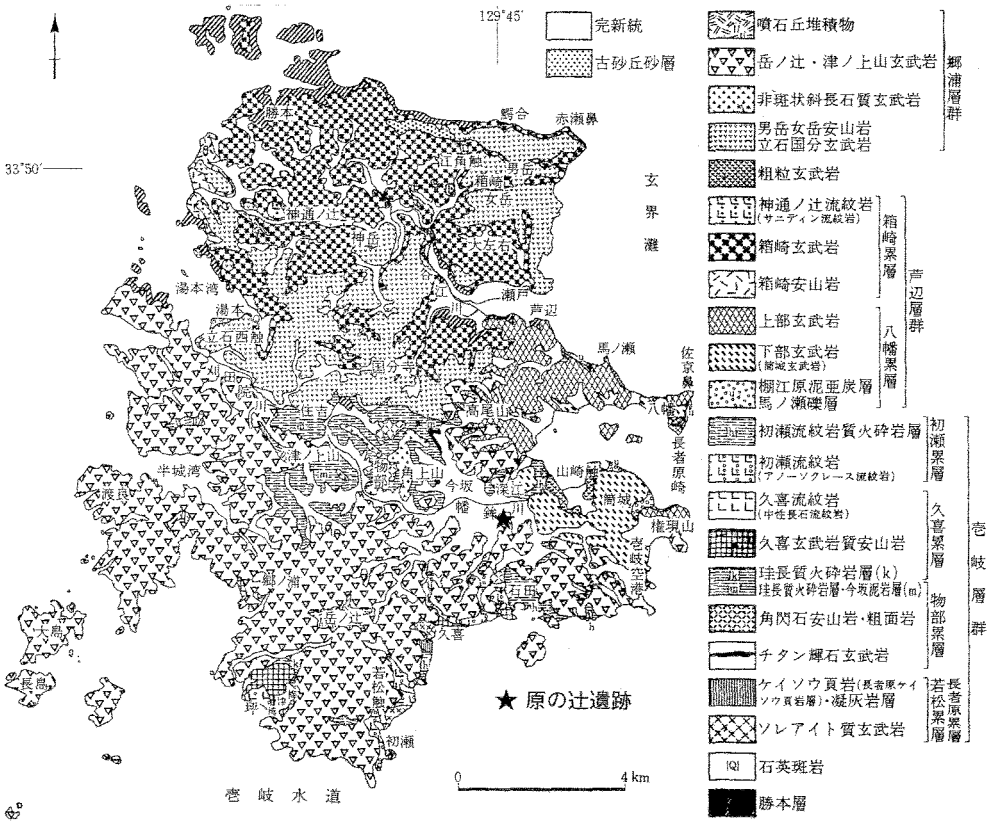
Ⅰ．地理的・歴史的環境

1．地理的環境

壱岐は，玄界灘に浮かぶ東西約15km，南北約17km，面積約140m²の島である。全体が低平で起伏が少なく，最も標高の高い岳ノ辻でもわずかに212mを測るにすぎない。壱岐島の基盤層は，古第三紀に形成された泥岩・砂岩からなる勝本層群で，その上に新第三紀～第四紀にかけて形成された壱岐層群・芦辺層群・郷ノ浦層群と呼ばれる玄武岩が順次堆積し，島全体を覆っている（第１図）。これらの玄武岩は，縄文時代から弥生時代にかけての礫石器や石棺材のほか，巨石墳と称される古墳時代の巨大な横穴式石室の石室材などに利用されている。また，黒曜石の産地も４ヶ所知られており，旧石器時代以降の剥片石器の素材として頻繁に利用されている。

壱岐の河川は，低平な地形のため流域も広く，島内東半部を中心に広大な平野が発達している。島内最大の河川である幡鉾川は流路延長8953mで，この川によって形成された深江田原と呼ばれる沖積平野は県内第２位の広さを持つ。沿岸部は屈曲した海岸線が展開し，北岸と南岸には大規模な海蝕崖が発達している。また，西海岸は溺れ谷による出入りの激しい海岸線になるが，東海岸の海岸線は単調で海岸砂丘が形成されている。

気候は，対馬暖流の影響で全国的にみると概ね温暖な海洋性気候である。しかし，同じ長崎県に属する長崎市や佐世保市と比較すると，年間を通して気温は低い。氷点下になることは少なく，降雪や



第１図　壱岐島地質図

積雪もまれである。降水量は6～7月の梅雨期と9月の台風，秋雨時期に多い。年間降水量は県内県本土に比べると少ない。

原の辻遺跡は，岳ノ辻から派生する郷ノ浦層群の玄武岩台地上を中心に展開しており，幡鉾川によって形成された沖積平野に面して，約100haの広がりを持つ。

2．歴史的環境

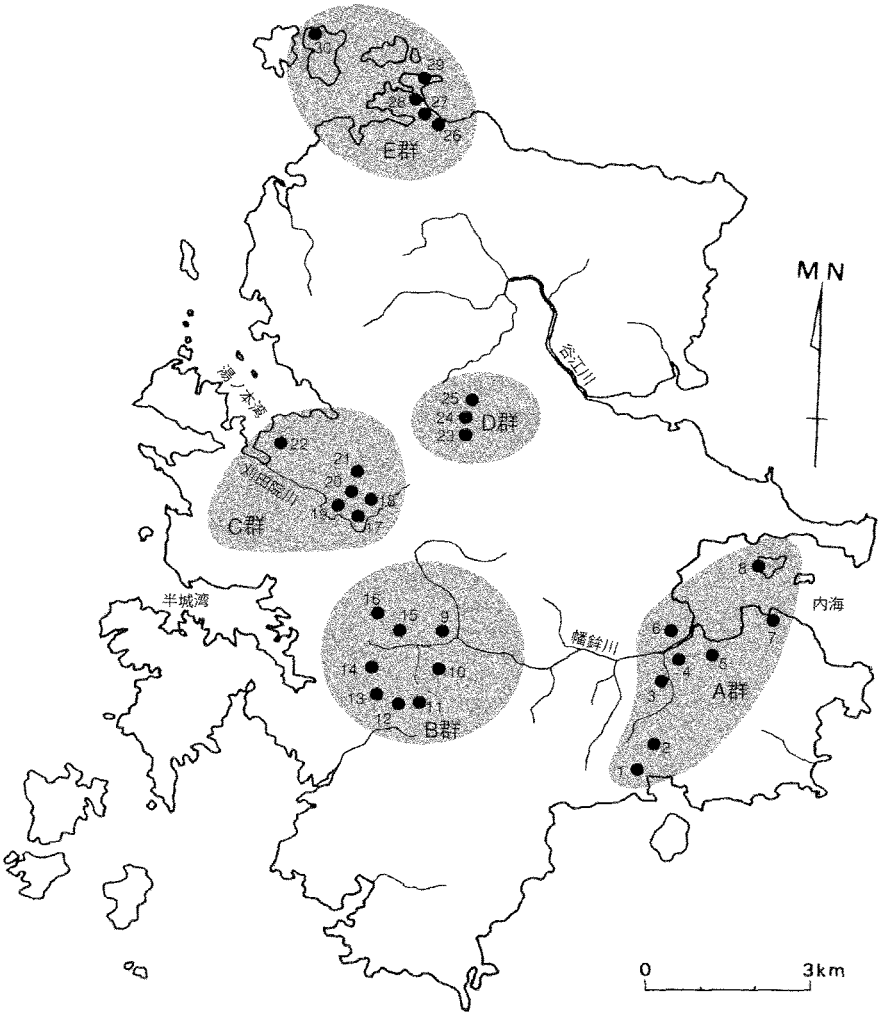
壱岐島における人類の足跡は，後期旧石器時代まで遡ることができる。壱岐島内においては，原の辻遺跡をはじめ，興触遺跡・カラカミ遺跡・国柳遺跡などで，ナイフ形石器・台形石器・槍先形尖頭器・細石刃核などが出土している。発掘調査による出土例は多くないものの，いずれも後期旧石器時代のうちでも姶良丹沢火山灰（ＡＴ）降灰以降の石器群として位置づけられる。これらの石器群の中でも，特に台形石器は，ＡＴ降灰直後の石器組成の重要な器種として「原の辻型台形石器」と称されている。また，朝鮮半島とのつながりが指摘されている剥片尖頭器も出土しており，対外交流の歴史がこの時期に始まることを物語っている。なお，原の辻遺跡では絶滅動物であるナウマンゾウの臼歯が数例出土している。旧石器との共伴は現在のところ確認されていないが，絶滅した動物化石とそれを狩猟した人工遺物が共伴した例は，長野県野尻湖遺跡や岩手県花泉遺跡などがあるにすぎず，今後の調査の進展によってこれらの例に加わる可能性は大いにある。

縄文時代には，沿岸部での遺跡立地が目立ってくる。特に，沿岸部でも満潮時には海中に没する潮間帯付近に立地する場合が多く，壱岐における縄文時代の遺跡立地の大きな特徴である。従来，縄文時代の遺跡分布は島の西半部に偏る傾向があったが，近年では石田町大久保遺跡をはじめ，東半部でも縄文時代の遺跡が発見・調査され，徐々に内容が明らかになりつつある。縄文時代の遺跡が形成されはじめるのは，縄文時代前期の轟Ｂ式からである。この時期は，今から約6,000年のいわゆる「縄文海進」と呼ばれる海面上昇期に相当し，現在の海況ができ上がった時期にあたる。したがって，壱岐島内の縄文遺跡の形成と展開は，水域環境への適応を前提としたものであったことが推測される。このことを示すように，郷ノ浦町名切遺跡では，鋸歯銛先や石錘等の漁撈具が出土しており，外海への積極的な働きかけがうかがえる。一方で，同遺跡で発見されたドングリピットと呼ばれる堅果類の貯蔵施設の存在は，海産・陸産の資源を網羅的に活用して，安定した生活を営もうとした意図を反映したものであろう。なお，朝鮮半島とのつながりを示す資料としては，勝本町松崎遺跡において，朝鮮半島南岸地域の櫛目文土器が採集されており，海を越えての交流が縄文時代にも行なわれていたことがうかがえる（木村1997）。

弥生時代になると，壱岐島内の遺跡数が急激に増加する。分布は島内全域に及ぶが，これらの遺跡はいくつかのグループに分けることが可能である（第２図）。武末純一氏によれば，壱岐島内の弥生時代遺跡は，原の辻遺跡を中心とする深江印通寺周辺（幡鉾川下流域）の遺跡群（Ａ群），車出遺跡を中心とする郷ノ浦柳田触周辺（幡鉾川上流域）の遺跡群（Ｂ群），カラカミ遺跡を中心とする鯨伏周辺（刈田院川上流）の遺跡群（Ｃ群）に分けられるが（武末1983），このほかにも，銅鉾の埋納で知られる天ヶ原遺跡をはじめ丸尾遺跡など，内容については不明な点が多いものの，島北部の遺跡群もＤ類としてまとめられそうである。Ａ群の原の辻遺跡，Ｃ群のカラカミ遺跡については，弥生時代

前期後葉に遺跡の形成が進み，中期から後期にかけて環濠の掘削をおこない，古墳時代前期まで存続するもののその後急激に衰退しており，遺跡の消長がほぼ一致する。B群の車出遺跡からは中期から後期の資料が出土しており，A群・C群の遺跡と比較すると一時期遺跡の形成が遅れる。これについては，同じ幡鉾川水系の原の辻遺跡からの集団分岐によって，遺跡の形成が始まった可能性が指摘されており（宮崎2002），集落構造の解明と合わせて今後の検討課題である。これまでの発掘成果から推定される各遺跡の規模は，カラカミ遺跡が5ha，車出遺跡も数haであるのに対して，原の辻遺跡は100haの広がりを持ち，一支国の中でも中心的な集落として位置づけられる。出土遺物のうち圧倒的に多い弥生土器は，北部九州の土器の変遷と全く一致するが，一方で無文土器や三韓系瓦質土器・楽浪系土器など朝鮮半島系の土器が流入している点が特筆される。このことは，弥生時代以前からみられた朝鮮半島との交流が，弥生時代にいたってより活性化したことを物語る。朝鮮半島系土器の流入と歩調を合わせるように，各種鉄製品や青銅器をはじめとする朝鮮半島系・中国系の遺物が各遺跡で出土している。まさに，魏志倭人伝が伝える「南北市糴」の実体を如実に反映しているといえるであろう。

古墳時代には，現



1 山中遺跡
2 津の宮遺跡
3 鶴田遺跡
4 原の辻遺跡
5 漣の辻遺跡
6 闘繰遺跡
7 堂崎遺跡
8 青島遺跡
9 桜江遺跡
10 鉢形遺跡
11 車出遺跡
12 田ノ上遺跡
13 大谷遺跡
14 戸田遺跡
15 柳田遺跡
16 山中遺跡
17 経ノ辻遺跡
18 カラカミ遺跡
19 小場遺跡
20 国柳遺跡
21 牛方遺跡
22 石路遺跡
23 大谷第1遺跡
24 大谷第2遺跡
25 月読神社前遺跡
26 天ケ原石棺群
27 天ケ原遺跡
28 串山ミルメ浦遺跡
29 オオタキ遺跡
30 若宮島石棺群

第2図　壱岐島内弥生時代主要遺跡分布図

在確認されているだけで256基の古墳が存在する。この数は，長崎県全体の約半数に相当し，いかに集中して壱岐島内に古墳が築かれたかがうかがい知れる。寛保２年（1742）の『壱岐国続風土記』には，338基の古墳の存在が知られており，実際にはより多くの古墳が存在していたことは確実である。

これらの古墳の特徴としては，①大半が円墳であること，②分布が島中央部の国分地区に集中すること，③築造時期が６世紀後半から７世紀初頭に集中すること等があげられる（横山1990）。③については，現在確認できる最古の古墳は５世紀後半の芦辺町大塚山古墳であるが，初期の古墳群が深江田原を中心とする平野を中心に分布しており，断絶ははさむものの，原の辻遺跡の系譜につながる有力集団が被葬者である可能性が強い。一方で，６世紀後半には分布の中心が国分地域に移り，古墳の密度や墳丘の規模，副葬品の内容を比較しても，それ以前の古墳とは大きな隔たりがある。また，墳形においても，笹塚古墳や鬼の窟古墳・掛木古墳などの大型円墳のほか，双六古墳や対馬塚古墳など大型の前方後円墳が築かれるのもこの時期の大きな特徴である。これらの古墳には，共通して長大な横穴式石室が伴っており，いずれの石室も玄室と複数の前室からなる複室構造で，平面プランや規模においても共通する点が多い。副葬品では，笹塚古墳から金銅製の杏葉をはじめとする馬具や帯金具，双六古墳からは単鳳環頭大刀柄頭・圭頭大刀柄頭・金銅製八窓鍔などの武器のほか，金銅製鞍金具・辻金具などの馬具，空玉やトンボ玉などの装飾品が出土している。これらの副葬の入手にあたっては，畿内の勢力との結びつきが不可欠であったと考えられ，実際にカジヤバ古墳では畿内系の土師器も出土している。壱岐における古墳の築造と副葬品のあり方からは，朝鮮半島に通じるルートとして，畿内勢力によって壱岐が重要視されていたことがうかがえる。一方で，双六古墳からは新羅土器も出土しており，弥生時代と同様，朝鮮半島との結びつきも深かったようである。

古代には，古墳の集中していた国分地区に壱岐嶋分寺が建立される。『延喜式』によれば，壱岐直という豪族の氏寺を国分寺に転用したとの記述があり，また，考古学的にも古墳の集中する国分地区に国分寺が建立されたことは，その背景に古墳時代以降この地をおさめた地方豪族の影響が読みとれる。また，嶋分寺出土の軒丸瓦は平城宮と同笵であることが明らかになり，地方豪族を基盤として成立しつつも，中央との結びつきの強さもうかがえる。このほか，原の辻遺跡では古代の道路状遺構のほか，木簡や初期貿易陶磁が出土し，近隣の椿遺跡からも建物跡のほか，７世紀後半から８世紀代の瓦・石帯が出土しており，壱岐の南東部にも官衙や寺院などの公的な施設が存在した可能性が強い。

以上のように，壱岐の歴史は，地勢的特性から朝鮮半島や中国大陸との結びつきが一貫して存続するとともに，国内の勢力からも時代によって意味合いを変えつつ重要視されていたことがうかがえる。

【参考文献】

・唐木田芳文・早坂祥三・長谷義隆編1992『日本の地質９　九州地方』共立出版
・木村幾多郎1997「交易のはじまり」『考古学による日本歴史』10対外交渉　雄山閣
・武末純一1983「壱岐・対馬」『三世紀の考古学』下巻三世紀の日本列島　学生社
・宮崎貴夫2002「原の辻遺跡における歴史的契機について」『西海考古』第４号
・横山順1990「壱岐の古代と考古学」『海と列島文化』第３巻玄界灘の島々　小学館

Ⅱ．調査の経緯

平成５年度に実施した圃場整備事業に伴う緊急発掘調査で台地東側部分で弥生時代中期から後期の環濠３条の他，様々な遺構・遺物が確認された。その結果とそれまでの調査結果を踏まえて原の辻遺跡は旧石器時代から中世に至る複合遺跡で，中でも弥生時代前期末から古墳時代初頭にかけて形成された大規模多重環濠集落であることが明らかになった。また範囲確認調査により遺跡中央の台地を複数の濠が取り囲んでいることもわかった。

平成６年度の調査は，遺構の北側一帯の緊急発掘調査を実施し，環濠等の遺構を検出した。また，台地頂上部の調査で大型の建物跡と思われる柱穴群や火を使った跡などが確認され，この場所に祭儀場跡があったこともわかった。そしてその南側では弥生時代中期に掘られ弥生時代後半から古墳時代初頭に埋没した濠２条を確認した。この濠は台地を取り囲む環濠とは違い，環濠内部を区画する性格のものと思われる。また，原の辻遺跡調査指導委員会において，これまでの調査結果に検討が加えられた結果，当該遺跡が「魏志倭人伝」中の「一支国」の王都として特定された。

平成８年度の調査では東アジアを含めても最古となる弥生時代中期の船着き場跡が検出された。台地西側の船着場跡には幡鉾川の支流が流れ込んでいたと考えられ，この発見によって海上交易の拠点として注目を集めた。実際，出土遺物にも朝鮮半島系の土器や大陸製の舶載遺物が多いこと，国内的にも北部九州にとどまらず瀬戸内・山陰・近畿など多くの土器が搬入されている。この点でも，当時の南北市の様子が十分に伺える。

平成10年度からの特定調査事業は船着き場周辺の状況を明らかにすることを目的に，遺跡の北西低地部を中心に調査を行った。その結果，弥生時代中期の環濠を台地下の北西低地部で初めて確認するとともに，複雑に中継し合う弥生時代後期の濠も確認した。また平成11年度には，弥生時代中期前半の環濠２条が確認された。濠の出土遺物等から，弥生時代前期末に居住が始まったことは過去の調査で明らかであるが，弥生時代中期前半，須玖Ⅰ式土器古段階の時期に多重環濠が成立し遺跡の中央に位置する台地を中心に本格的な拠点集落として整備されたことが明らかになった。さらに，平成10年度の調査で確認した弥生時代中期の濠も含めてこれらの環濠が旧河道の手前で止まり，台地西縁を流れる旧河道が天然の要害として途切れた環濠を補完していたこともわかってきた。平成12年度の調査では，11年度に確認した弥生時代後期の濠が，他と同様に途中で止まり，北西低地部が濠が縦横に張り巡らされている状況が明らかになった。このように３年間の調査で北西低地部の様子はかなりの部分が明らかになった。

そこで本年度は原の辻遺跡の中枢，祭儀場跡の西側部分，遺跡の南西低地部の状況を面的に明らかにするために，昨年調査した農道に並行に1,100㎡の調査区を設定し，平成13年５月14日から平成13年10月３日の期間，長崎県教育委員会を主体に，原の辻遺跡調査事務所が担当して調査を行った。

また原の辻遺跡調査事務所主体の国庫補助事業の芦辺町域分は本調査区の北側に650㎡，さらに原の辻遺跡保存等協議会主体の調査はさらにその外側に1,100㎡を設定した。

第３図　原の辻遺跡概要図（1/8000）

Ⅲ．調　　査

1．調査概要（第4図，第5図，第6図）

調査区は平成7年度の調査で祭儀場跡と見られる柱穴群が確認された台地頂上部から西に約100m離れた，遺跡西側低地部（現水田面）の非農用地に，南北55m，東西20m，合計1,100㎡を設定した。調査区は，北側から北区（300㎡）・中央区（500㎡）・南区（300㎡）とし，土層ベルトで区分している。

この調査区周辺の調査は過去に幾度か行われ，弥生時代中期から古墳時代初頭の溝や濠，旧河道跡，弥生時代中期から後期の掘立柱建物跡，弥生時代中期から古墳時代の水田跡など確認されていたが，広い所でも幅5mの調査でその全容は不明瞭であった。

今年度の調査区内から過去の範囲確認調査のトレンチを北区で2箇所，南区で3箇所，合計5箇所確認した。範囲確認調査の結果，ここには2条の濠が想定されていた。祭儀場という集落の中枢部からわずかしか離れていない場所だけに，幾重かの濠が掘られていることは容易に想像がつくが，その形状・時期等については不明な点が多く，今回の調査である程度明らかにすることを目的とした。また今年度の調査区の西側に約11m離れた昨年度の農道・県道調査では，南東から北西方向に伸びる弥生時代中期から古墳時代前期までの溝3条を確認していた。しかし，今回の調査では，この溝に関連する遺構を検出することはできなかった。

調査区は遺跡中央台地の西側裾部にあたり，緩やかに傾斜していた台地東側と比べ，傾斜は比較的急であったと思われる。しかし度重なる水田化により傾斜地は大きく削平を受けたようで，調査区の東壁際は現在の耕作面から約20㎝で弥生時代の遺構を検出した。また中央区・南区の東側半分は遺構の上面がかなり削平されていたが，北区は舌状の台地のくびれた部分に当たり，比較的削平をうけていなかった。

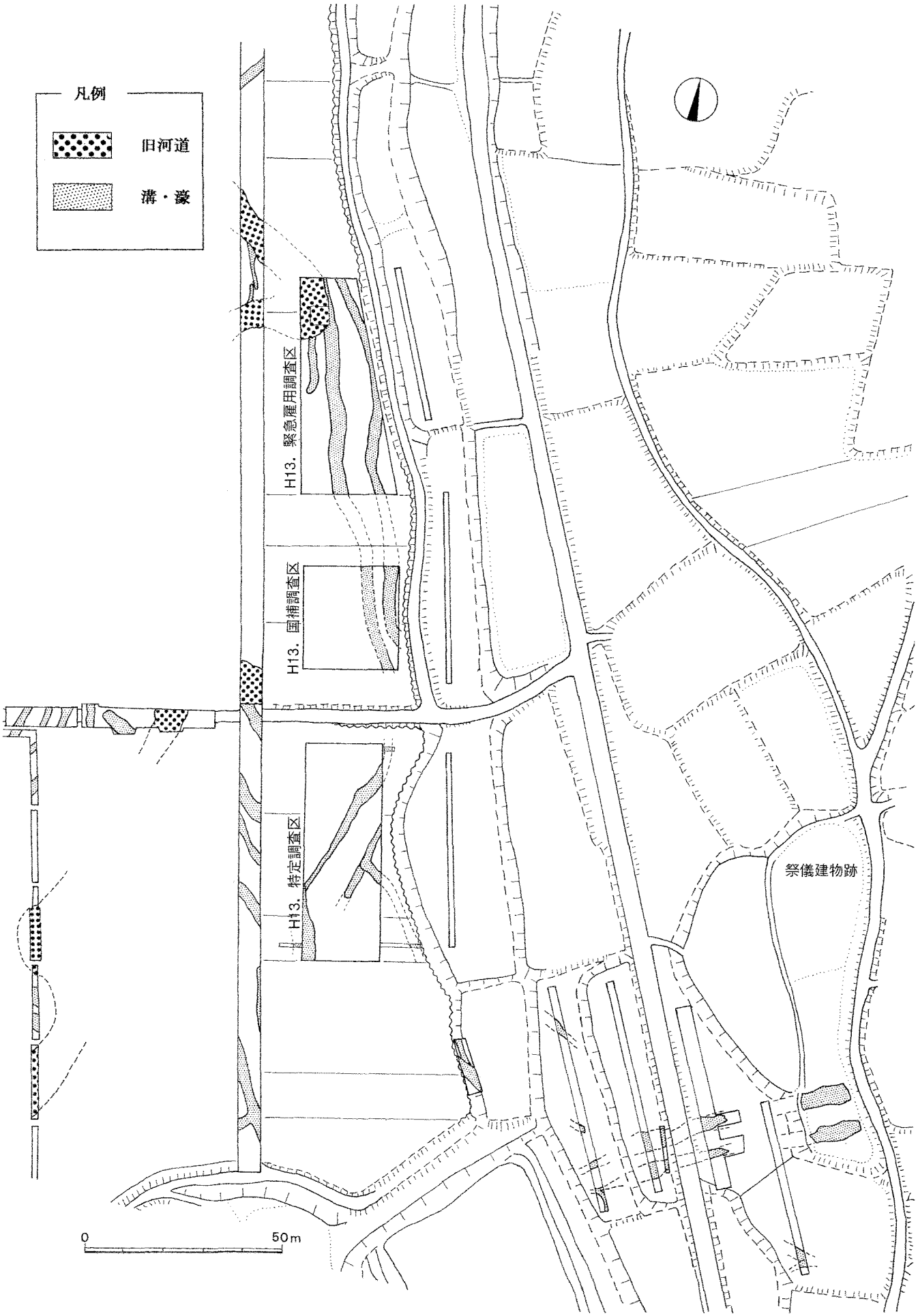
中央区から南区では，西側に向かって人為的な掘り込みがみられるとともに，その掘り込みに沿うような形で杭列を確認した。出土遺物の状況から近世以降の水田化によるものと思われる。

また中央区北西隅から北区にかけて自然な落ち込みも見られ，その中に大量の礫が投棄してある状況が確認された。堆積した黒褐色の土層は他に比べて遺物が少なく，古墳時代の鍛造鉄斧が出土した。また下の灰白色の地山層と混ざり合った状況も確認されたことから，古墳時代以降の水田化にあたって，耕地を平らにするために落ち込み部分に礫を投げ込んだとも考えられる。また，この状況は特定調査区の北側に設定した国庫補助事業調査区でも確認されている。

2．土層（第7図，第8図，第23図，第38図）

基本土層は若干の色の違いはあるものの，各区で共通し大きく4層に分けられる。

第４図　調査区位置図（1/2,500，約1/10,000）



第５図　台地西側主要遺構配置図

１層は表土，現在の水田面にあたる。２層は明黄褐色土で，近世の染付け陶磁器が出土しているので，近世の水田面の下面と思われる。３ａ層・３ｂ層は中世の青磁・白磁・須恵器が出土している。特に南区のＳＤ２の直上の３ｂ層には大量の礫が投棄されていた。この層からは製作者銘の入った刀子が出土した。また３ｃ・３ｄ層からは須恵器や鍛造鉄斧が出土しているが，他と比較すると出土遺物の量が極端に少なくなることから，古墳時代の水田層と考えられる。４層は地山で，南区では青灰色粘質土・中央区では灰白色粘質土・北区では灰オリーブ色粘質土であった。この層を掘り込んで弥生時代の遺構が確認された。

遺物の取り上げ層位と土層の関係は，ＳＤ１は取り上げ層位Ｉが第８図（最上図）の１に層位Ⅱが２・３に層位Ⅲが４・５に層位Ⅳが６に相当する。ＳＤ２は取り上げ層位Ｉが第23図南区南壁土層図の４にＩ下が５に相当し，Ⅱ層が８・Ⅲ層が９に相当する。ＳＤ３は取り上げ層位Ｉが第８図（最下図）の１～７に相当し，層位Ⅱが８・９に，層位Ⅲが10・11に相当する。ＳＤ４は溝が浅かったため土層の大きな変化は見られず，すべてＩ層で取り上げた。

３．遺構・遺物

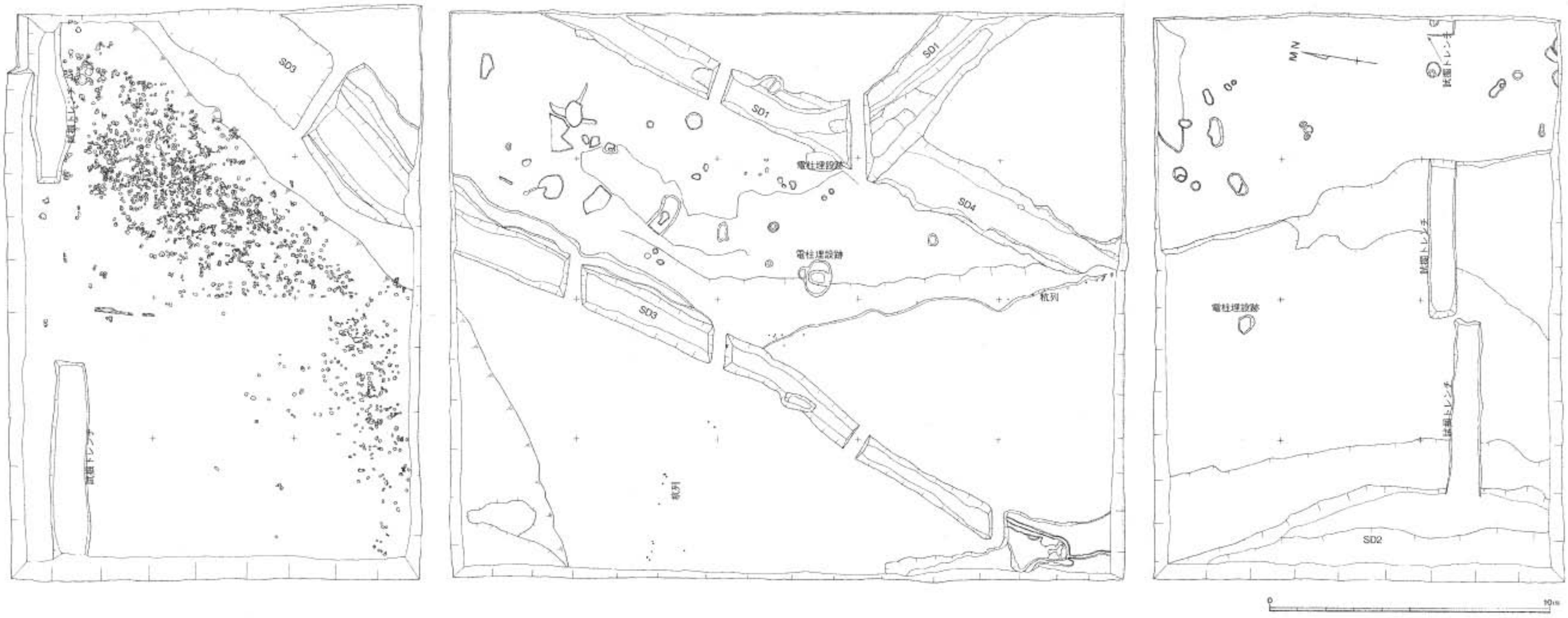
●ＳＤ－１（第６図，第９図，第10図）

中央区東側で長さ約20m，最大幅2.8mを確認した。台地の張り出し部分に合わせたかのように北東から南西方向に延びていた溝が南東方向に大きく曲がっていく。耕作土直下で検出され，遺構の上面はかなり削平されている。現存する部分で溝の北側部分は断面Ｕ字型で最深が約60cm，南側部分はＵ字型の溝の中央部が更に深く掘り込まれ最深約60cmを測る。掘り込まれた部分には土器が詰まっていた。また大きく曲がった部分の外側は一段深くなり深さ約80cmを測る。土層を観察すると，まずＳＤ４が北東から南西方向に直線的に掘られ，それが埋まった後，ＳＤ１が掘り直されたようである。直線的であった溝がほぼ直角に曲げられた理由として，遺跡中枢部の祭儀場跡の西側傾斜地の環濠の張り出し部分に物見やぐら的な施設の存在を想定したが，この周辺は地山まで大幅に削平を受けていて，柱穴等を確認できなかった。

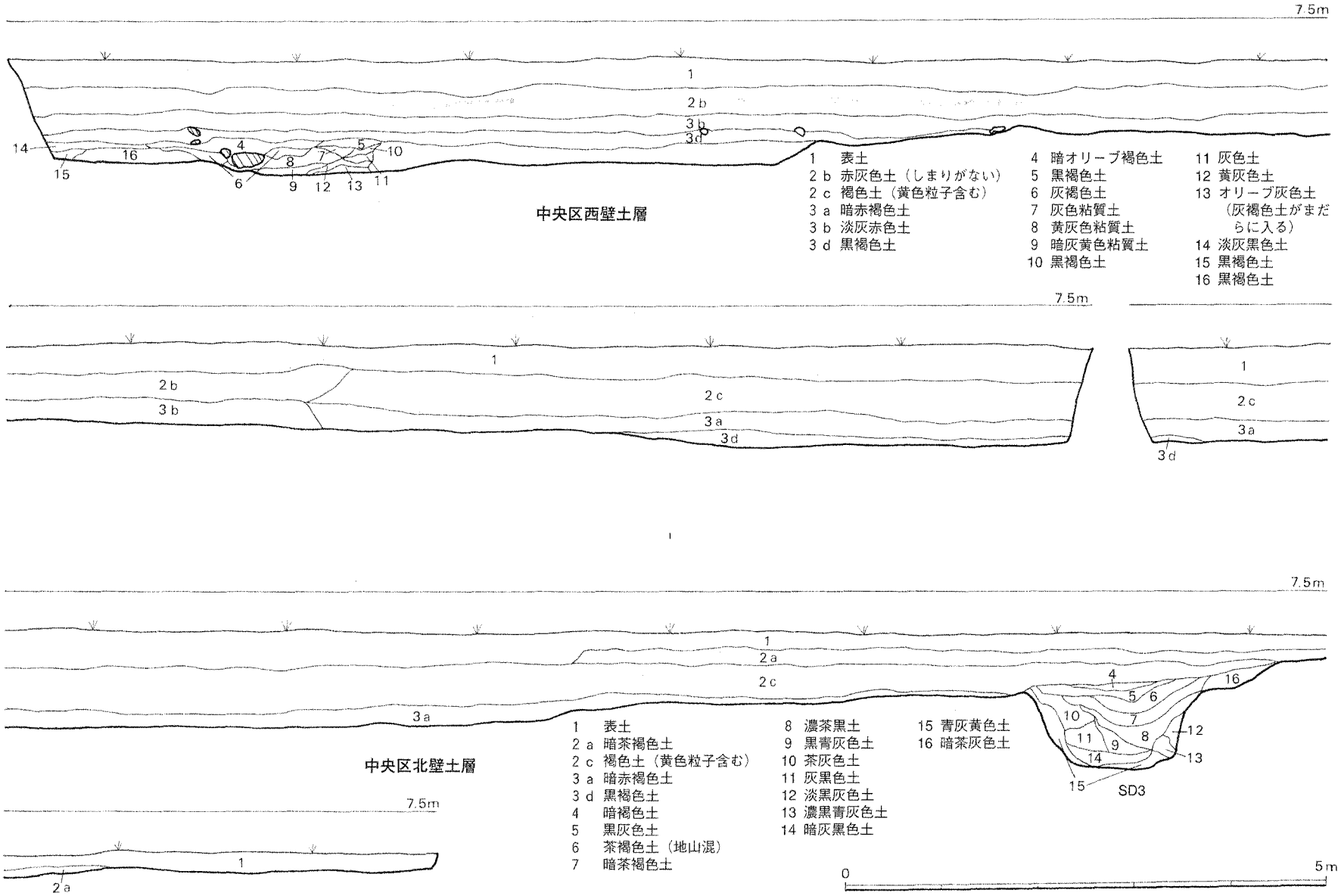
覆土は大きく４層に分けられ，Ｉ層は褐色土で，遺物はほとんど見られなかった。Ⅱ層は黒色土で，大量の土器が破棄されていた。出土遺物の時期は弥生時代後期後半から古墳時代初頭のものが多く見られ，楽浪系土器も含まれていた。Ⅲ層は暗灰褐色土で，下層には炭化物の層が見られた。弥生時代後期初頭から弥生時代後期後半の土器が多く見られた。Ⅳ層は灰茶褐色土で，弥生時代後期前半の土器が見られたが，Ⅱ・Ⅲ層に比べれば遺物の量は少なかった。

平成５年度の範囲確認調査で，今年度調査区南端の東側にこの溝の延長が確認されている。溝は南南東の方向へ延び，平成４年度の芦辺町の調査で確認された２号・３号溝の方向に向かっていく。この溝は原の辻の台地を取り巻く多重環濠の内濠にあたると思われる。

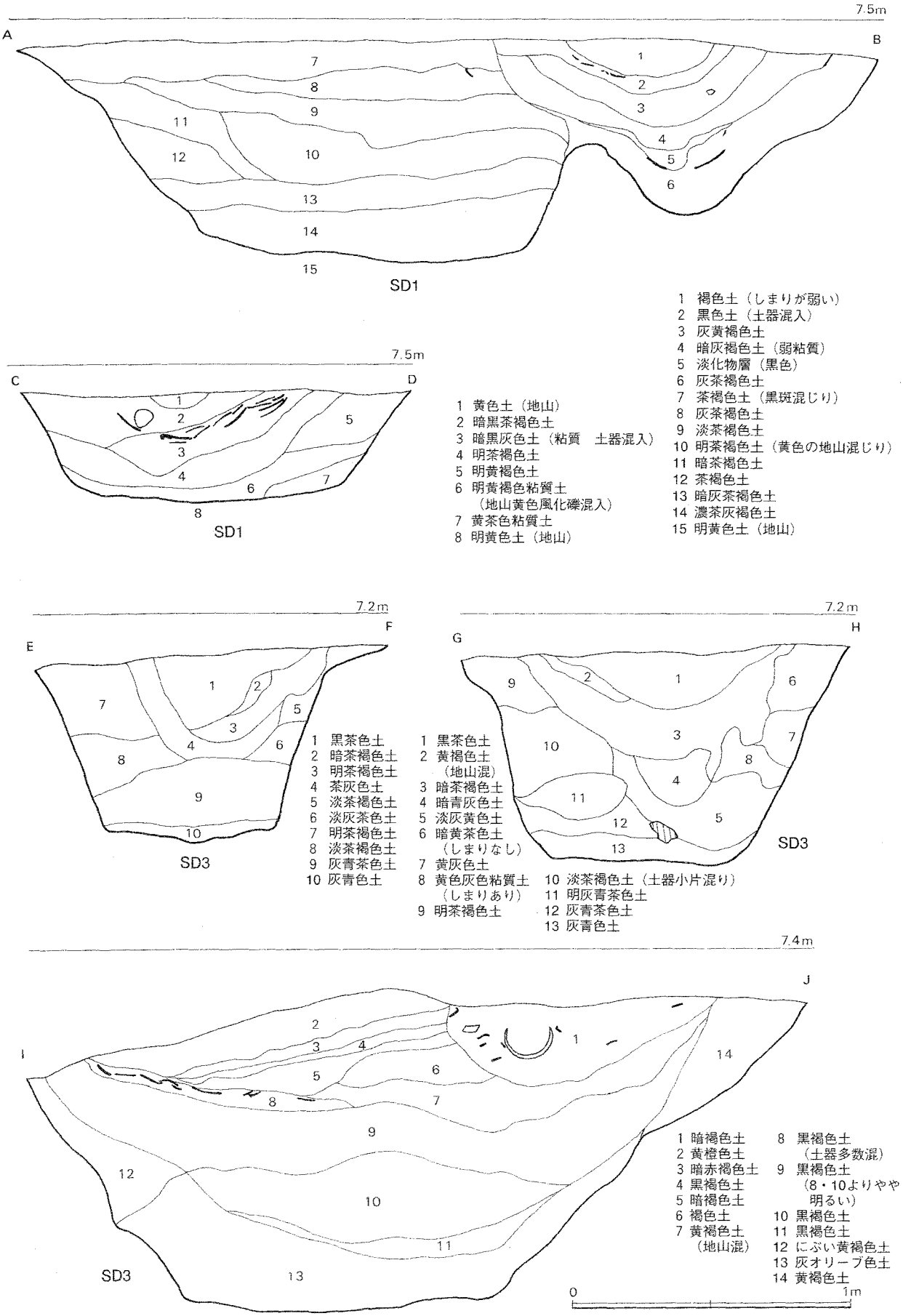
ＳＤ－１Ⅱ層土器



第6図　遺構配置図（1/120）



第７図　中央区西壁・北壁土層図（1/60）



第8図　ＳＤ１・ＳＤ３　土層図（1/20）

第9図　SD1　Ⅰ層（上図）・Ⅱ層（下図）遺物出土状況（1/40）

第10図　ＳＤ１　Ⅱ層・Ⅲ層　遺物出土状況（1/40）

甕形土器類（第11図，第12図　1～12）

1は弥生時代中期の須玖Ⅱ式土器で鋤形口縁部が垂下気味となることを特徴とする。2は口縁部を平坦となす中期後半の遺物である。3～12はくの字形口縁をなす弥生時代後期の資料である。

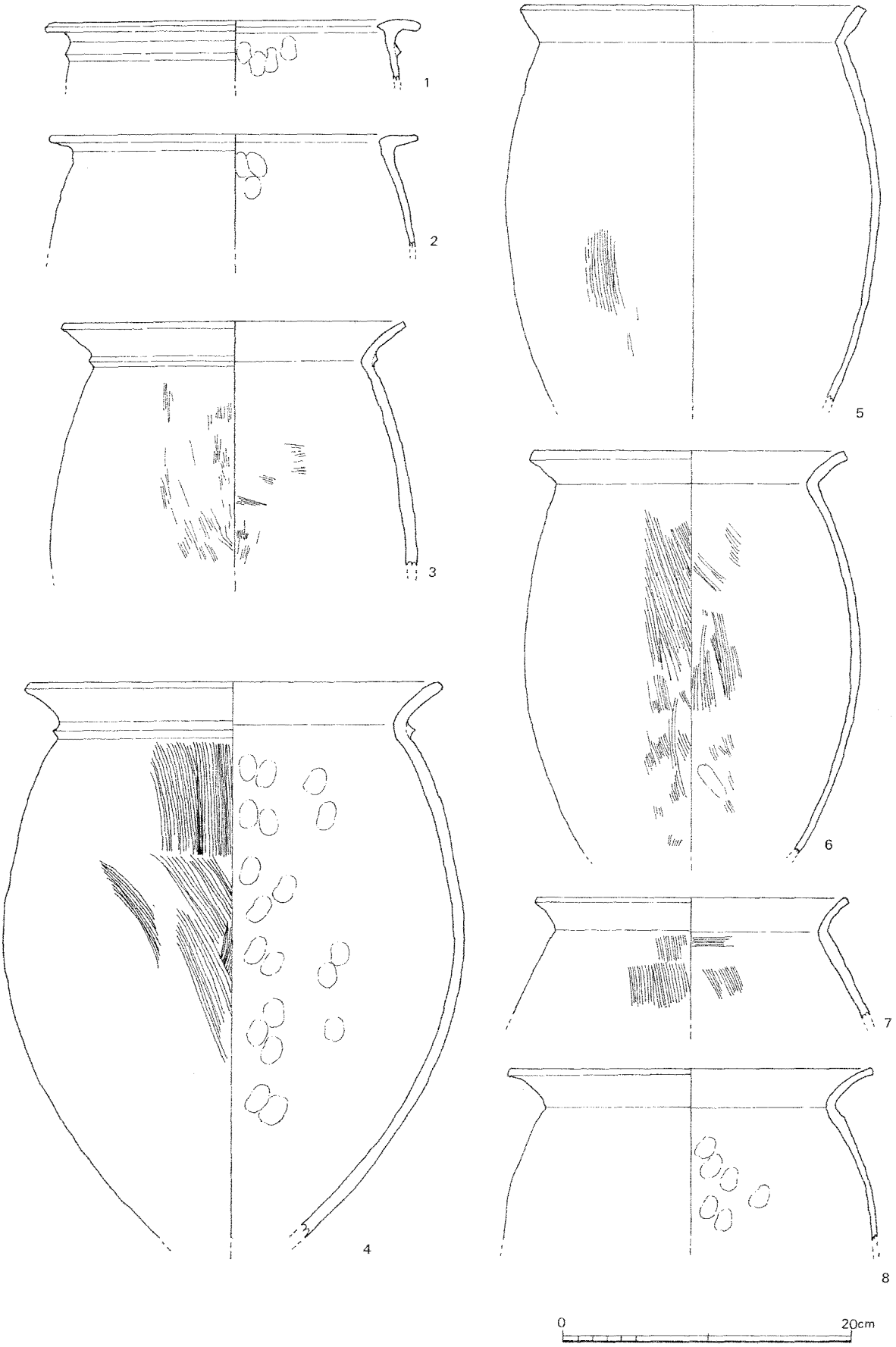
3は頸部付け根に一条の凸帯を付し，頸部から口縁部へ大きく外反する。口縁端部は平坦となす。4も同様に頸部に一条の凸帯を付している。頸部から口縁部にかけ大きく外反し，端部はやや丸味を持つ。土器の整形は内面は指押さえで外面は刷毛目による器面調整をおこなっている。5は頸部がしまり，やや厚味のある口縁部がくの字に立ち上がり端部は平坦となす。外面にわずかに刷毛目整形が残る。6は頸部が締まり口縁部は大きく外反する。胴部は長くなり最大径は胴部の中位にある。刷毛目調整が内外面に観察される。7は頸部で締まり，口縁部がやや薄手となって外反する。8は頸部が締まり，薄での口縁部が大きく外反する。9は頸部が締まり口縁部がくの字をなす。内外面に刷毛目調整のあとを残す。10は頸部から口縁部が直線的に伸び端部をやや摘み上げた整形をとる。11は頸部で締まり，大きく口縁部が外反する。12は，如意形口縁を思わせる頸部の屈曲をなす。口縁端部はやや丸味をもつ。

壺形土器類（第12図，第13図　13～25）

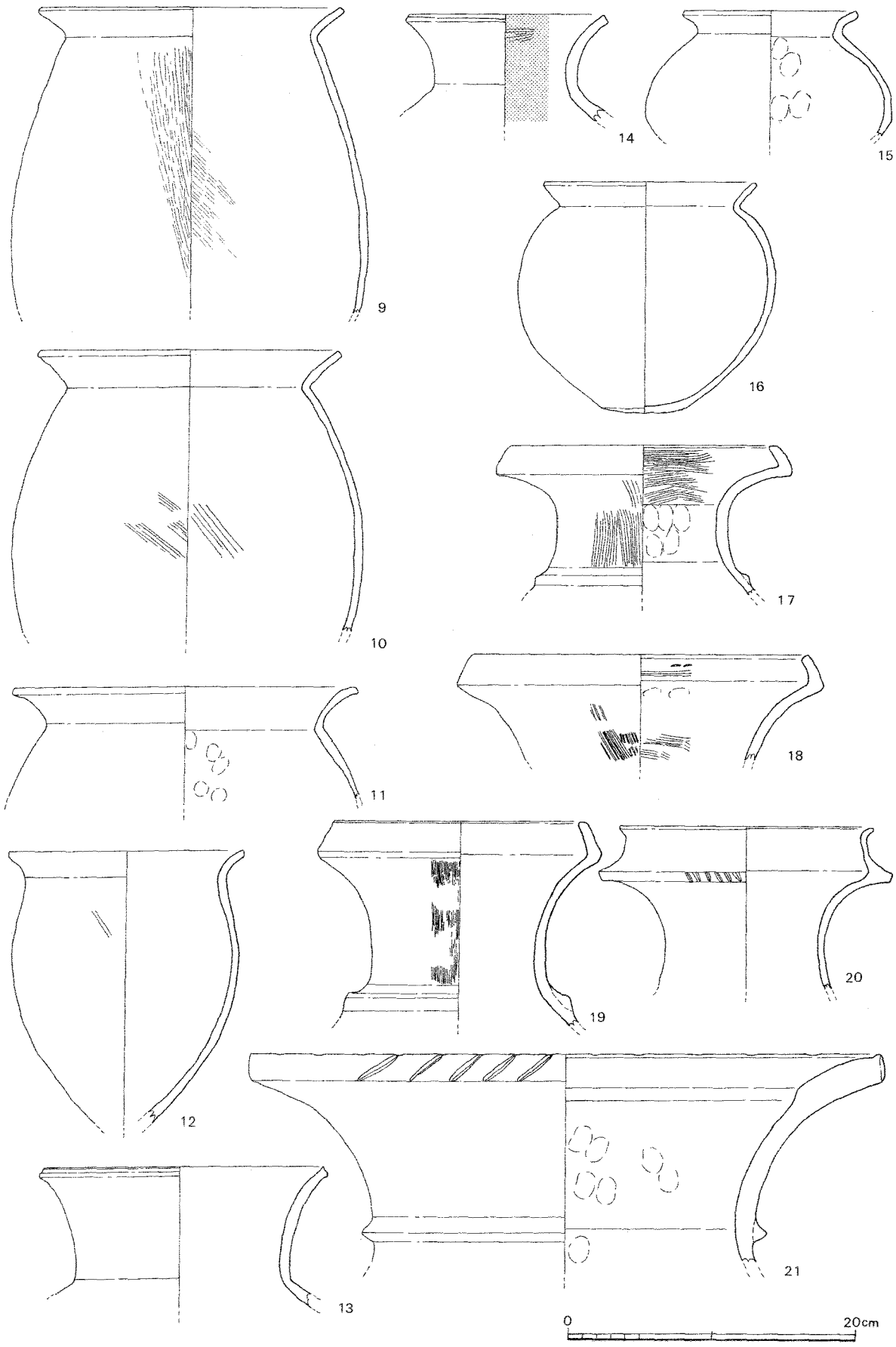
13は頸部から直立して口縁部中位で外反する。口縁端部に一条の沈線を巡らしている。14は，頸部の立ち上がりから大きく外反する。15は頸部が締まり口縁部の立ち上がり中位で外反する。内面に指押さえ整形の跡が付く。16は凸レンズ状の底部から，胴部やや上位に最大径をもって頸部に移行する。頸部は締まり，直線的な口縁部へ移行する。口縁端部は丸味をもつ。17は弥生中期の袋状口縁から脱した弥生後期の複合口縁の壺である。頸部下端に断面三角形の凸帯を有して立ち上がり，口縁部で大きく外反し，反転して口縁端部へ移行する。口縁部にやや丸味をもち，端部は平坦となす。18は口縁部の反転がやや直立気味となる。19は頸部下端に断面三角形の凸帯を付し，太い頸部が外反し口縁部は反転して直線的に上方へ移行する。口縁端部は平坦となす。20は頸部上端に刻目を付け，口縁端部がＳ状に屈曲する。21は大型壺で頸部に一条の三角形凸帯と口唇部に斜位の刻目を有する。内面口縁の下端に段ができる，内面整形に指押さえ痕がのこる。22は小型の壺類で底部が平坦からやや上げ底気味となる。23は頸部が締まり，口縁部が内湾気味に伸びる。口縁端部は丸く納める。24は長頸の壺類である。底部はほぼ平坦となし，胴部やや上位に最大径がある。頸部で締まり口縁部は直線的に外方へ伸びる。口縁端部は平坦となす。25はレンズ状の作りをなして安定感にかける。胴部中位に最大径がある。

鉢形土器類（第13図　26～31）

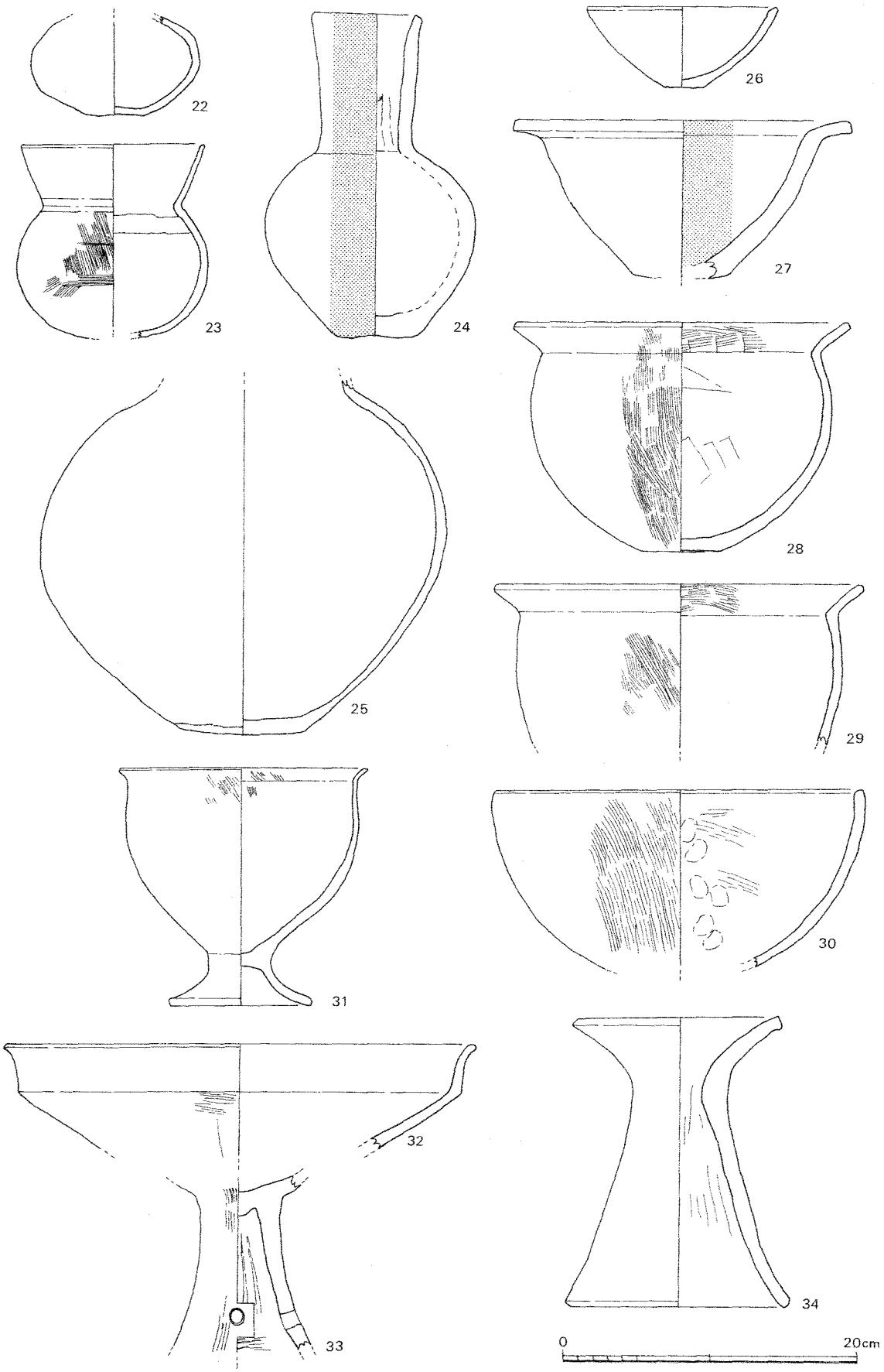
26は小型の鉢形土器。底部はほぼ平坦とし，内湾気味に口縁部へ伸びる。口縁端部はやや尖り気味となる。27は胴部から内湾して口縁部に移行する。口縁部は平坦からやや立ち気味となる。28は底部がやや上げ底ぎみとなし，胴部は丸く，頸部で締まり口縁部は直線的に外方へ伸びる。29は頸部で締まり口縁部が直線的に外方へ伸びる。内面は口縁部を刷毛目調整し，以下はナデ整形としている。また，外面は刷毛目調整としている。30は内湾する胴部から直接口縁部にいたる鉢。口縁端部は丸く納



第11図　ＳＤ１　Ⅱ層出土土器



第12図　ＳＤ１　Ⅱ層出土土器



第13図　ＳＤ１　Ⅱ層出土土器

める。外面は刷毛目調整し，内面の整形は指押さえ後に刷毛目調整としている。31は台付鉢類である。脚は外反した裾部の立ち上がりに体部は，内湾器形から胴部中位で直立し，口縁部で外反する。

高坏類（第13図　32・33）

32は高坏の坏部で立ち上がりは直線的に伸びて口縁部で外反する。口縁端部は丸く納める。33は高坏の脚で，上部の坏部と裾部を欠損する。内面はナデと裾部辺を刷毛目で調整し，外面は刷毛目調整としている。

器台類（第13図，第14図　34～39）

34は器台で裾部から直線的に内径し，頸部で厚味を持って屈曲し口縁部へ移行する。口唇部は平坦とする。35は内面頸部に明瞭な突きだしのある器台。裾部端を丸く納め上位で直立し頸部から口縁部外反する。外面は刷毛目整形を行う。36は口縁部に厚味をもつ器台。頸部で強く屈曲する。37は中位から器肉に厚味が増してくる。頸部で屈曲し，口縁端部は丸く納める。38は裾部と口縁部径の大きさが約１／２程度の比率となる器台。器形は裾部から外反しながら口縁部に移行する。

39は沓形器台で，中心部に径４㎝の円孔を製作当初から設けている。

舶載品（第14図　40～43）

40は口縁部に断面方形の粘土紐を貼り付け，頸部上端から緩やかに外反し下方へ移行する。器面は内外面ともに指整形後に刷毛目調整を行っている。器形状は楽浪系を意識した遺物と考えられる。41は口縁部に厚味をもった平坦口縁を製作している。整形は轆轤使用によって行っており，轆轤痕が胴部にのこる。非常に薄い器肉で２㎜内外とし，色調は灰色を呈する。42は41と同様の鉢形瓦質土器である。轆轤整形痕が明瞭に付く。43は瓦質土器で底部中央がやや上げ底ぎみとなり，明瞭な轆轤痕を残す。41～43はいずれも楽浪系の遺物である。

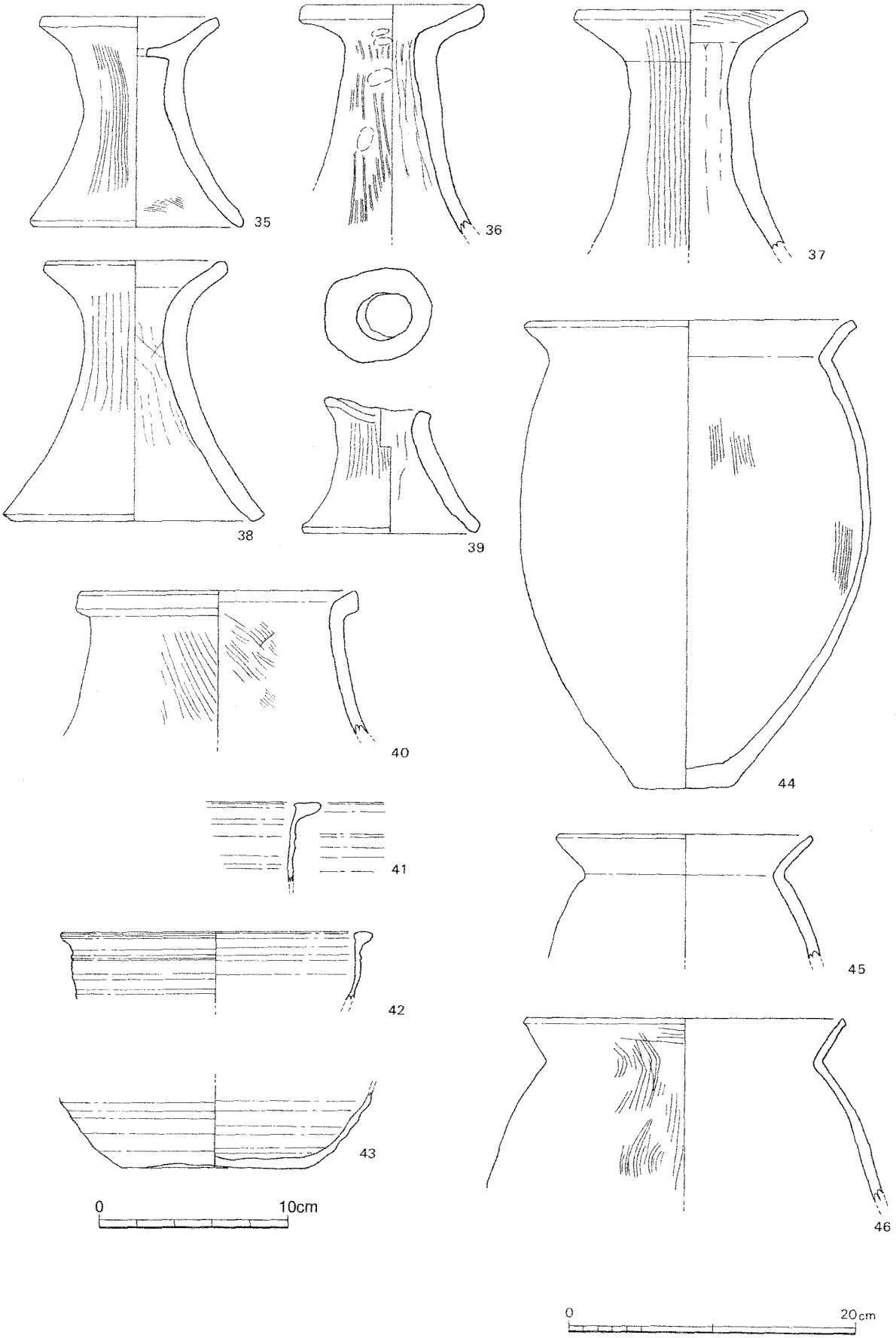
ＳＤ－１Ⅲ層土器

甕形土器類（第14図　44～46）

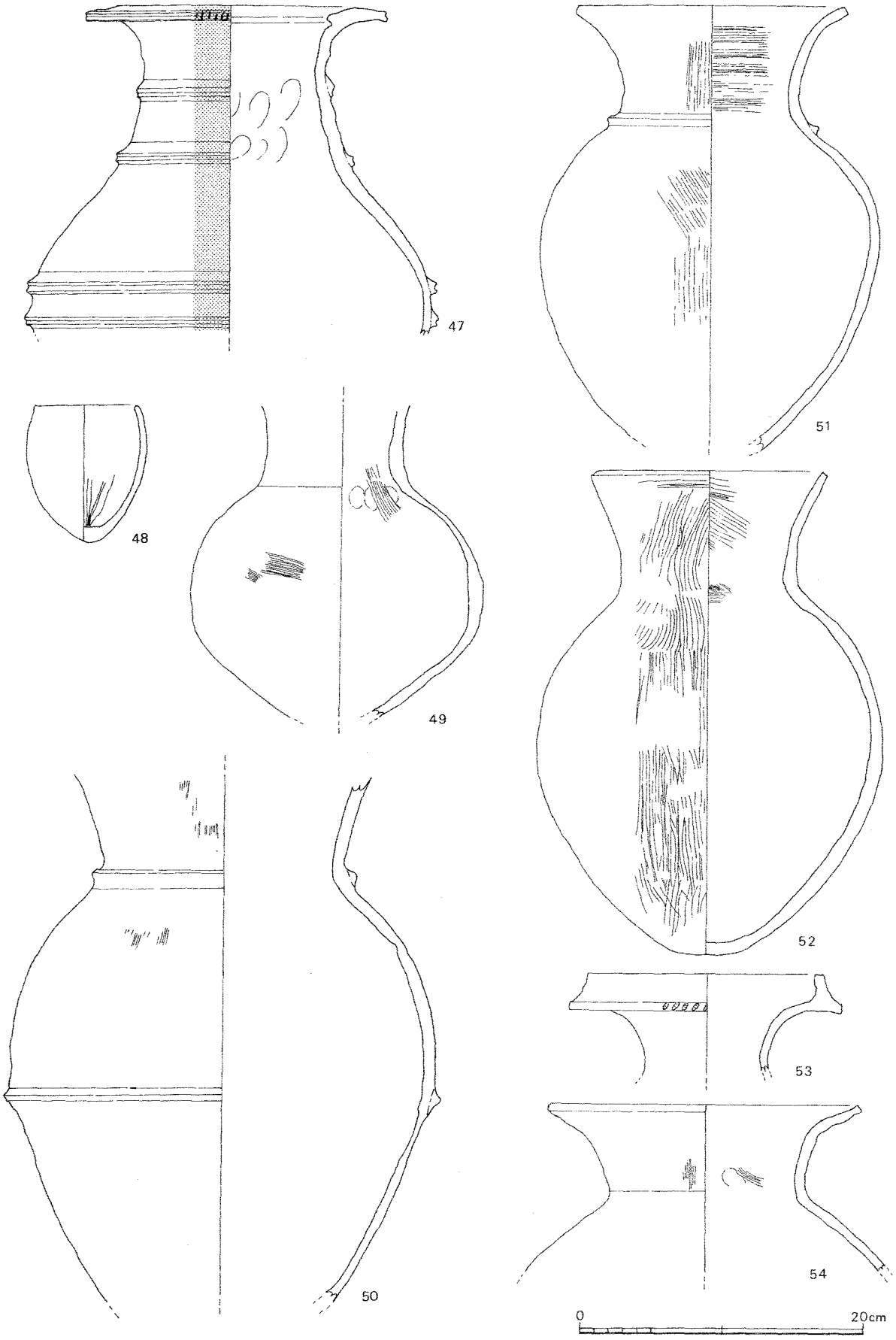
44はくの字口縁の甕である。底部がレンズ状に丸味を帯び始めている。胴部中位から上位部に最大径があり，頸部で締まり口縁部は頸部から直線的に外反する。45は口縁部の中位からやや屈曲して伸びる。46は頸部で締まり，口縁両端部に厚味をもつ。

壺形土器類（第15図　47～54）

47は弥生中期の丹塗り壺。肩部に丸味をもって頸部に移行し，口縁部は内面端が突きだした鋤形口縁で垂下気味となっている。M字凸帯が肩部・頸部にそれぞれ二条付している。口唇部は刻みと沈線を巡らしている。48は尖り底の底部を有する小型壺・尖り底から内湾して口縁部に移行する。口縁端部は丸く納める。49は胴部中位に最大径のある壺。頸部の器肉が厚く外反気味に口縁部へ伸びる。50は胴部中位と頸部に断面三角形の凸帯をそれぞれ一条巡らす土器。51は頸部に断面三角形の凸帯を一条巡らす土器。レンズ状の底部になると思われるが消失している。形状は，胴部の上位に最大径があり頸部で締まり，頸部から外反しながら口縁部に移行する。口縁部の内面は横位の刷毛と外面胴部に斜位の刷毛目を観察する。52はレンズ状の底部をなし，胴部中位上に最大径をもつ壺。頸部で締まり



第14図　ＳＤ１　Ⅱ・Ⅲ層出土土器（40～43は1/3，その外は1/4）



第15図　ＳＤ１　Ⅲ層出土土器

直線的に口縁部が外反して伸びる。口縁端部は平坦としている。53は二重口縁壺。口縁部が直立し端部は平坦としている。頸部上端に刻目を付けている。54は頸部から外傾気味に立ち上がり口縁部でさらに外反する器形となす。口縁端部は平坦としている。

器台類（第17図　55～60）

55は頸部で屈曲する器台。屈曲部が上位にあり口縁端部はコ字状となし裾部端は丸味をもつ。56は屈曲部が上位にあり，裾部中位から頸部にかけて器肉に厚味を増す。57は裾部から頸部に内傾し上位で器肉に厚味を増し，外反して口縁部へ移行する。58は裾部に膨らみをもって内傾し脚部中位で直立し頸部上位で外反しだす。59は頸部に厚味をもち口縁部は薄手にし，口縁端部は摘み上げ整形の形状となす。60は裾部端に厚味をもって立ち上がり外反して口縁端部を丸く納める。

舶載品（第17図　61）

61は平底の瓦質土器。底部からの立ち上がり内湾して胴部上位で直線的に立ち口縁部へ移行する。口縁部は平坦となしている。轆轤整形痕が明瞭に残る。

ＳＤ－１Ⅳ層土器

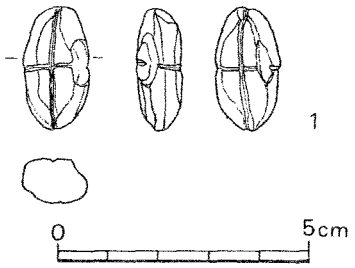
甕形土器類（第17図　62～64）

62は胴部上位に最大径のある土器。器形は胴部の丸味から頸部で締まり直線的に口縁部へ移行する。63は頸部で締まり口縁部が直線的に伸びる。口縁端部がやや摘み上げ整形の形状に近い。64は平底の底部から胴部上位で最大径となり，頸部で締まり直線的に口縁部へ移行する。口縁端部は丸く納める。

ＳＤ－１　Ⅰ層石器（第16図　1）

1は頁岩製の石錘。正裏面を縦位と横位に切り込みを入れて紐掛かりを作出し，紐が取れないよう加工をしている。

また正裏面の上面は平坦に仕上げている。

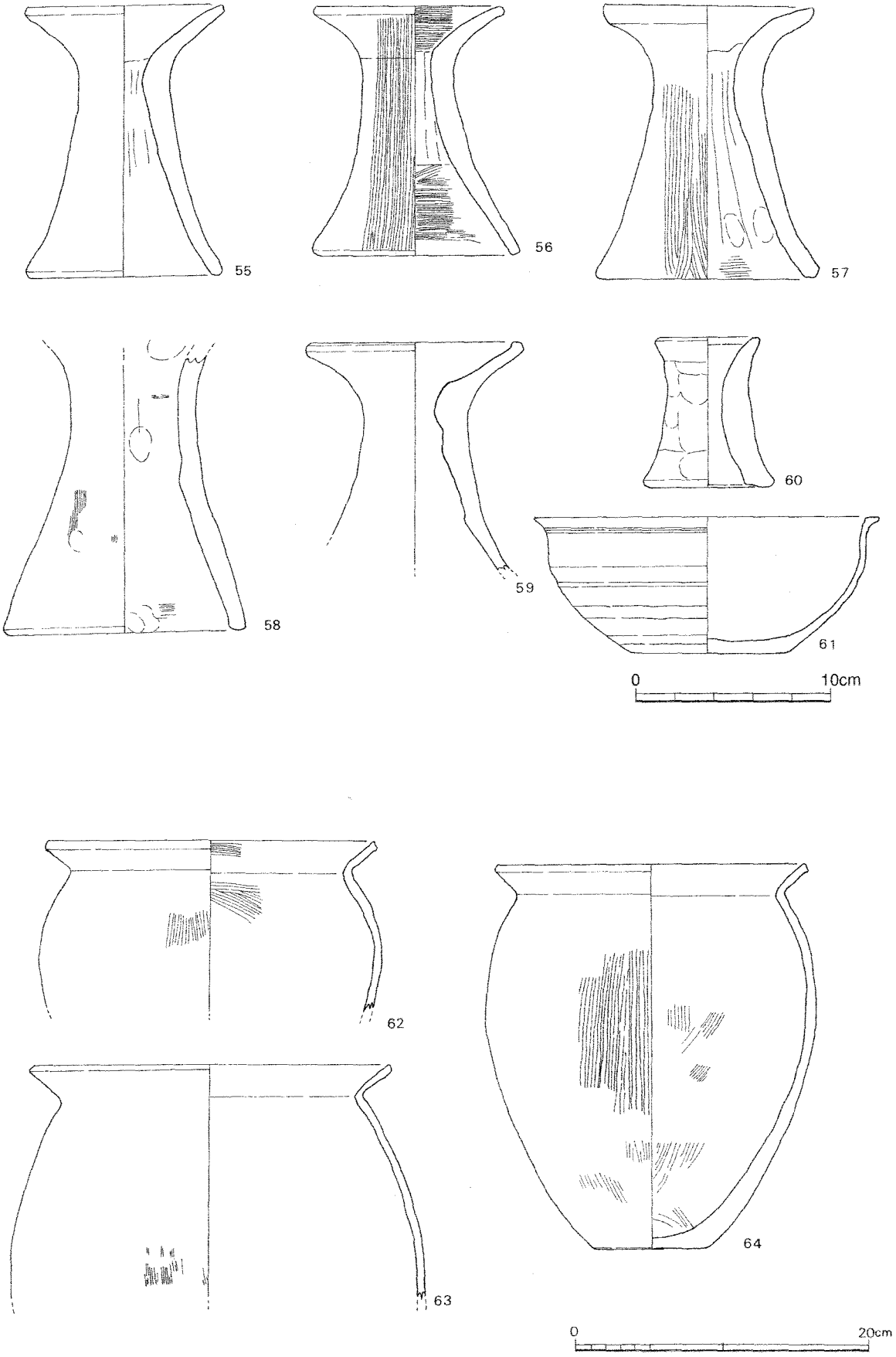


第16図　ＳＤ１　Ⅰ層出土石器

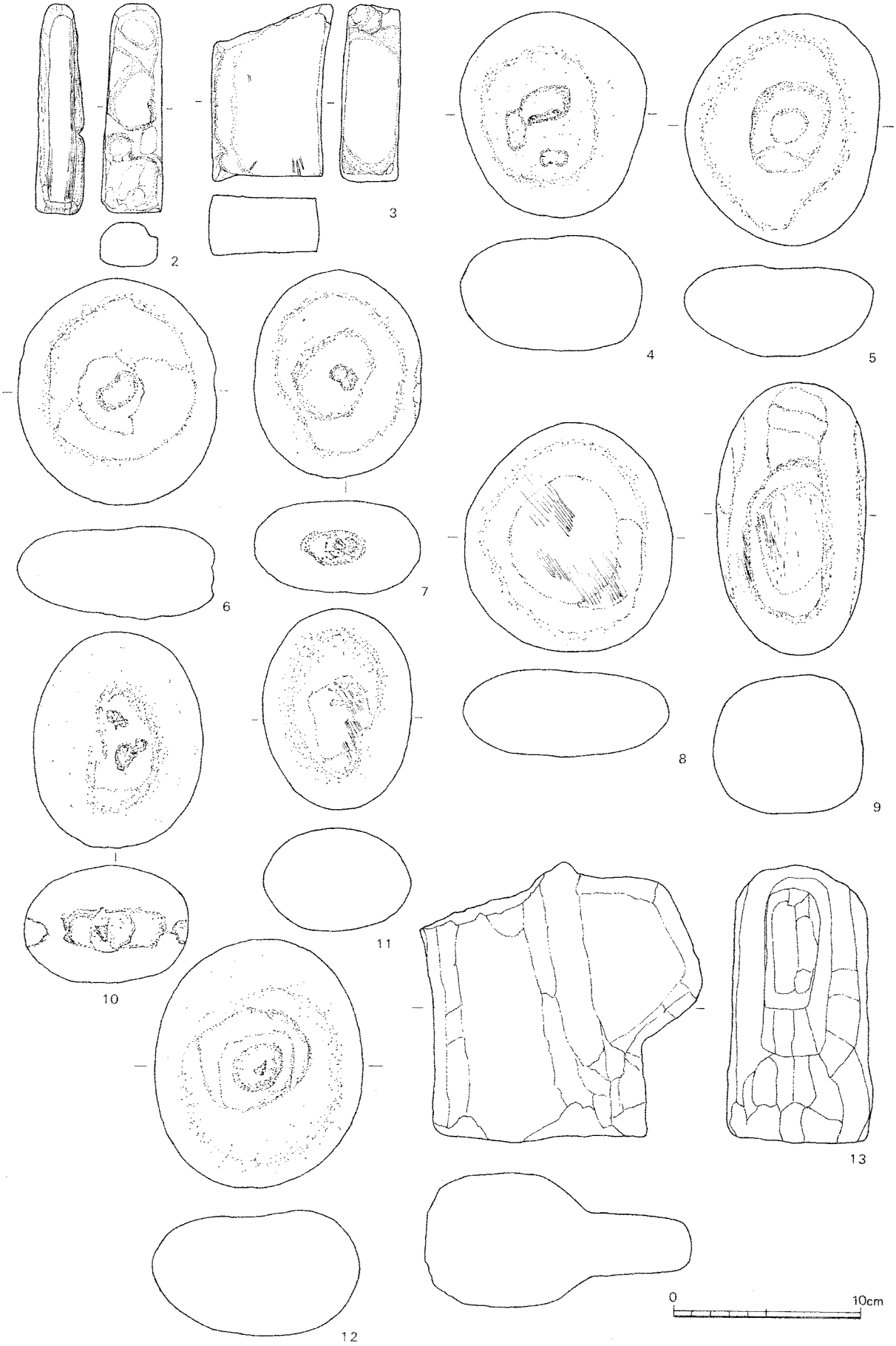
ＳＤ－１　Ⅱ層石器（第18図　2～13）

2は仕上げ用の砥石。きめの細かい粒子の砂岩を用いている。図の左側面のみがスベスベに研ぎ出されていてその他は未使用である。3は正裏面と右側面を使用した砂岩製の砥石。右側面の使用頻度がたかく外湾し中央が鞍部となっている。砂岩の粒子はやや粗い。4は正面を凹石として使用し裏面はスリ石として用いている。玄武岩製。5は正面を凹石，裏面を叩き石として使用している。玄武岩製。6は正裏面を凹石として使用する。玄武岩製。7は正裏面及び上下端・左右側面を叩き石として使用。8は正面をスリ石として使用し，裏面を叩き石として使用している。9は正面の中央が鞍部となっているスリ石。裏面は敲打痕があり叩き石として使用したと考えられる。10は正面を叩き石として使用し，裏面をスリ石として使用している。11は正裏面をスリ石として使用している。12は正面を凹石として使用し，裏面は叩き石として使用している。13は取手付きの支脚石。火を受けているためか表面が赤味を帯びている。下部は接地面を考慮して平坦に作り，正面・側面・取手部分は入念な鑿状工具による加工を施している。上部は欠損している。

第６図　遺構配置図（1/120）



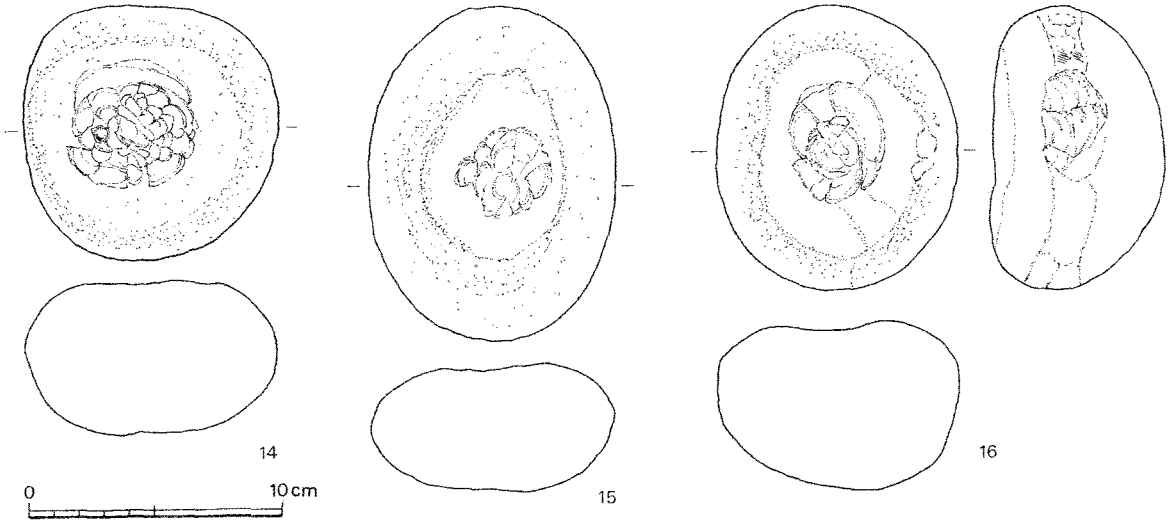
第17図　ＳＤ１　Ⅳ層（61は1/3，その外は1/4）



第18図　ＳＤ１　Ⅱ層出土石器

ＳＤ－１　Ⅲ層石器（第19図　14～16）

14は正裏面ともに叩きによる凹痕が観察される。15は正面の中央に約3.9cmの凹が残り，裏面は叩き石として使用している。16は正面中央部を凹石として使用し，側面全周を叩き石として使用している。



第19図　ＳＤ１　Ⅲ層出土石器

●ＳＤ－２（第６図，第20図，第21図）

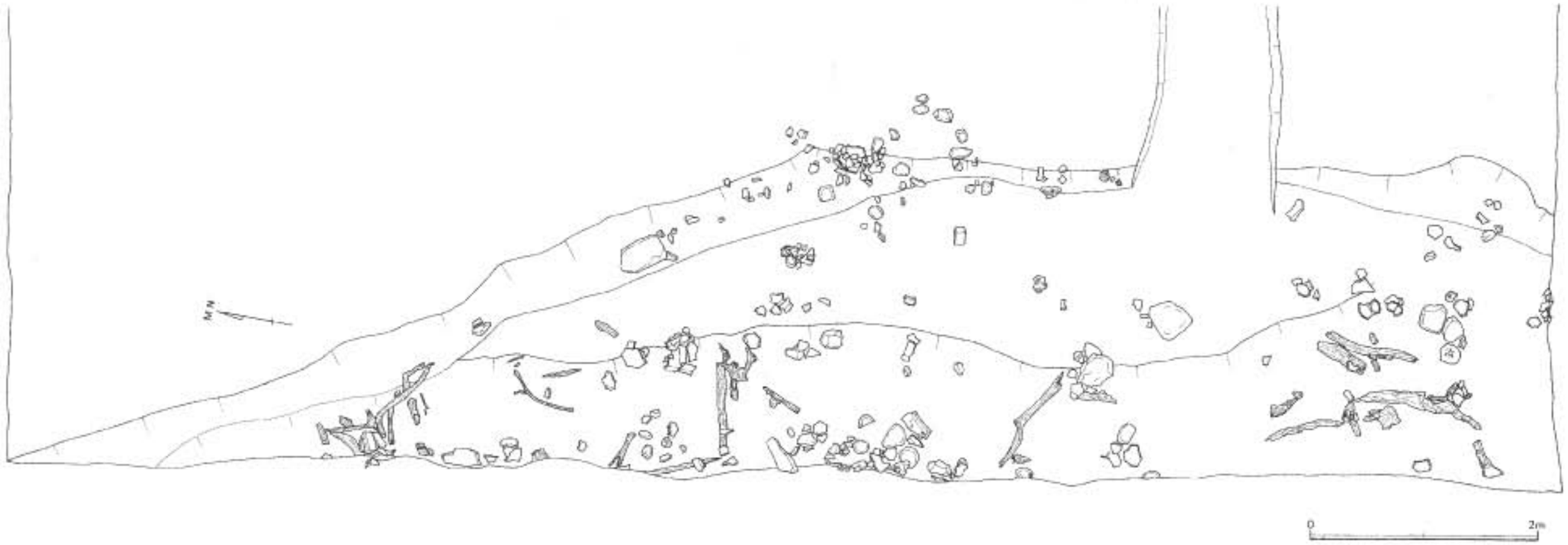
南区西壁にそって溝の東岸を長さ約13m確認した。南区北側で溝は北西の方向にゆるやかにカーブしていく。今年度の調査で溝の幅は確認できなかったが，平成５年度の範囲確認調査の結果ではこの溝の幅は約６ｍである。溝は東岸からゆるやかに傾斜し，途中で一段深くなる。確認できたところで深さ約１ｍを測る。覆土は大きく３層に分けられ，Ⅰ層は上面が淡灰黒色土で比較的遺物は少量であった。Ⅰ層下面は黒色土で主に布留式土器・土師器などの古墳時代初頭の土器が出土した。また切子玉未製品や鍛造鉄斧も出土した。Ⅱ層は黒色砂質土で弥生時代終末期から古墳時代前期の土器に混じって三韓系瓦質土器や人面石も出土した。Ⅲ層は茶褐色の腐植土で，流木に混じって弥生時代後期中頃から弥生時代終末の土器が出土している。遺物の出土状況から古墳時代前期にこの溝は埋まったと思われる。また，遺物状況・覆土の堆積状況からはこの溝を濠とすべきか旧河道とすべきか判然とせず，その点の判断は今後の調査の結果にゆだねたい。しかし，大量の土器が破棄されている状況から，外濠としての機能を持っていた可能性も伺える。

ＳＤ－２　Ⅰ層下土器

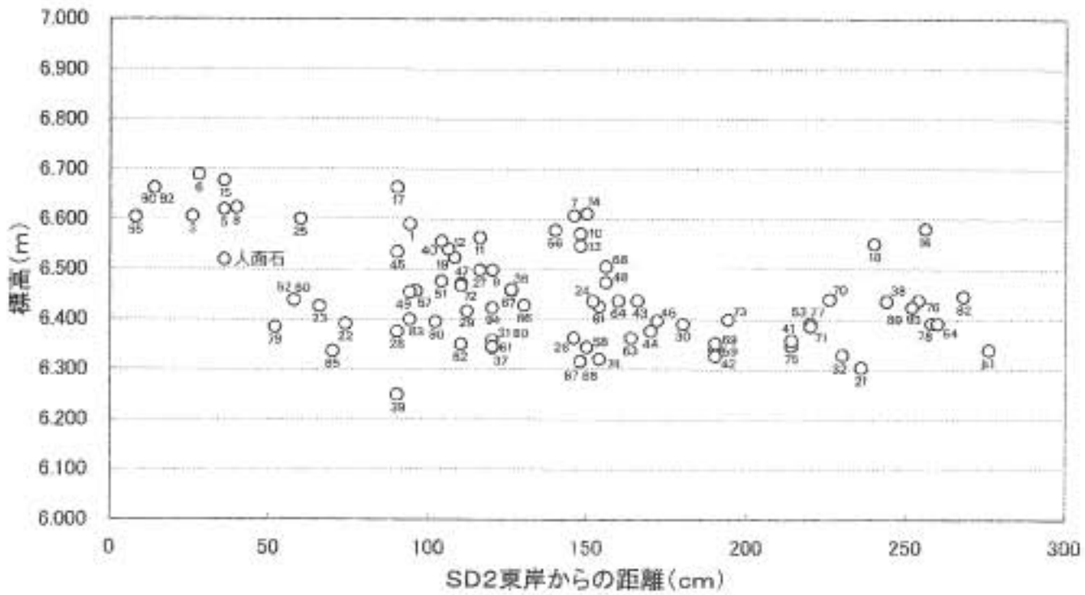
甕形土器類（第24図　１～６）

１は胴部の中位から上位にかけて最大径のある土器。頸部から口縁が外反し，端部は丸く納める。器面は内外面共に刷毛目の整形を施す。２は胴部の上位に最大径があり，頸部で締まり口縁部は直線

第20図　ＳＤ２　Ⅰ層（上図）・Ⅱ層（下図）遺物出土状況（1/40）

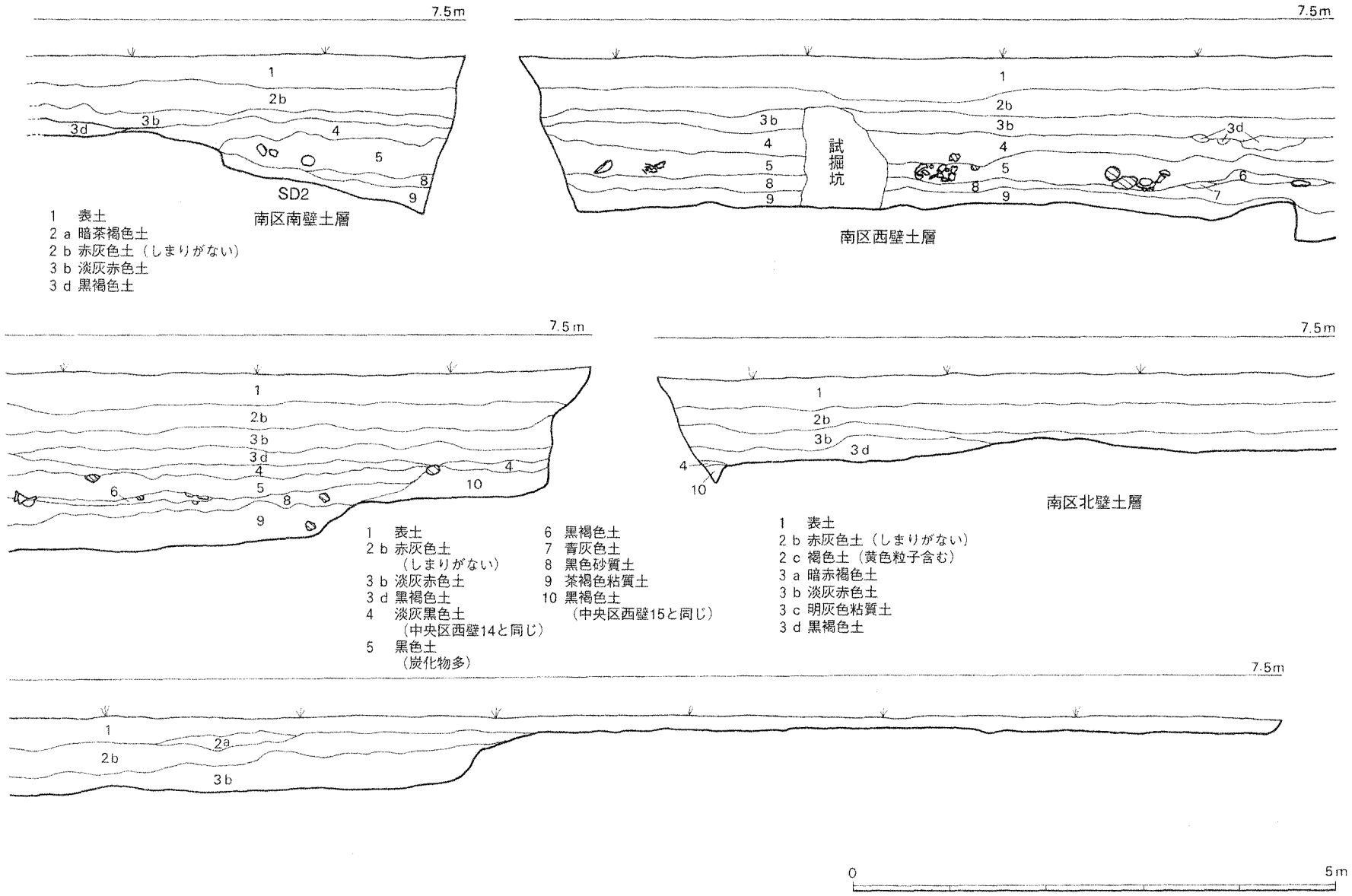


第21図　ＳＤ２　Ⅲ層　遺物出土状況



※図22中の番号はＰ35表２中報告書番号に対応。

第22図　南区　ＳＤ２　報告書掲載遺物　出土状況



第23図　南区南壁・西壁・北壁　土層図（1/60）

中央区　ＳＤ１

取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル	取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル	取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル	取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル
Ⅱ	1		7.149	Ⅱ	51		7.271	Ⅲ	101	45	7.002	Ⅲ	151	2	7.018
	2		7.140		52		7.252		102		6.928		152		7.020
	3	22	7.028		53	29	7.285		103		6.904		153		7.035
	4	30	7.122		54		7.148		104	49	6.929		154		7.122
	5		7.015		55		7.254		105	55	7.027		155	46	7.165
	6		7.110		56	18	7.272		106		6.938		156	53	7.130
	7	10	7.152		57		7.424		107	51	7.116		157		7.165
	8	37	7.130		58		7.393		108		7.012		158		7.055
	9	34	7.203		59	32	7.150		109	57	6.930		159		7.130
	10		7.195		60		7.308		110		6.948		160		7.150
	11		7.108		61		7.374		111		7.006		161		7.150
	12		7.177		62		7.297		112		6.917		162		7.173
	13		7.112		63	28	7.185		113		6.932		163		6.924
	14		7.040		64		7.206		114	52	7.013		164		7.193
	15	36	7.267		65		7.312		115		7.115		165		7.114
	16		7.190		66		7.350		116		7.200		166		7.150
	17	38	7.266		67		7.375		117		7.165		167		7.155
	18	31	6.936		68		7.187		118		6.985	Ⅳ	168	63	7.041
	19	25	6.910		69		7.152		119		7.095		169		6.972
	20	15	6.990		70		7.132		120		6.997		170		6.680
	21	20	7.235		71	27	7.114		121		6.963		171		7.000
	22		7.210		72		7.250		122		6.990		172	62/64	6.980
	23		7.300		73		7.158		123		7.062		173		6.929
	24	50	7.217		74		7.158		124		7.165		174		6.984
	25	35	7.094		75		7.242		125		7.160		175		7.085
	26	9	7.190		76	59	7.310		126	23/54	7.038		176		7.038
	27	16	7.050		77		7.305		127		7.053				
	28	4	8.700		78		7.258		128		7.083				
	29	6	7.215		79		7.317		129		7.020				
	30	21	7.180		80		7.285		130		7.080				
	31		7.120		81		7.376		131		7.110				
	32	26	7.172		82		7.342		132		7.150				
	33	12	7.099		83	24	7.206		133		7.145				
	34		8.700		84		7.349		134		7.105				
	35	39	7.069		85		7.342		135		7.117				
	36	14	7.190		86	33	7.404		136		7.110				
	37		7.099		87	5	7.340		137	48/58	7.136				
	38	17	7.109		88		7.360		138		6.965				
	39		7.110		89		7.389		139		7.027				
	40	13	7.130		90		7.330		140		7.170				
	41	3	7.113		91		7.378		141	56	7.190				
	42		7.295		92		7.392		142		6.955				
	43		7.188		93		7.392		143		7.132				
	44	8	7.165		94		7.390		144		6.905				
	45	11	7.159		95		7.340		145	47/60	6.860				
	46	7	7.178		96		7.423		146		6.505				
	47		7.220		97		7.425		147		7.077				
	48	1	7.184		98	19	7.215		148		7.165				
	49		7.250	Ⅲ	99		7.148		149		6.947				
	50	40	7.186		100		7.083		150	44	7.082				

中央区　ＳＤ４

取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル
Ⅰ	1		7.062
	2	4	7.319
	3	7/8	7.390
	4		7.409
	5		7.317
	6	3	7.265
	7	2/5	7.291
	8		7.250
	9	6	7.087
	10		7.192
	11	1	7.275

表１　Ｐ番号取りあげ遺物　レベル表①

南区　ＳＤ２

取上層位	P番号	報告書番号	レベル	取上層位	P番号	報告書番号	レベル	取上層位	P番号	報告書番号	レベル	取上層位	P番号	報告書番号	レベル	取上層位	P番号	報告書番号	レベル	取上層位	P番号	報告書番号	レベル
	1	3	6.605		51		6.591		26		6.571		76	27	6.498		126		6.510		148		6.270
	2		6.573		52		6.490		27		6.453		77	80	6.395		127		6.456		149		6.229
	3		6.553		53		6.531		28		6.425		78	74	6.320		128		6.415		150		6.554
	4		6.519		54	18	6.551		29		6.454		79		6.430		129		6.473		151		6.490
	5		6.507		55		6.537		30		6.523		80	42	6.326	Ⅱ	130		6.437	Ⅲ	152		6.431
	6		6.483		56		6.562		31		6.525		81	54	6.391		131		6.626		153		6.543
	7		6.651		57		6.531		32	57	6.456		82		6.469		132		6.480		154		6.264
	8		6.567		58		6.600		33	61	6.345		83		6.425		133		6.451		155		6.374
	9	9	6.498		59	12	6.540		34		6.400		84	82	6.446		134		6.518		156		6.626
	10		6.636		60		6.610		35		6.347		85		6.426		135	64	6.437				
	11		6.619		61		6.626		36		6.347		86	53/77	6.392		108	86	6.428				
	12		6.467		62	8	6.623		37	63	6.362		87		6.416		109		6.418				
	13		8.171	Ⅰ	63	15	6.677		38	46	6.397		88	70	6.440		110		6.198				
	14		6.461		64	6	6.689		39		6.496		89		6.434		111		6.337				
	15		6.655		65		6.658		40		6.370		90		6.457		112		6.417				
	16		8.171		66		6.620		41	32	6.328		91		6.416		113	87/88	6.316				
	17		6.633		67		6.597		42		6.414		92		6.452		114		6.264				
	18		6.589		68	17	6.663		43	68	6.505		93	75	6.346		115		6.242				
	19		6.573		69		6.589		44	25	6.600		94		6.353		116		6.258				
	20		6.665		70	5	6.619		45	49	6.454		95	21	6.303		117		6.048				
	21		6.623		71		6.622		46	79	6.384		96	71	6.386		118		6.370				
	22		6.610		72		6.653		47	83	6.399		97		6.384		119		6.272				
	23		6.584		73		6.603		48	67	6.459		98	41	6.358		120		6.204				
	24		6.561		74		6.760		49		6.382		99		6.450		121		6.280				
Ⅰ	25	11	6.563		75		6.642	Ⅱ	50		6.394	Ⅱ	100	69	6.352		122		6.380				
	26		6.638		1		6.377		51		6.422		101		6.332		123		6.347				
	27		6.591		2	39	6.249		52	73	6.399		102	22	6.390		124		6.380				
	28	7	6.607		3		6.370		53		6.440		103	28	6.375		125	94	6.422				
	29		6.616		4		6.433		54	59	6.340		104		6.464		126		6.228				
	30		6.561		5		6.347		55		6.432		105		6.521	Ⅲ	127	81	6.339				
	31		6.590		6	37	6.343		56		6.572		106		6.572		128		6.392				
	32		6.569		7		6.457		57		6.465		107		6.538		129		6.346				
	33	16	6.581		8		6.494		58	76	6.438		108		6.493		130		6.362				
	34		6.550		9		6.365		59	78	6.392		109	47	6.471		131		6.572				
	35		6.504		10		6.390		60	24	6.436		110		6.485		132		6.579				
	36		6.506		11	62	6.350		61		6.362		111	38	6.436		133	90/92	6.662				
	37	10	6.571		12		6.397		62		6.336		112	48	6.474		134		6.477				
	38	14	6.611	Ⅱ	13	31/50	6.358		63		6.449		113	72	6.467		135		6.550				
	39		6.607		14	26	6.363		64		6.393		114		6.474		136		6.308				
	40	19	6.523		15	81	6.425		65	55	6.604		115	51	6.476		137		6.357				
	41	1	6.590		16		6.387		66		6.495		116	56	6.578		138		6.460				
	42		6.651		17		6.346		67		6.431		117	40	6.555		139		6.544				
	43		6.625		18		6.351		68	23	6.425		118		6.487		140		6.601				
	44		6.635		19		6.386		69	52/60	6.438		119		6.496		141		6.374				
	45	13	6.547		20	30	6.390		70		6.434		120		6.577		142	93/89	6.424				
	46		6.653		21	44	6.376		71		6.469		121	45	6.534		143		6.202				
	47		6.650		22	58	6.344		72		6.415		122		6.498		144		6.414				
	48		6.628		23	29	6.416		73		6.457		123	43	6.437		145		6.498				
	49		6.567		24	36	6.457		74		6.525		124		6.419		146		6.278				
	50		6.525		25		6.473		75		6.530		125		6.475		147		6.462				

表２　Ｐ番号取りあげ遺物　レベル表②

北区　ＳＤ３

取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル	取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル	取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル	取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル	取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル
Ⅰ	1		7.184	Ⅰ	51		7.306	Ⅱ	101		7.190	Ⅱ	151	27	6.861	Ⅱ	201		7.042
	2		7.084		52		7.326		102		7.254		152		6.927		202		6.948
	3	9	7.160		53		7.372		103		7.121		153		6.889		203		6.948
	4		7.250		54		7.273		104		7.044		154		6.932				
	5		7.170		55		7.272		105		7.247		155		7.038				
	6	19	7.184		56		7.270		106		7.120		156		6.967				
	7		7.124		57		7.288		107		7.278		157	25	6.746				
	8		7.120		58		7.331		108		7.179		158		6.807				
	9		7.158		59		7.302		109		7.179		159		6.749				
	10	42	7.161		60		7.154		110	22	7.066		160	47	6.882				
	11		7.078		61		7.098		111		7.065		161	38	6.724				
	12	15	7.132		62		7.272		112		7.013		162	37	6.552				
	13		7.236		63		7.004		113		7.157		163	29	6.717				
	14		7.108		64		7.146		114		7.155		164		6.783				
	15		7.086		65		7.106		115	13	7.152		165	36	7.023				
	16	7	7.077		66	4	7.259		116	12	7.021		166	28	6.894				
	17		7.052		67		7.203		117	16	6.927		167	44	6.988				
	18		7.092		68		7.265		118		6.913		168		7.067				
	19		7.090		69		7.288		119		6.949		169		6.804				
	20		7.096		70		7.227		120	1	6.970		170		6.867				
	21		7.098		71		7.327		121		6.993		171	31	6.903				
	22		7.220		72		7.260		122		6.971		172		7.024				
	23		7.124		73		7.076		123	10	6.928		173		6.983				
	24		7.076		74		7.284		124		6.997		174		6.931				
	25	23	7.121		75		7.262		125		7.040		175	40	6.870				
	26		7.098		76	20	7.220		126		7.015		176		7.175				
	27		7.141		77		7.196		127		6.958		177	34	7.076				
	28		7.159	Ⅱ	78	3	7.250		128		6.906		178	26	6.953				
	29		7.062		79		7.138		129		6.907		179		6.918				
	30	2	7.071		80		7.092		130		6.950		180		6.950				
	31		7.069		81		7.104		131		6.880		181	24	7.012				
	32	6	7.160		82		7.082		132		6.908		182		6.968				
	33		7.090		83		7.044		133		6.957		183		6.973				
	34	17	7.026		84	21	7.076		134		6.934		184	32	6.997				
	35		7.102		85		7.236		135		7.318		185	41	7.120				
	36		7.067		86		7.042		136		6.945		186		6.991				
	37		7.200		87		7.323		137		6.958		187		7.078				
	38		7.053		88		7.288		138		6.867		188	46	7.172				
	39		7.137		89		7.333		139	33	6.910		189	30	7.137				
	40		7.248		90		7.305		140		6.790		190		6.944				
	41		7.292		91		7.295		141		6.801		191		7.106				
	42	8	7.245		92	5	7.318		142		6.676		192		7.007				
	43		7.321		93		7.275		143		6.943		193	48	7.013				
	44		7.270		94		7.237		144		6.727		194		6.925				
	45		7.361		95		7.260		145		6.850		195	49	6.963				
	46		7.358		96	14	7.235		146		6.919		196		6.945				
	47		7.295		97		7.234		147		6.775		197		6.998				
	48		7.284		98		7.143		148	35	6.918		198		6.988				
	49		7.239		99	18	7.132		149		6.789		199		7.004				
	50		7.330		100		7.251		150		6.786		200	45	7.080				

中央区　ＳＤ３

取上層位	Ｐ番号	報告書番号	レベル
Ⅱ	1		6.900
	2		6.908
	3		6.966
	4		7.070
	5		7.068
	6		6.988
	7		6.984
	8		7.071
	9		7.016
	10		7.042
	11		6.944
	12		6.939
	13		6.964
	14		7.014
	15		7.092
	16		6.924
	17		6.935
	18		6.952
	19		6.945
	20		6.938
	21		7.019
	22		6.868
	23		6.890
	24		7.000
	25		6.974
	26		6.985
	27		6.914
	28		6.986
	29		6.854
	30		6.862
	31		6.910
Ⅲ	32		6.706
	33		6.729
	34		7.041
	35		7.004
	36	51	7.218
	37	50	6.932

表３　Ｐ番号取りあげ遺物　レベル表③

的伸び端部は丸味を帯び，内面はヘラケズリを行う。3は頸部で締まり口縁部は直立気味に立ち上がり外反する。口縁端部は尖り気味である。4は頸部の締まりが弱く，口縁部は丸味を帯びて外反する。端部は丸味をもつ。5は布留系の甕。胴部から内湾し頸部で締まり口縁部が内湾する。口縁端部を摘み上げ整形としている。また，胴部上位に浅い沈線三本が途切れがちに引かれている。内面の整形はヘラケズリ調整を行う。6は胴部の内湾が強く，頸部で締まる。口縁部は頸部からの立ち上がりが内湾して口縁端部で摘み上げ整形を行う。口唇部に浅い沈線一条を巡らしている。

壺形土器類（第24図　7～10）

7は二重口縁の壺。土師器編年のⅠ期で口縁が頸部から大きく外反し，さらに直線的な口縁を積み重ねて端部を丸く納めている。8は丸底の底部から，内湾する胴部へ移行し頸部で締まる。口縁部の下端に断面三角形の凸帯を一条付して外湾しながら口縁部を形成する。口縁端部は丸味をもって尖り気味である。9は胴部上位に最大径のある壺。10は丸底の底部から頸部へ移行し，口縁部が長く直線的に伸びる。口縁端部は尖り気味としている。

鉢形土器類（第24図　11～15）

11は内湾気味に胴部が移行して口縁部にいたる。口縁端部は尖り気味となっている。12は丸味をもった胴部から頸部で締まり口縁部は外反する。13は丸味をもった胴部から頸部で締まり，薄手の口縁器肉が内湾気味に外反する。14は脚台付の鉢。脚部は欠損するが短い脚が付くと見られる。鉢の部分は，薄い器肉が内湾して口縁部にいたる。口縁端部は尖り気味となる。15は台付鉢の脚の部分と考えられる。裾部端を丸く納め，直線的に背の低い脚が伸びる。脚部の外面と鉢体部の内面を暗文により整形している。

高坏類（第24図　16～18）

16は坏部が深い高坏。口縁部が長く外反し口縁端部は尖り気味となる。17・18は高坏の脚。17は短い脚の下位に，18は短い脚の中位にいずれも円孔を設けている。

器台類（第24図　19）

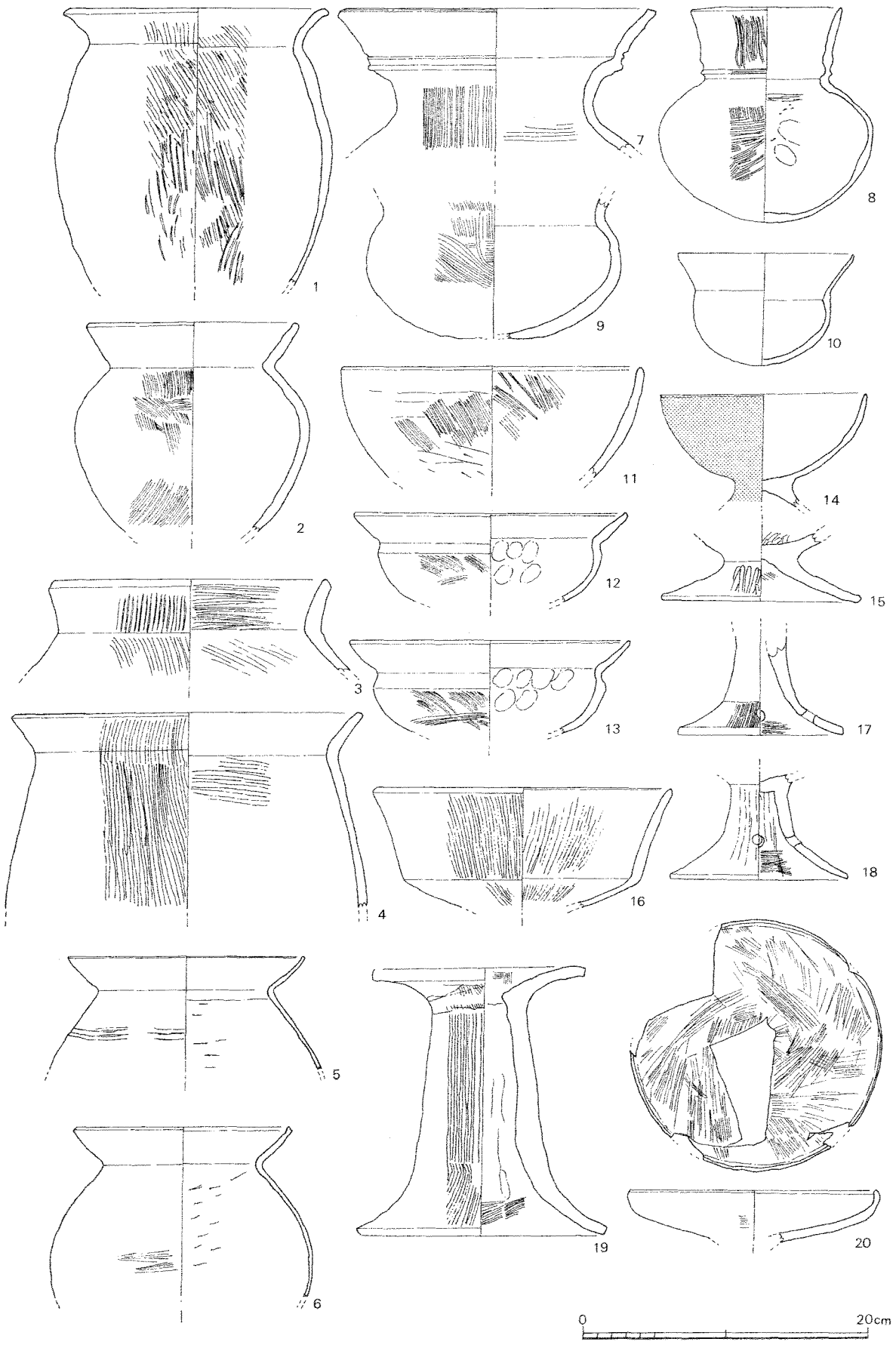
19は裾端部を四角に納め，裾部上位で緩やかに外反しつつ内傾して頸部へ移行。頸部内面に稜を付けて口縁部は大きく外反する。

舶載品（第24図　20）

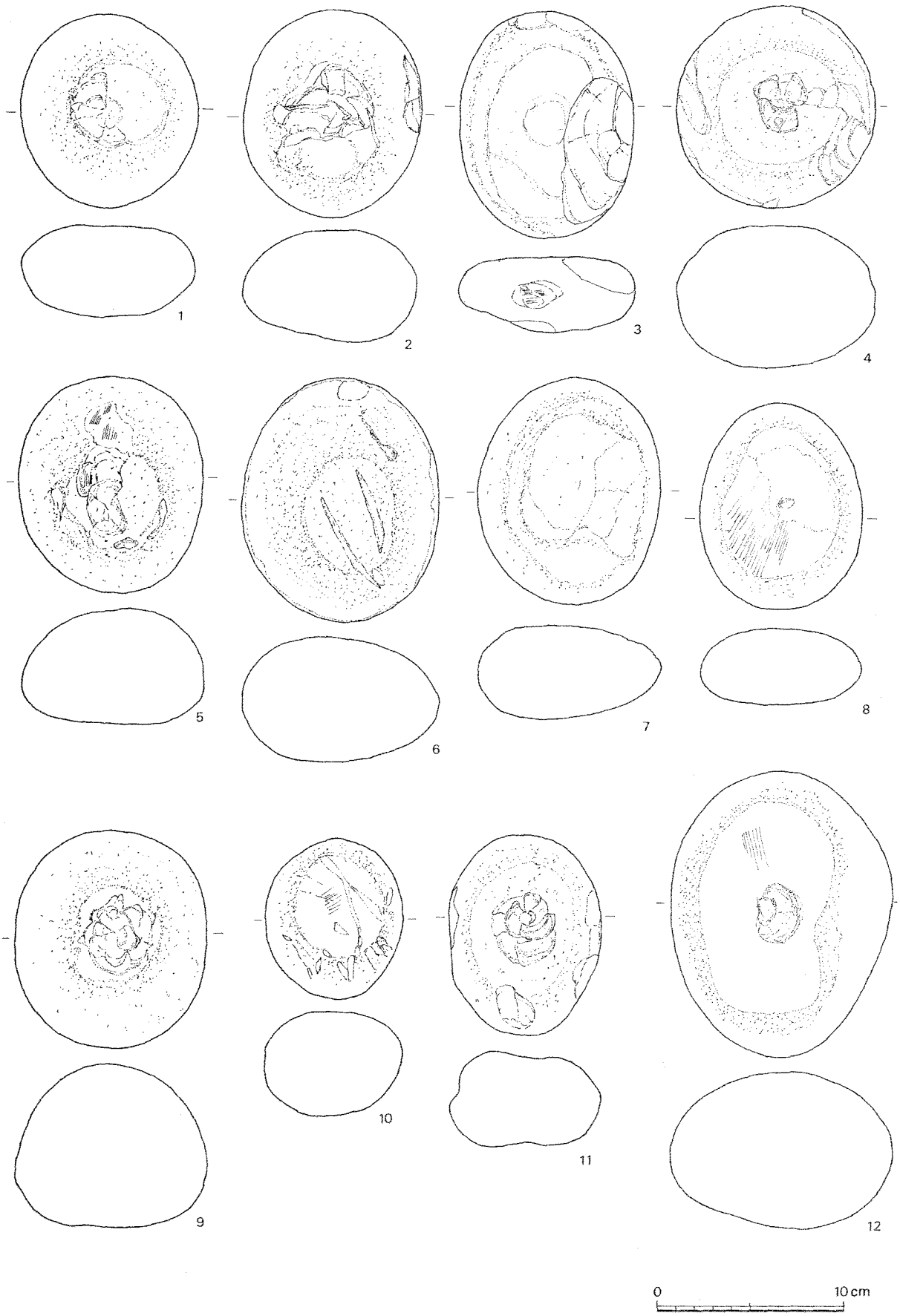
20は高坏と考えられる器種である。器形は緩やかに内湾して口縁部に移行し端部を丸く納めている。内面は刷毛目調整の痕を残す。色調は灰色を呈する瓦質土器。

ＳＤ－２　Ⅰ層石器（第25図，第26図　1～16）

1は正面をスリ石として使用する。2は裏面に擦りとしての使用痕が認められる。3は側面を利用しての叩きの痕跡が認められる。正裏面の側縁の欠損は使用時のものとみられる。4は正面の中央部に凹と側縁全周に敲打の痕跡が残る。5は裏面に擦りの痕跡がみられる。6は裏面の擦りの痕跡と側縁全周にわたる敲打痕が残る。7は正面の擦りの痕跡と側縁全周にわたる敲打痕が認められる。8は正裏面全面の擦り痕と側縁全周にわたる敲打痕が残る。9は正裏面に敲打痕が残る。10は正裏面の擦

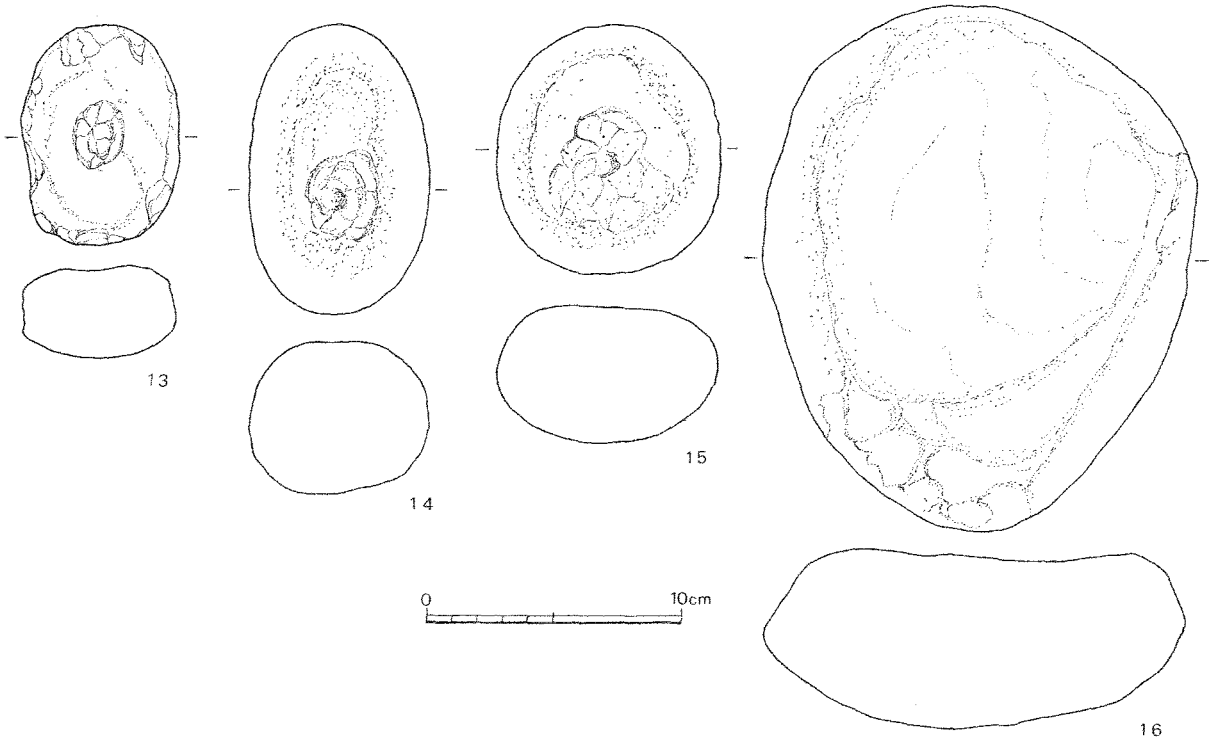


第24図　ＳＤ２　Ｉ層下



第25図　ＳＤ２　Ｉ層出土石器

りが認められる。また，正裏面に金属による溝状の傷が付く。11は正裏面を凹石として使用し，上部端は叩き石としても利用している。正面にわずかな叩きの痕跡と裏面に擦りの痕跡が認められる。13は正面を凹石として使用し，側縁を全周にわたり敲打している。14は正裏面を凹石として使用する。15は擦りの後に叩き具として正面と右側縁を敲打している。16は石皿。正面の約２／３ほどが滑らかに凹む。



第26図　ＳＤ２　Ⅰ層出土石器

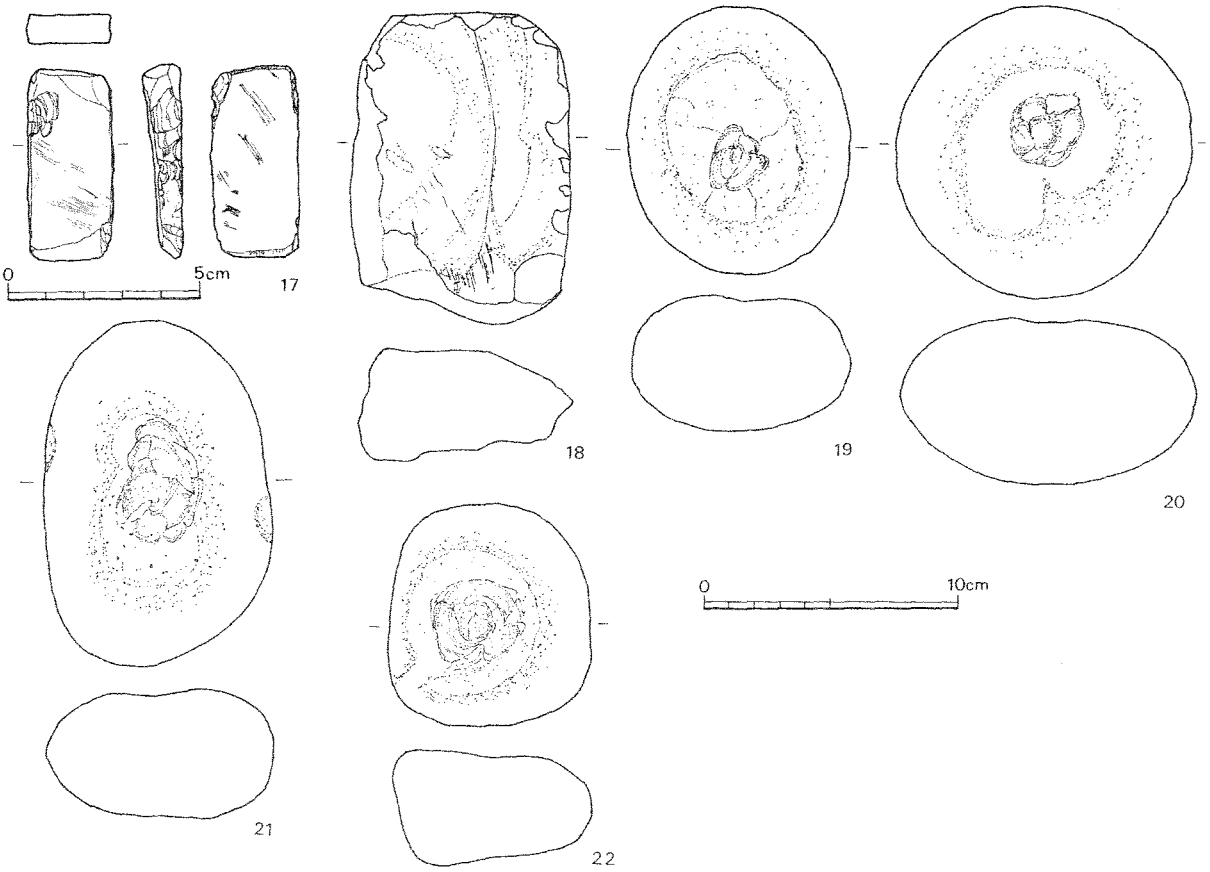
ＳＤ－２　Ⅰ層下石器（第27図　17～22）

17は扁平片刃の石鑿。正裏面と上面・左側面を研ぎだしている。右側面は敲打仕上げで終えている。刃部の研ぎ出しは左から右側へしだいに刃部幅を増している。裏面も左から右側へ最大２㎜幅で研ぎだしている。粘板岩を使用する。18は砥石。正面中央に稜があり２回に分けて使用している。裏面も２回に分けて使用を行っている。やや粗い砥石を使用する。19は中央に凹があり，凹石として使用している。20は中央部を凹石として使用し，右側縁を叩き石として利用している。21は正面を凹石とし，裏面と両側縁を叩き石として使用している。22は正裏面を凹石として使用している。

ＳＤ－２　Ⅱ層土器

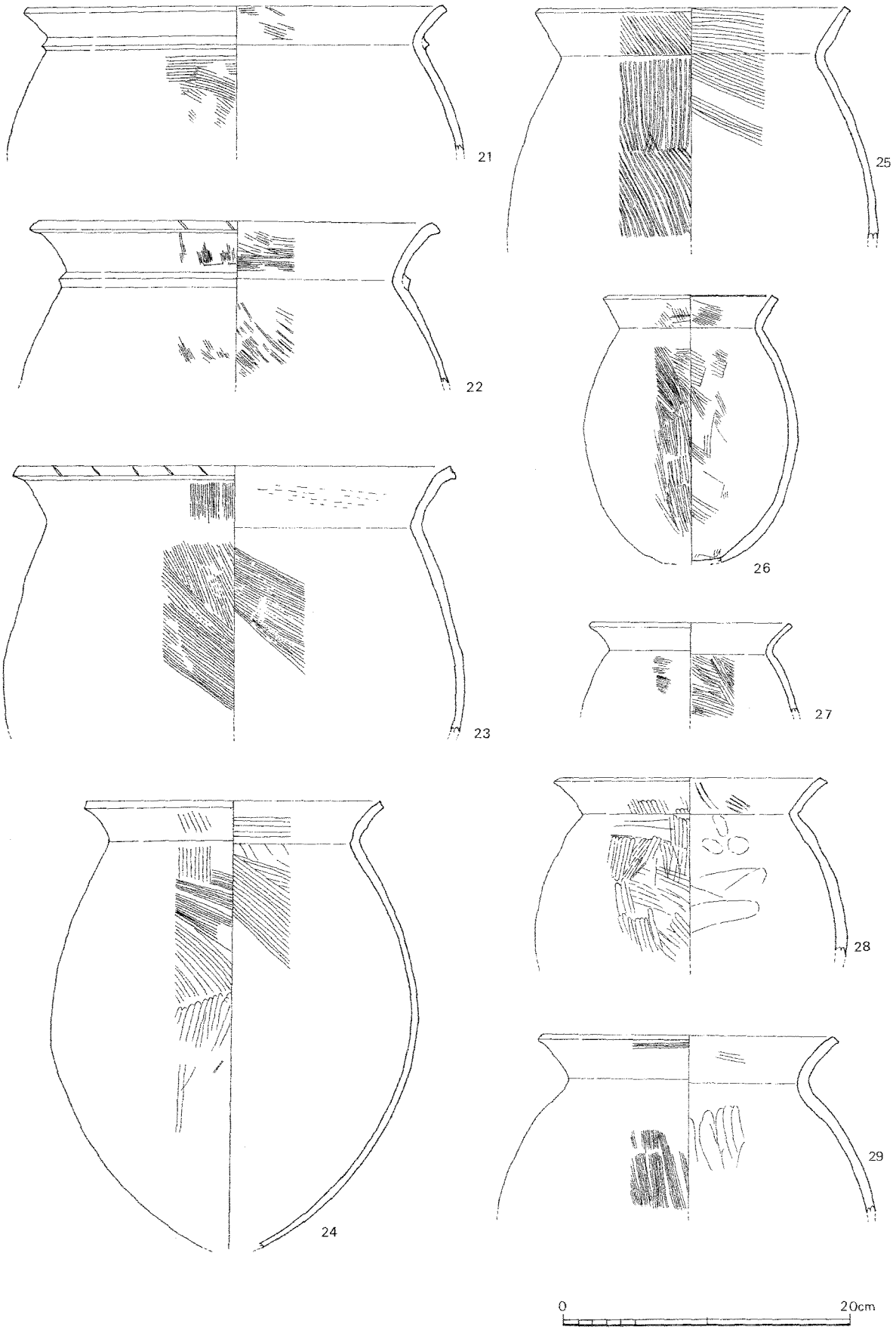
甕類（第28図，第29図，第30図，第31図　21～51）

21は頸部に三角形の凸帯を一条巡らす弥生後期の土器。口縁は頸部から外反し口縁端部は四角に納める。22は頸部に三角形の凸帯を巡らす。長めの口縁部は頸部から大きく外反する。口唇部に刻み目を付している。器面の調整は内外面ともに刷毛目整形を行っている。23は胴部上位に最大径があり頸

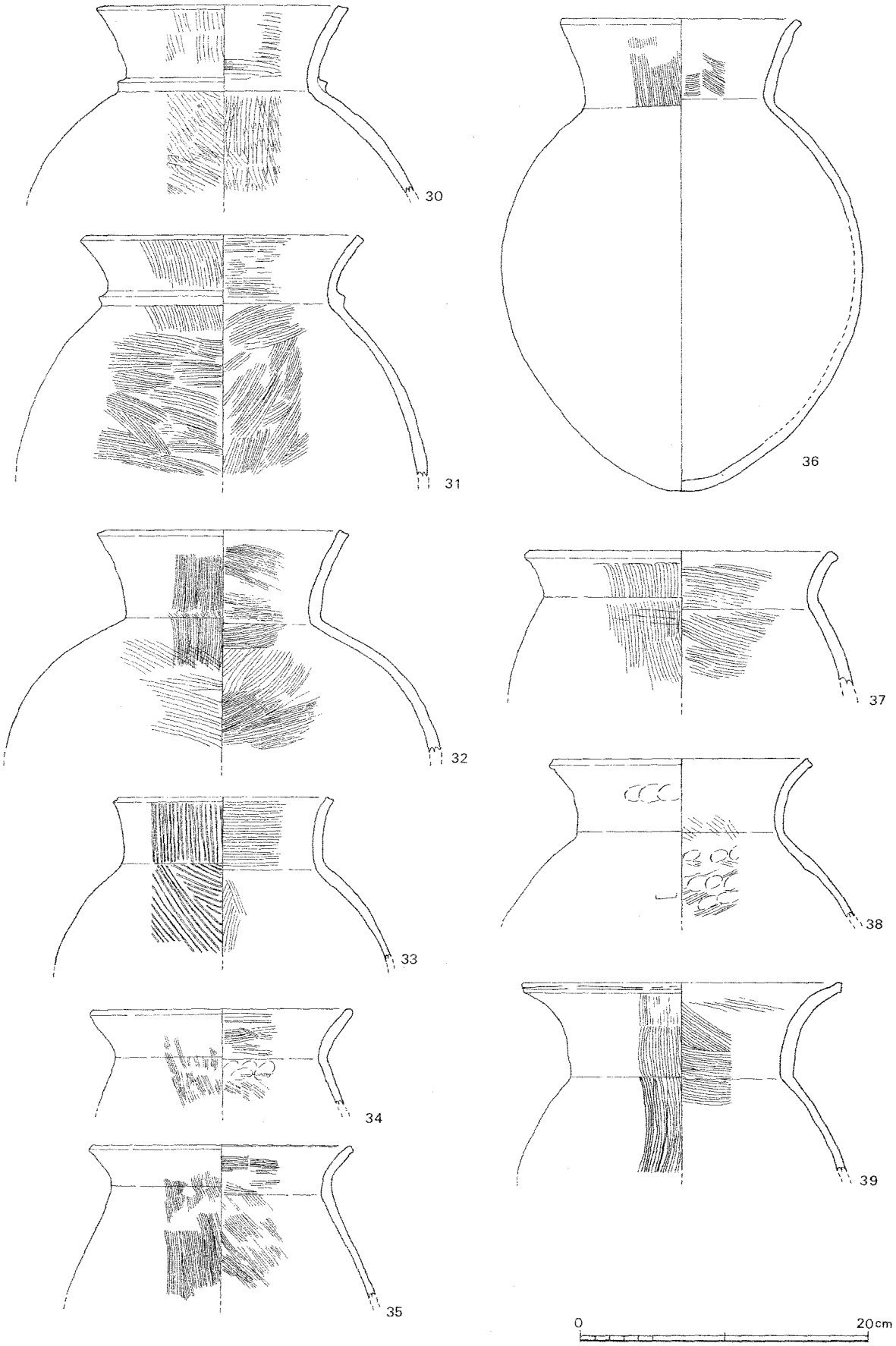


第27図　ＳＤ２　Ｉ層下出土石器（17は1/2，その外は1/3）

部で締まり口縁部は直線的に外反する。口縁端部に厚味をもたせ口唇部に刻み目を付している。器面は内外面ともに刷毛目調整としている。24は胴部中位に最大径をもち，頸部で締まり口縁部は外反する。内外面に斜位と縦位の刷毛目調整を行っている。25は頸部で締まり，口縁部は直線的に外方へ伸びる。口縁端部は浅い沈線が巡る。26は胴部の中位に最大径をもち頸部で締まり口縁部は外反する。器面の調整は内外面ともに斜位の刷毛目としている。27は頸部で締まり口縁部は大きく外反する。28は頸部で締まり外湾した口縁部となる。口縁端部に厚味がある。29は頸部で締まり，外湾した口縁部となる。内面はナデ，外面は斜位の刷毛目で器面の調整を行っている。30～39については甕とも壺ともとれる資料でいずれも，刷毛目調整を施している。便宜上甕で記載する。30は頸部に断面三角形の凸帯を一条付し口縁部は大きく外反する。内外面ともに刷毛目整形のあとが観察される。31は頸部に断面三角形の凸帯を一条設けている。口縁部は外反し端部を四角に納めている。32は頸部で締まり口縁部で外反する。口縁端部は四角に納め，刷毛目調整を内外の器面に施している。33は頸部で締まり口縁部が直線的に伸び端部で外反する。34は口縁部が外反し厚味をもっている。35は頸部に厚味をもって口縁部が外反する土器。36は尖り気味の底部から胴部中位に最大径をもち頸部で締まり口縁部が直線的に外反する。口縁端部を四角に納める。37は頸部で締まり口縁部で外反する。口縁端部は下端に厚味をもつ。38は頸部で締まり外反して口縁端部へ移行する。口縁端部の断面は四角をなす。39は頸



第28回　ＳＤ２　Ⅱ層出土土器



第29回　ＳＤ２　Ⅱ層出土土器

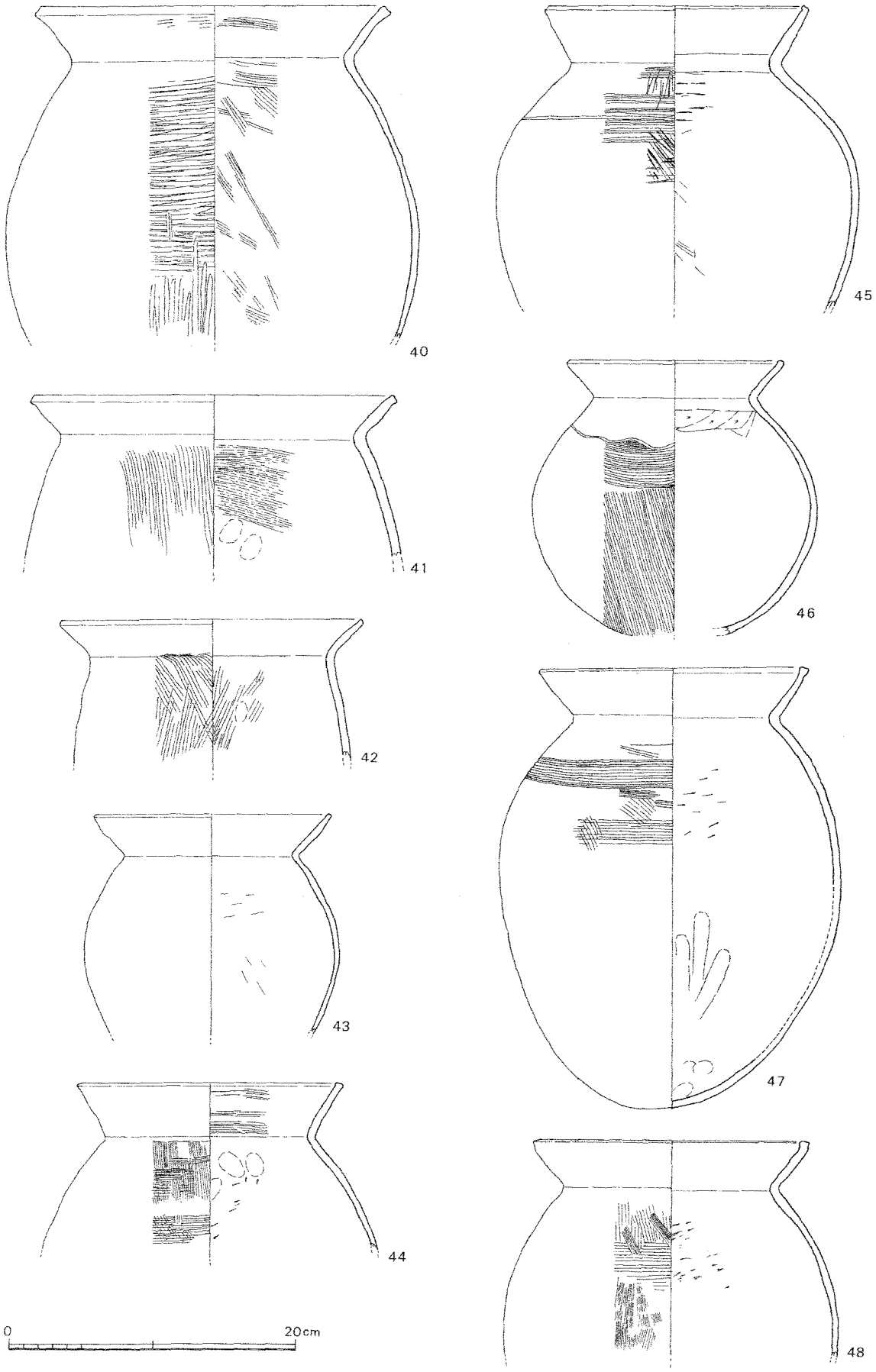
部が締まり，口縁部は厚味をもって外反する。40は頸部で締まり，口縁部が屈曲気味に端部へ移行し，口縁端部は両端に厚味をもつ。器面の調整は外面が叩きで内面は刷毛目整形としていて庄内併行期の土器と比定される。41は頸部で締まり口縁部が屈曲気味に口縁端部へ移行する。口縁端部は下端に厚味をもつ。42は直線的に伸びた胴部から頸部で反転し，外反する口縁となる。43は胴部中位に最大径をもち頸部で締まり，口縁部は中位に厚味をもって直線的に伸びる。44は頸部で締まり口縁部は屈曲しつつ端部へ移行する。口縁端部は内端部を摘み上げの整形としている。45は丸い胴部から頸部に移行し，口縁端部を摘み上げた整形としている。46は胴部の中位に最大径をもち頸部で締まり口縁端部を摘み上げた整形を施している。器面の整形は内面がヘラケズリ，外面は波状の沈線と刷毛目で器面を整えている。47は丸底の底部から長い胴部へ移行し，頸部で締まり口縁部は湾曲して口縁端部へ移行する。また，端部は摘み上げ口縁としている。器面の調整は内面がヘラケズリとし，外面は横位の浅い沈線を胴部上位に配置している。48は頸部で締まり，口縁部は内湾しつつ端部で直立する。内面はヘラケズリとし外面を刷毛目調整としている。49は長胴のやや上位に最大径をもち頸部で締まり口縁部は屈曲して口縁端部へ移行する。端部は摘み上げの整形としている。器面の調整は内面がヘラケズリ，外面を刷毛目としている。50は丸い胴部から頸部で締まり口縁部は内湾し，端部へ移行する。器面の調整は内面がヘラケズリとし外面を刷毛目調整としている。51は直線的に伸びた胴部から頸部で締まり，内湾した口縁をなし端部は丸く納める。

壺類（第31図，第32図　52～66）

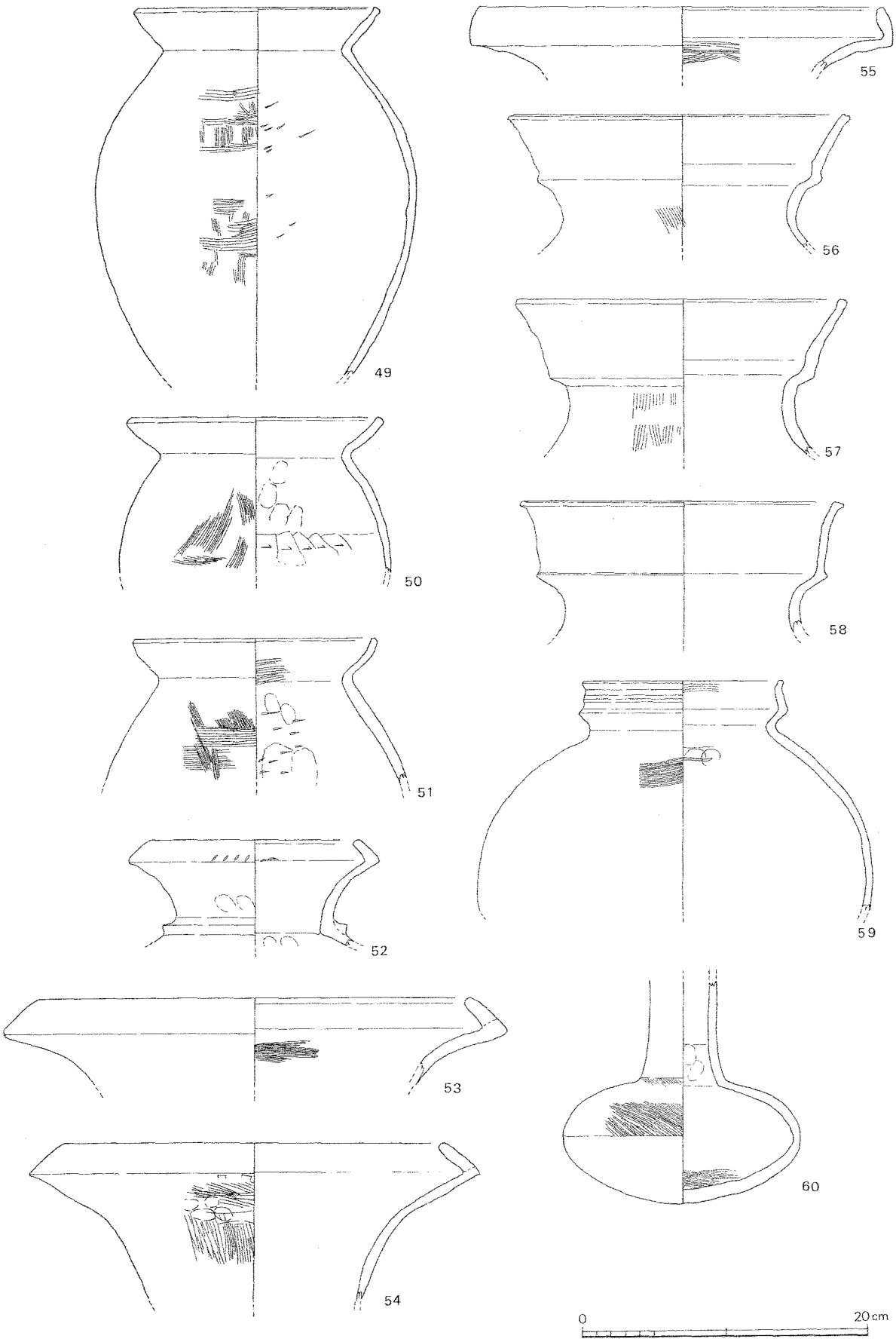
52は複合口縁の壺で，頸部が締まり頸部下端に断面三角形の凸帯を巡らしている。頸部は下端から外反し，口縁部で反転し内側へ屈曲させて厚味のある口縁を形成している。53は複合口縁の大型品で大きく外反する頸部に反転内傾する口縁部を乗せている。54は外反する頸部に内傾する口縁部を乗せている。55は外反する頸部に直立気味の口縁部を乗せている。56は二重口縁壺で外反した頸部に直線的に外方へ伸びた口縁部を付けている。口唇部は浅い沈線が巡る。57は外反する頸部に湾曲した口縁部が付き口縁端部を摘み上げの整形としている。58は外反する頸部に直立気味の口縁部を付けて端部に厚味をもつ。59は丸い胴部から頸部でしまり口縁部は直立しつつ屈曲する口縁としている。60は丸底の底部から楕円形の胴部に移行し頸部で締まり長い頸部が伸びる作りとしている。61は丸底の底部で胴部上位に最大径をもち頸部から外反する口縁部が付く。62は丸底の底部で胴部の中位に最大径をもち頸部で締まり口縁部は直立気味に外反する。器面の調整は内面が刷毛目で外面は胴部下位は風化で調整痕不明であるが上位は刷毛目調整としている。63は頸部で締まり口縁部は直立気味にやや外反する。口縁端部は尖り気味としている。64は薄い器肉に丸味のある胴部から頸部へ移行し，口縁部は長めで屈曲している。口縁端部は尖り気味としている。65は丸底の底部から頸部に移行し，直線的に伸びる薄手の口縁部を形作っている。口縁端部は尖り気味となっている。66は西瀬戸内系の壺片。肩部に断面三角形の凸帯を付し，肩端部に重弧文と重沈線で外面に装飾を施している。

鉢類（第32図　67～77）

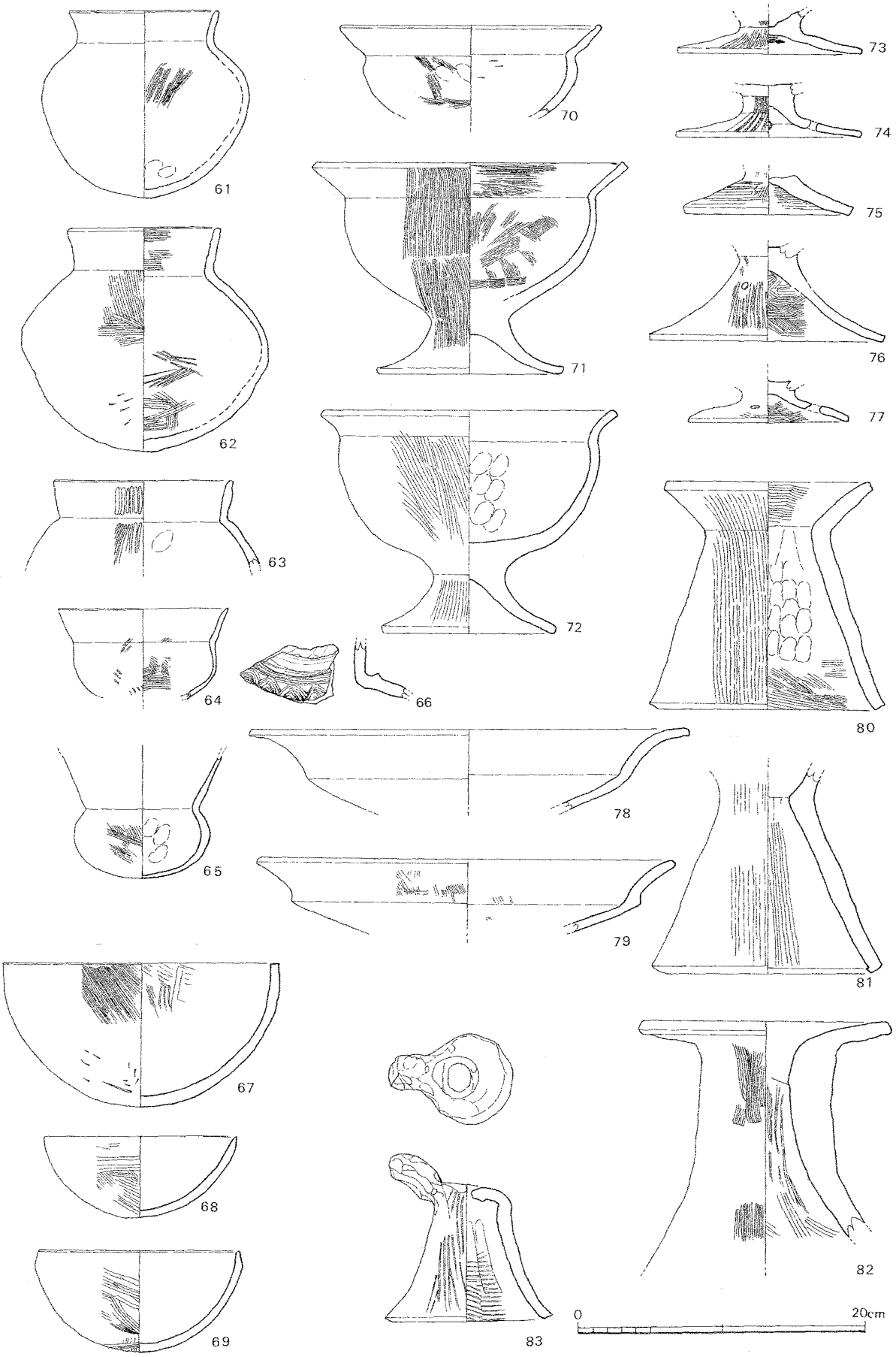
67は椀形の鉢で丸底から内湾した胴部へ移行し，口縁部で直立し端部は平坦としている。器面の調



第30図　ＳＤ２　Ⅱ層出土土器



第31図　ＳＤ２　Ⅱ層出土土器



第32図　ＳＤ２　Ⅱ層出土土器（66のみ1/3，外は1/4）

整は内面が刷毛目，外面は胴部下位をヘラケズリと上位を刷毛目としている。68は椀形の鉢で丸底から内湾して口縁部へ移行する。口縁端部が尖り気味となる。70は丸味をもった胴部から屈曲して直線的に外方へ伸びる口縁部を形成する。口縁端部は丸く納めている。71は台付鉢で低い脚に丸味をもつ胴部が乗り口縁部は直線的に外方へ伸びている。器面は内外面ともに刷毛目調整としている。72は台付鉢で脚は外反し鉢と接続している深く丸味のある胴部から頸部で屈曲し外方に伸びた短い口縁部を形成している。口縁端部は丸く納めている。胴部の内面は指押さえとし，外面は刷毛目調整を胴部と脚部に施している。73から77は台付鉢の脚部として取り上げている。いずれも背の低い脚で，73は脚部を刷毛目調整のあと暗文でさらに整形している。また，小孔を穿つものが74・76・77である。

高坏（第32図　78～79）

高坏の坏部片で，体部と口縁部の長さの比率は２：１程度となっている。78は体部から口縁部にかけて屈曲し口縁部が外湾する形状となる。口縁端部は丸く納めている。79は体部と口縁部の境に稜を有し，口縁部は外方に伸びる。

器台類（第32図　80～83）

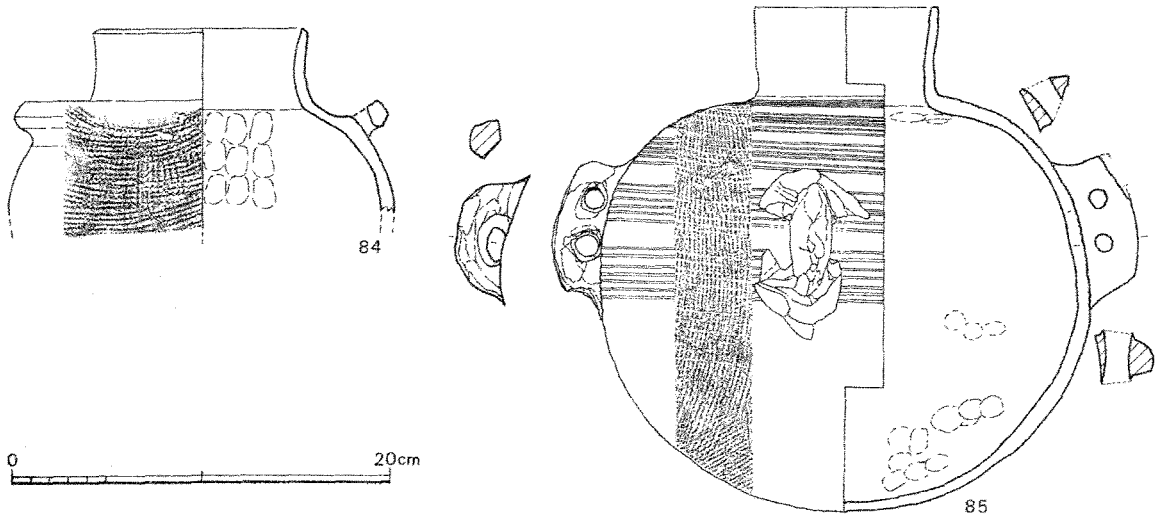
80は脚裾部から直線的に内傾し，頸部で締まり直線的に口縁部が外方へ開く器形となっている。両端部は断面四角形としている。器面の調整は内面を指ナデと刷毛目で上位と下位を調整し，外面を縦位の刷毛目調整を行っている。81は直線的な脚を内傾させて頸部で屈曲させている。器面は内外面ともに刷毛目調整としている。82は沓形器台である。上端に約3.5cmの穿孔を設けている。端部は手ずくねの突起を接続させている。

舶載品（第33図　84～85）

84は丸味のある胴部から頸部へ移行し，やや外傾直立する口縁部となる形態の三韓系瓦質土器である。肩部には把手を貼り付けて二穴としていたと思われるが，半分を消失している。器面の調整は外面を格子目の叩きで頸部下端から胴部にかけて施し，内面は指ナデとしている。口縁部には轆轤水引の線が巡っているのが観察される。85は三韓系瓦質土器。丸底の底部から丸い胴部へ移行し，頸部で締まり直立気味の口縁部を形成する。胴部上位に把手を三箇所設けて，内二箇所は二穴とし，一箇所については一穴としている。器面の調整は外面の胴部下位から頸部までを縦位の叩きとし，胴部下位以下を格子目の叩きを施している。また，内面は当て具痕をナデ消し調整している。色調は灰色を呈する。

ＳＤ－２　Ⅱ層石器（第34図　23～34）

23は水晶製の切子玉。形状はそろばん玉形を呈している。研ぎ出し面は上面が１面，下面が２面上部は自然面，下部１面の４面の研ぎ出しを行っている。穿孔は上部中央に径３㎜の孔が深さ約14㎜螺旋状に穿たれている。穿孔行程で下部にヒビが入り完成にいたらず放棄したと考えられる。24は正裏面を凹石として使用し，側縁全周に敲打を行っている。25は正面を凹石として使用し，裏面は擦り石としての機能を有している。26はスリ石として使用し，側縁を叩き石としている。27は上部と下部に敲打痕のある叩き石。28は正裏面及び右側部を凹石として使用している。29は正面中央部に敲打痕が



第33図　ＳＤ２　Ⅱ層出土土器

若干観察される。30は正裏面の中央部に敲打痕が認められる。31は正面に２箇所の凹と右側の抉り及び裏面の２箇所の凹が認められる。32は正面の中央部に鞍部があり，紐擦の痕跡とも考えられる。33は裏面を凹石として利用している。34は正裏面を凹石とし，上部・下部・左右側面をスリ石として使用している。

ＳＤ－２　Ⅲ層

甕類（第35図　86～89）

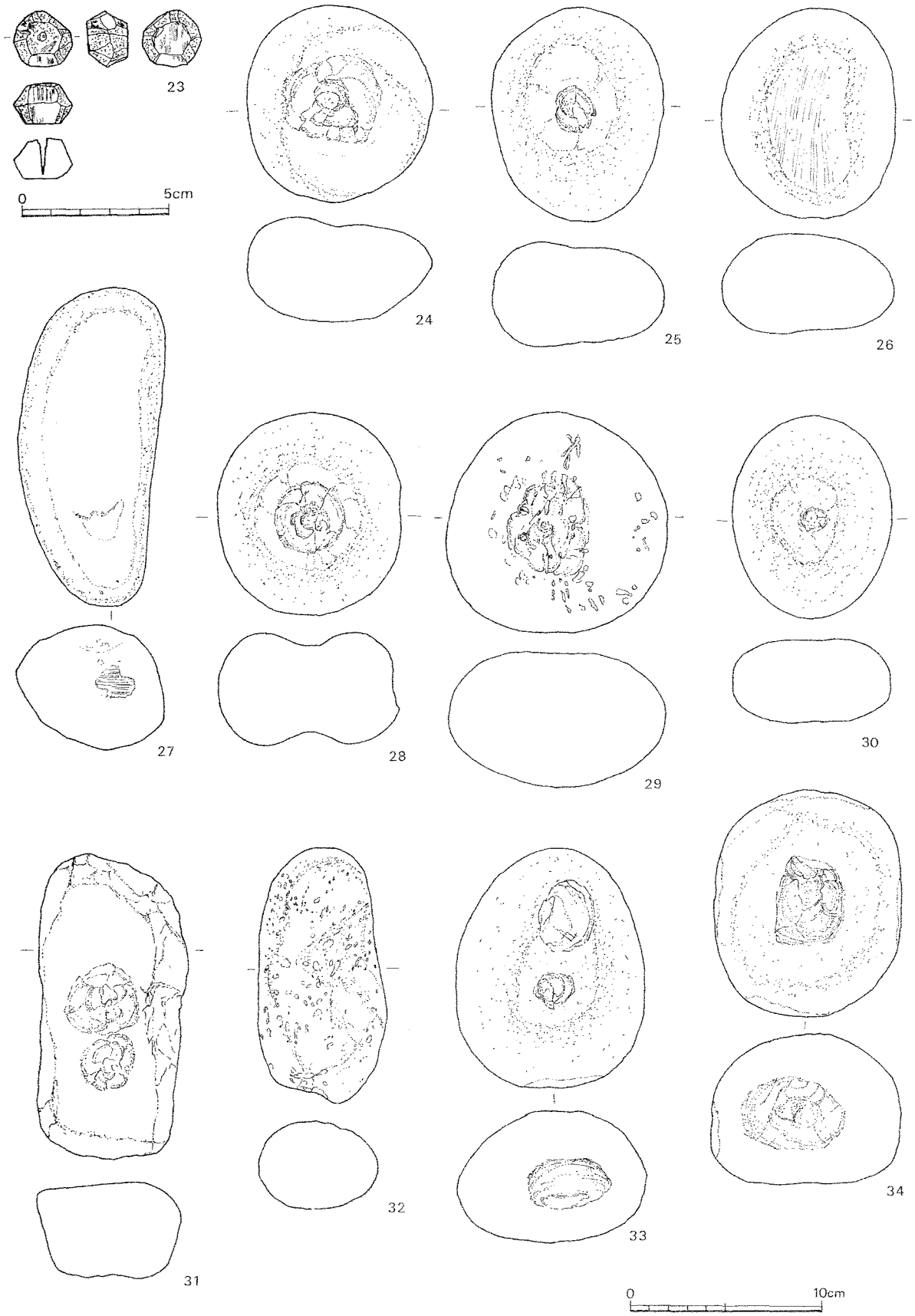
86は大型の甕。頸部に断面台形の凸帯を巡らし，口縁部は直線的に外方へ開く。口縁端部が肥厚し口唇部に斜行する刻目を付けている。内外面ともに刷毛目調整で器面を整えている。87は胴長の甕で，頸部で締まり口縁部は直線的に外方へ開く。口縁端部はやや尖り気味である。器面の調整は内外面ともに刷毛目としている。88は胴長の体部から頸部で締まり，口縁部はやや屈曲して端部へ移行する。端部は尖り気味となる。89は頸部で締まり口縁部が屈曲して端部は四角に納めている。

壺類（第35図　90～94）

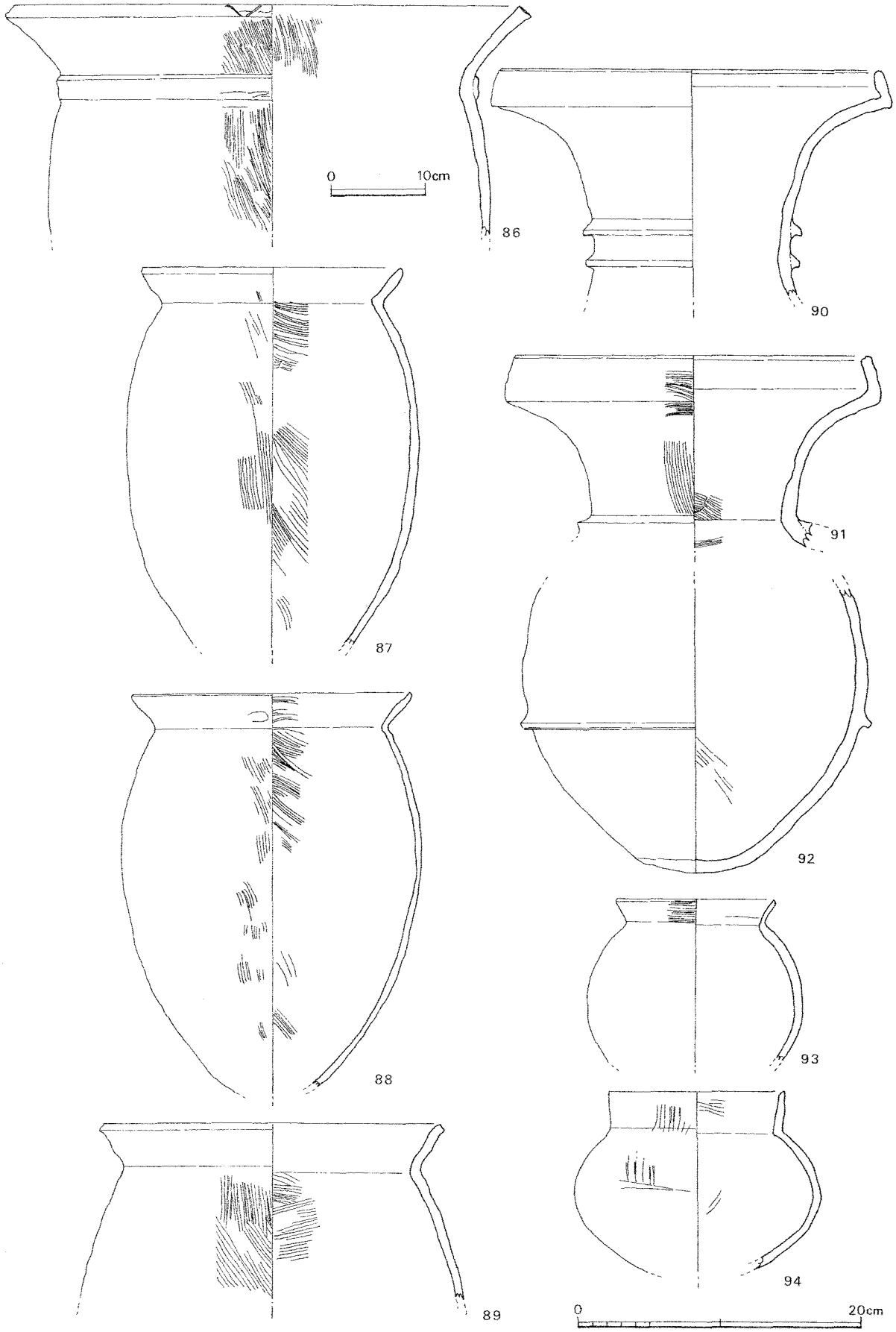
90は複合口縁の壺。長い頸部に断面三角形の凸帯が二条巡る。頸部上端は外湾し，直立気味の短い口縁部が付く。口縁部はやや厚味をもって端部を丸く納める。91は頸部下端に断面三角形の凸帯を付し大きく外湾する。口縁部は内傾し，端部は平坦としている。92はレンズ状の底部から立ち上がり胴部下位に断面四角形の凸帯を一条巡らす。凸帯から上位は丸味をもつ。93は胴部中位に最大径をもち頸部で締まる。口縁部は直線的に外方へ開く。94は胴部中位に最大径があり頸部から口縁部は直線的に立ち上がる。口縁端部は丸く納める。

ＳＤ－２　Ⅲ層石器（第36図　35～42）

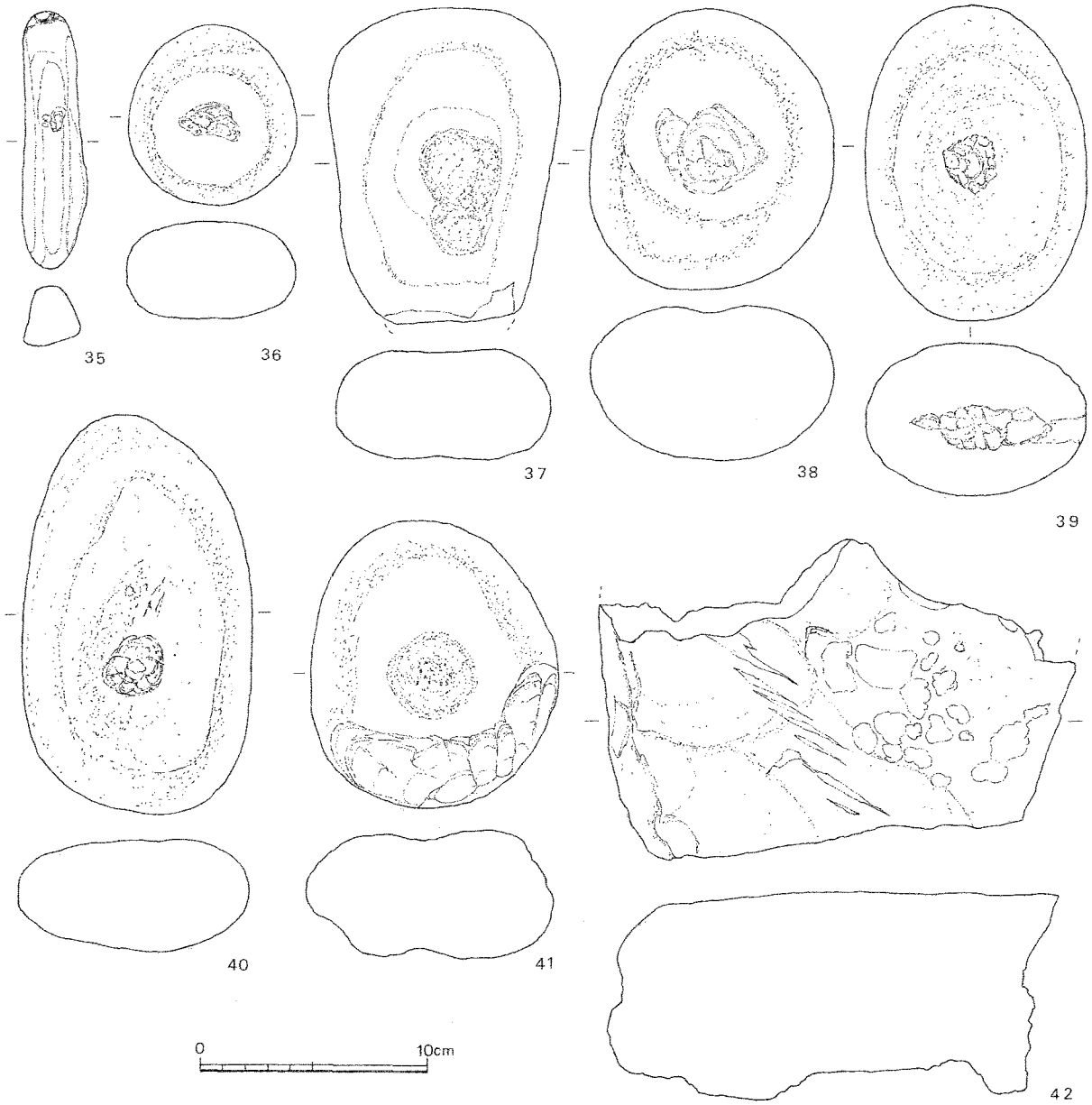
35は上部を叩き石として使用している。36は正裏面に擦りを行い，正面のみを後から叩き石として使用している。37は正裏面を凹石として使用している。下部を欠損する。38は正面を凹石として使用する。39は正裏面を凹石として利用し，上下部は叩き石として使用している。40は正面を凹石として



第34図　ＳＤ２　Ⅱ層出土石器（23は1/2，その外は1/3）



第35図　ＳＤ２　Ⅲ層出土土器（86は1/6，その外は1/4）



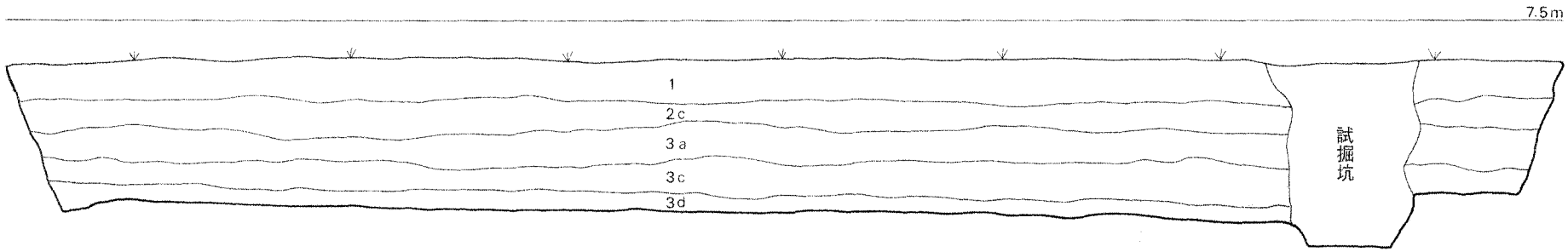
第36図　ＳＤ２　Ⅲ層出土石器（42は1/4，その外は1/3）

使用し，裏面はスリ石として使用している。41は正裏面を凹石として利用していた石器を正面下部を打撃加工することによって，礫器としての機能を持たせようとしたと考えられる。42は正面を研ぎ出しによって滑らかな調整としている。使用目的としては，台石が考えられる。

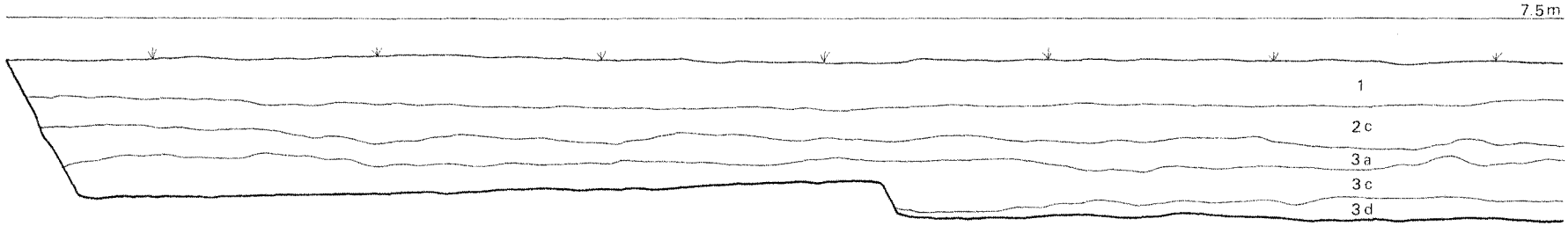
●ＳＤ－３（第６図，第37図，第39図）

北区北東隅から中央区南西隅に向かって約36ｍを確認した。北東部は調査区東壁に入り込むが，平成５年度の範囲確認調査でその延長を確認している。台地から離れるにしたがって地山が削平を受けて浅くなり，特に中央区では近世以降の水田耕作で遺構上面が大幅に削平され北区に比べると遺物の量も格段に少なかった。また南西隅でＳＤ２に切られている。断面は逆台形型で，北区で最大幅約3．5

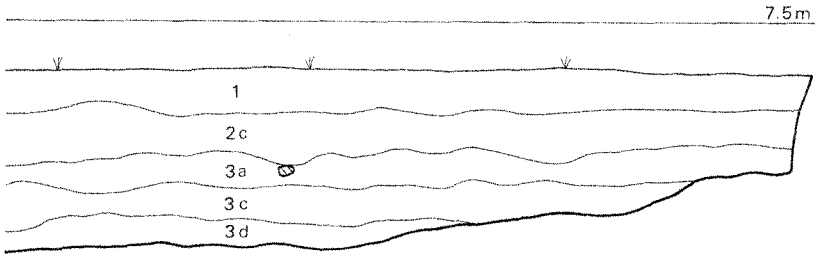
第37図　北区　ＳＤ３　Ⅰ層（上図）・Ⅱ層（下図）　遺物出土状況（1/40）



北区西壁土層



北区北壁土層



北区西壁
1　表土
2 c　褐色土（黄色粒子含む）
3 a　暗赤褐色土
3 c　明灰色粘質土
3 d　黒褐色土

北区北壁
1　表土
2 c　褐色土（黄色粒子含む）
3 a　暗赤褐色土
3 c　明灰色粘質土
3 d　黒褐色土

0　5m

第38図　北区　西壁・北壁土層図（1/60）

第39図　中央区　ＳＤ３　遺物出土状況（1/40）

m，最深1.15mを測る。覆土はおおきく３つに分けられ，Ⅰ層が褐色土，Ⅱ層が黒褐色土，Ⅲ層が茶褐色土である。Ⅰ層出土の遺物は弥生時代後期後半から古墳時代初頭の土器が見られる。中央区ではⅠ層は削られてしまっていた。Ⅱ層の遺物は弥生時代中期丹塗土器から弥生時代後期の土器，鉄鎌などが出土している。Ⅲ層出土の遺物は少ないが弥生中期の壺が出土している。土層断面からは時期は明確でないが，濠の掘り直しのあとが観察される。また北区では濠の覆土の中に濠の内側から崩れたような形で地山の土（黄褐色土）が混入していることから，濠の内側に濠を掘った土を積み上げた土塁が築かれていた可能性も想定される。また濠の上層では広範囲にわたる焼土も確認した。この濠は，多重環濠の中濠の可能性が高く，濠の形状・出土遺物の状況から，今年度の国庫補助事業調査（芦辺町域分）で検出したＳＤ５につながると思われる。

ＳＤ－３　Ⅰ層

甕類（第40図　１～５）

１は尖り気味の底部から胴部下位に最大径をもつ体部へ移行し，頸部で屈曲して口縁部が直線的に開く。２は胴部の中位に最大径をもち，頸部の断面三角形凸帯で締まる。口縁部は外方へ直線的に伸び端部は両端が肥厚する。３は胴部中位に最大径をもち頸部に断面三角形の凸帯を巡らしている。口縁部は大きく外反し，端部は四角に納める。４は頸部で締まり，口縁部は外反して口縁端部へ移行する。口縁端部は四角をなす。５は径の狭い平底からやや丸味をもって，長胴へと移行していく甕形土器。器面調整は内面を指ナデとし外面を斜位の刷毛目としている。

壺類（第40図，第41図　６～11）

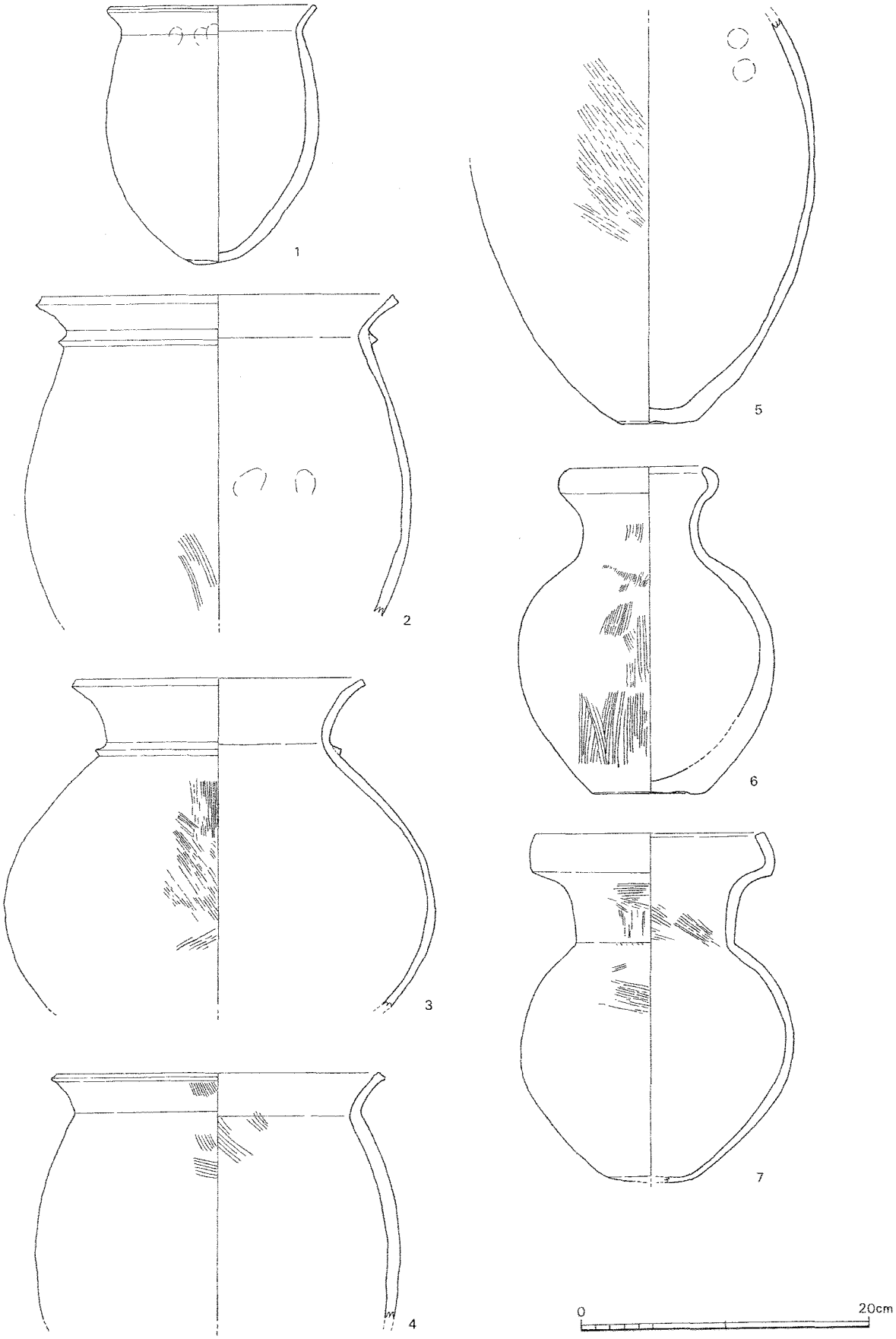
６は袋状口縁の最終末期。平底の底部から角をもって立ち上がり最大径をもつ胴部中位へ移行していく。頸部は直立気味に外反し，口縁部で反転内湾し膨らみを有する形状としている。７は複合口縁の壺。底部が丸味をもち頸部径が広くなる。頸部は外反し口縁部は内傾気味に丸味をもち口縁端部は四角をなす。８は頸部下端に断面三角形の凸帯を配し，大きく外反する頸部から内傾した口縁部が付く。口縁端部は平坦としている。９は外反する頸部に直立気味に内傾した口縁部が付き，境目は稜が明瞭につく。口縁端部は平坦となす。10は大きく外反する頸部から内傾した口縁部がＳ字状となる。頸部上端の境目に断面四角の稜がつく。器肉が薄く胎土が灰色で瓦質土器の焼成，質とも類似している。11は無頸壺。直線的に内傾する胴部が口縁部へ移行し，口縁部でやや外反気味の器形となる。焼成・胎土ともに10と類似する。

鉢類（第41図　12・13）

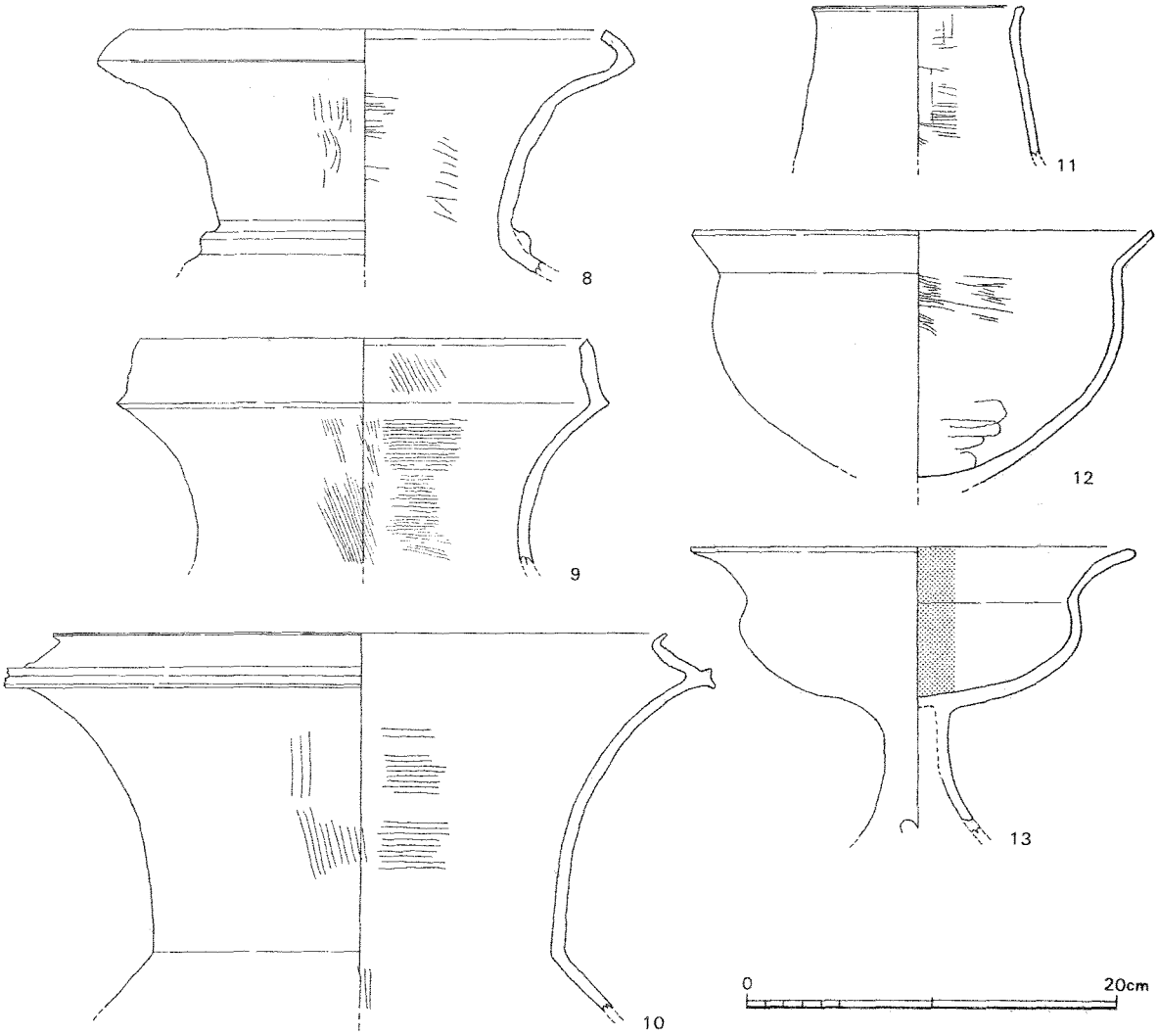
12は胴部上位に最大径をもち頸部へ移行し，直線的に外方へ開く口縁部をなす。口縁端部は平坦に納める。13はやや長めの脚が付き穿孔を裾部上端に施している。鉢部は丸味を持って立ち上がり頸部で屈曲し，口縁部は外反して上方へ開く。口縁端部は丸味を持つ。内面に丹塗りの痕を残す。

器台類（第42図　14～23）

14は脚の外反部位が中位にある器台。15は脚の外反が上位にあり，断面の中位から上位が最も厚味を増している。16も15と同様の形態をなしている。17は脚部が直線的に内傾し，頸部で外反する。ま



第40図　ＳＤ３　Ⅰ層出土土器

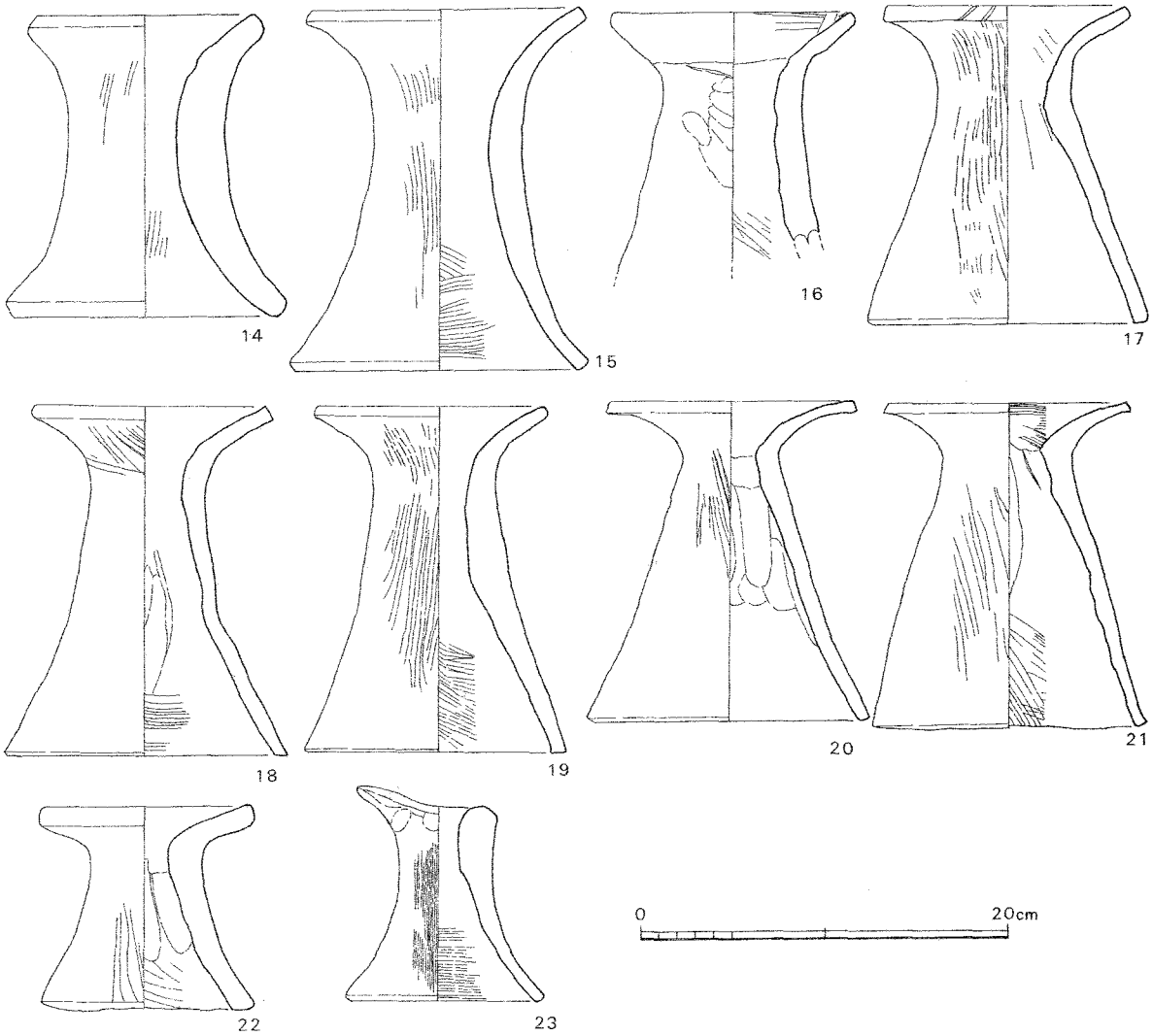


第41図　ＳＤ３　Ⅰ層出土土器

た，口縁端部に刻目を付けている。18は裾部が直線的に内傾し，頸部下端で立ち上がり上端で口縁部の外反と接続する。19は裾部で直線的に内傾し，頸部下端で器肉の厚味を増す。頸部の上端は口縁部の外反と接続する。20は裾部から頸部に直線的に内傾し，頸部内面に稜をもって口縁部が外反する。21も20と同様の形態をなしている。22は小型の器台。脚部は外反気味に頸部へ移行し，頸部で器肉を厚くし，口縁部は直線的に外方へ開く。23は沓形器台。上端部に嘴上の突起を付けている。

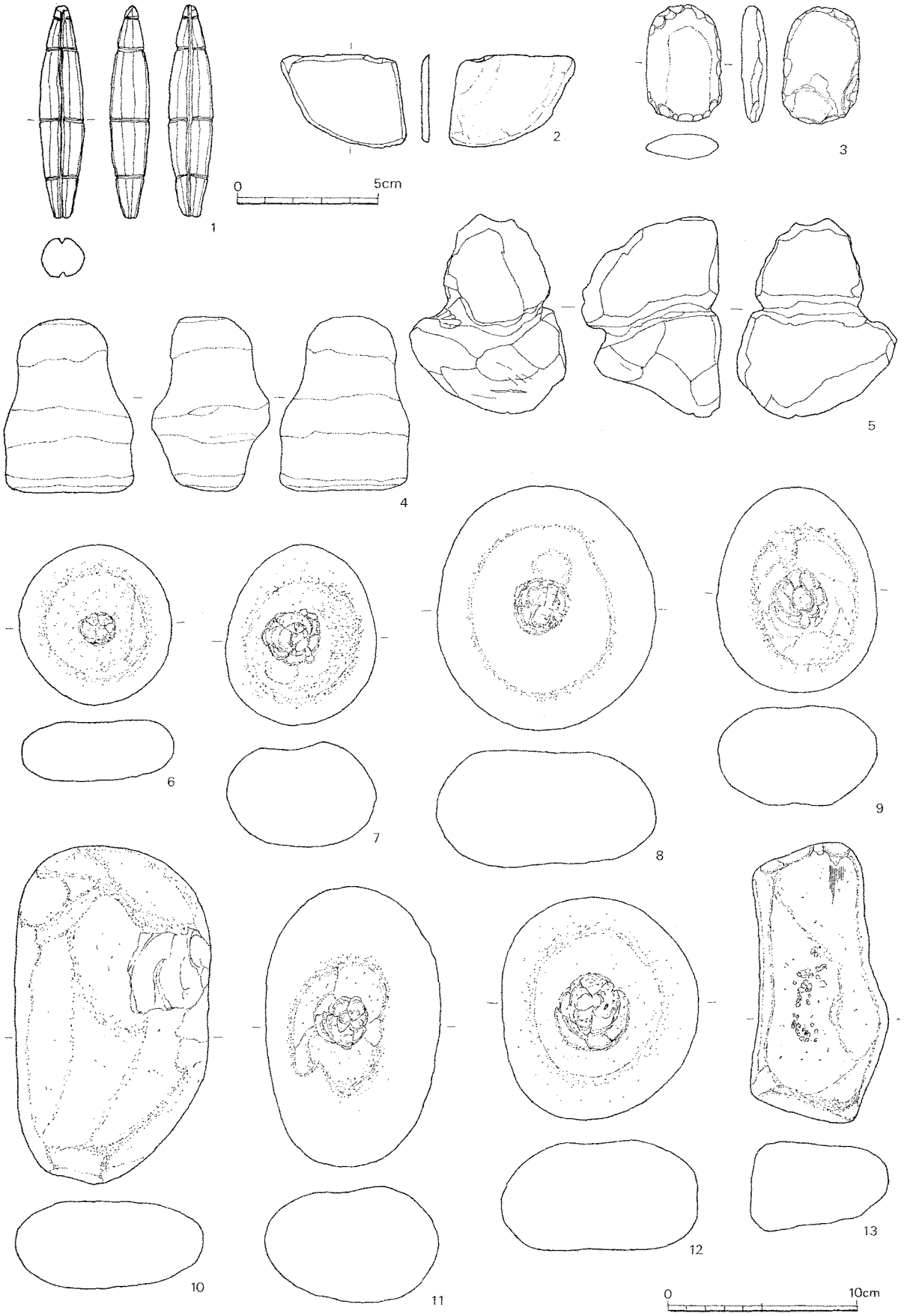
ＳＤ－３　Ⅰ層石器（第43図，第44図　１～17）

１は頁岩を素材とした石錘。正面と裏面の長軸に幅１㎜，深さ１㎜の溝をそれぞれ１条上下端部から彫り込み，短軸は１周するように幅0.5㎜，深さ0.5㎜の溝を４条上端・上位・中位・下位に彫り込んでいる。２は石庖丁片。正面上部にわずかに穿孔痕が残る。裏面は剥落している。正面の３縁に研ぎ出しのエッジがあり石包丁の転用が考えられる。頁岩を素材とする。３は砂岩を素材としており実用的な石斧ではない。本来は石剣であったものを転用した可能性が考えられる。４は糸紡用の錘と考

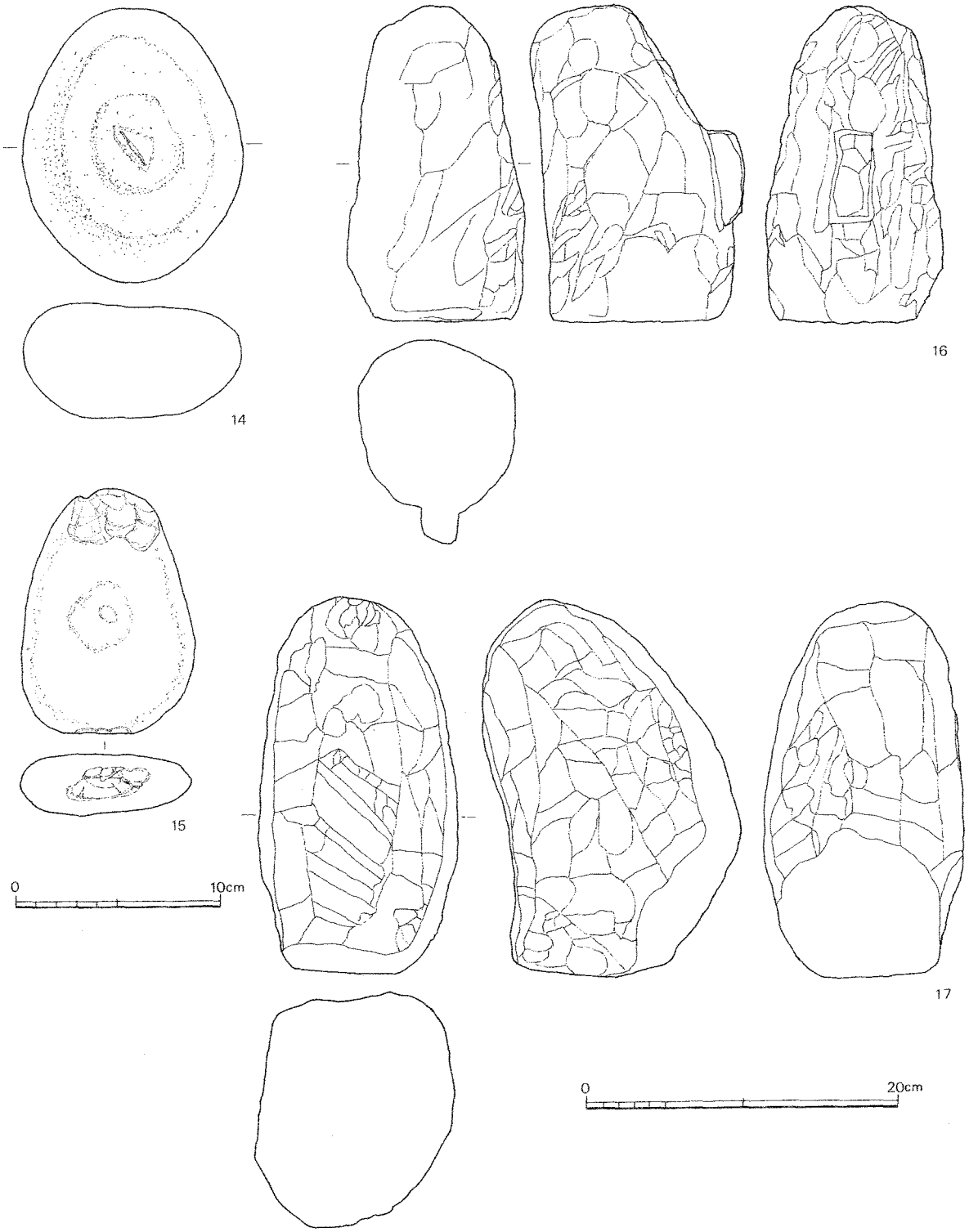


第42図　ＳＤ３　Ⅰ層出土土器

えられる。中央部の稜を境に上部と下部に浅い抉りが全周に回る。表面は非常に滑らかとなっている。５は軽石を素材とした浮きである。石材全面を粗くケズリだし中央部の短軸を幅13㎜，深さ0.8㎜の溝を一周させている。６は浅い敲打痕の凹を正裏面に残し，側縁は叩きを全周に行っている。７は中央に深い凹を有する凹石。また右側縁は半周にわたり叩き痕が認められる。８は正裏面に浅い凹がある。また，裏面は擦りの使用も残る。９は正裏面を凹石として利用している。10は上部を擦りに下部を叩きに使用している。11は正面を凹石として使用し，裏面は凹石とスリ石兼用としている。12は正裏面を凹石としているが，裏面はスリ石の兼用としている。13は裏面に浅い凹みがありスリ石として使用している。14は正面を凹石として使用し，裏面はスリ石として使用している。15は正面に浅い叩き痕が残るが，上下端を加撃による剥離を行っており，石錘を意図して製作されたと考えられる。16は支脚。側縁に把手を作出している。形状は縦断面が三角形をなし，横断面は楕円形となっている。下部は接地面を考慮して平坦とし，体部は全面に鑿の加工痕が残る。また，上部は三角形の頂点をカッ



第43図　ＳＤ３　Ⅰ層出土石器（１，２は1/2，その外は1/3）



第44図　ＳＤ３　Ｉ層出土石器（14，15は1/3，16，17は1/4）

トして平坦面を作出している。17は側面下端を欠損している。下部は平坦となし，体部は全面に鑿の加工痕が残る。把手を作出しかけた彫り込みが側縁に見られる。上部は尖り気味に製作している。

ＳＤ－３　Ⅱ層

甕類（第45図　24～30）

24は頸部に断面三角形の凸帯を巡らす甕形土器。口縁部は直線的に外方へ開く。口唇部はやや丸味をもって平坦としている。25は凸レンズ状の底部から長胴となる甕。胴部上位に最大径をもち頸部で締まり外反して口縁部へ移行する。口縁端部は平坦となす。26は平底状で胴部中位に最大径をもち頸部から外方へ口縁部が外反する。口縁端部は平坦となす。27は頸部で締まり直線的に口縁部が上方へ伸び，口縁端部は平坦となす。28は丸い胴部から締まった頸部に移行し，口縁部で屈曲して口縁端部を摘み上げた形状となす。29は丸味のある底端部から最大径をもつ胴部中位へ移行し，頸部で締まり直線的に口縁部が上方へ伸びる。口縁端部を丸く納める。器面の調整は外面に斜位の刷毛目調整を施している。30はレンズ状の平底から丸味を持って立ち上がり，最大径をもつ胴部中位へ移行し，頸部で締まり長めの口縁部が外反する。口縁端部は厚味をもつ。器面は内外面に刷毛目調整を行っている。

壺類（第46図，第47図　31～42）

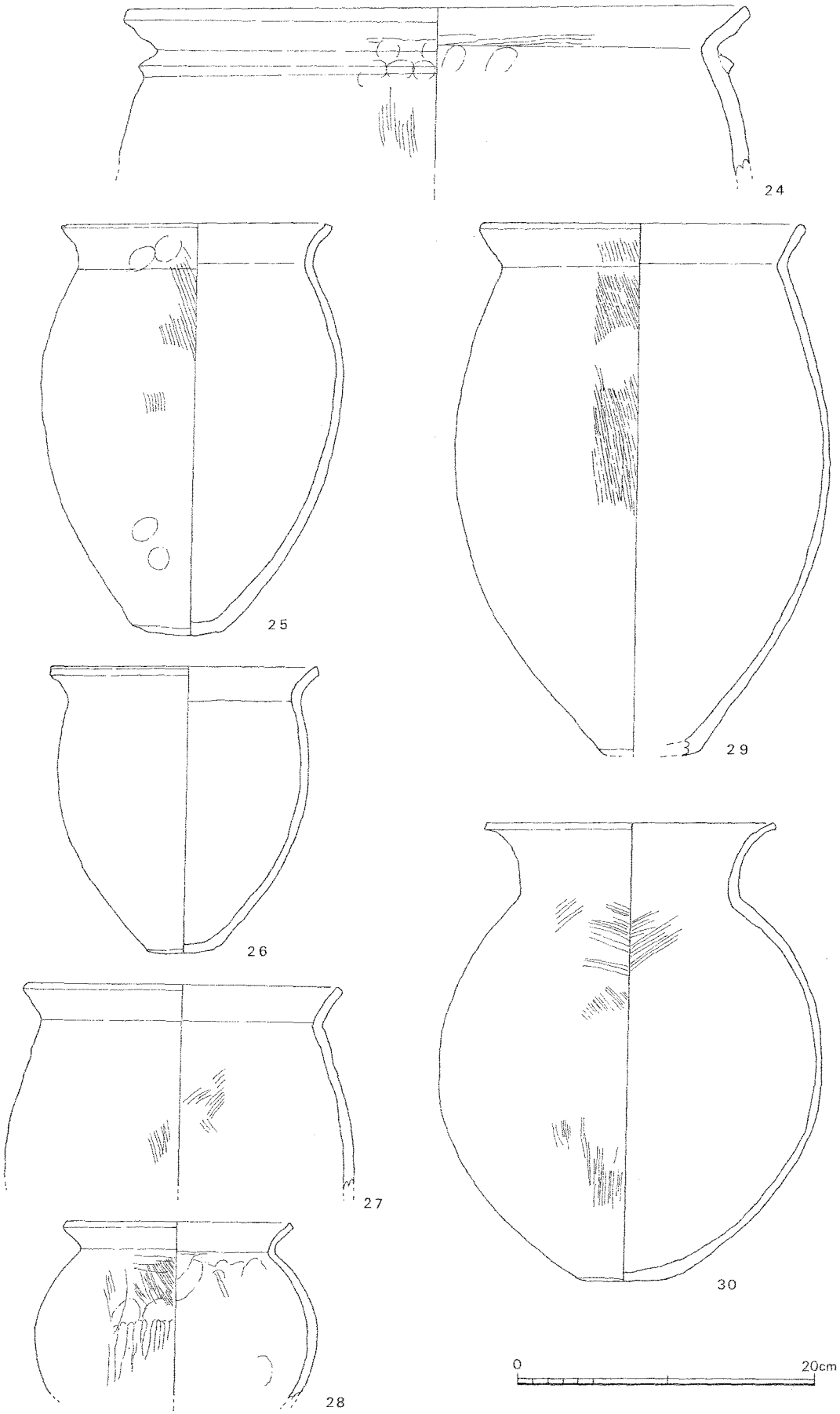
31は鋤形口縁をなす壺。大きく外反する頸部に口縁部の内端が突きだし，外端部は垂下する。32はレンズ状に近い平底から最大径をもつ胴部に移行し，頸部で締まり大きく外反して口縁部へ移行する。口縁端部は丸味を持つ。外面に刷毛目調整を観察する。33はレンズ状の底端部から丸味を持って立ち上がり，最大径をもつ胴部中位に移行し，頸部で締まり，口縁部は直立気味にやや外反する。口縁端部はやや丸味をもつ。内外面に刷毛目調整が見られる。34は頸部が大きく外反して口縁部へ移行する壺。頸部下端に断面三角形の凸帯を付している。口縁端部は平坦となし一条の沈線を巡らしている。35は丸味のある肩部から締まった頸部に移行し，反転して外反する頸部から丸味のある内傾した口縁部を形作る。また，頸部には断面に丸味のある凸帯を付している。口縁端部は平坦としている。36は頸部が大きく外反して屈曲気味の口縁部へ移行する。口縁端部は斜めに丸味をもつ。37は丸味のある肩部から大きく外反する口縁部へ移行する。口縁端部は平坦となしている。38は平底の底部から内湾して口縁部へ移行する小形壺。口縁端部は丸味をもち，内外面ともに丹を付ける。39は丸味のある胴部から頸部で締まり口縁部が外反する小型壺。頸部に小穿孔を行っている。40は狭い平底の底径部から卵形の胴部に移行し口縁部でわずかに屈曲する。頸部に沈線を巡らし，口縁端部を尖り気味となしている。41はわずかな底径部を上げ底とし，卵形の胴部へ移行して口縁端部を尖り気味に丸く納めている。42は尖り底の底部から卵形の胴部へ移行する。内面に刷毛目痕を観察する。

搬入土器（第47図　43）

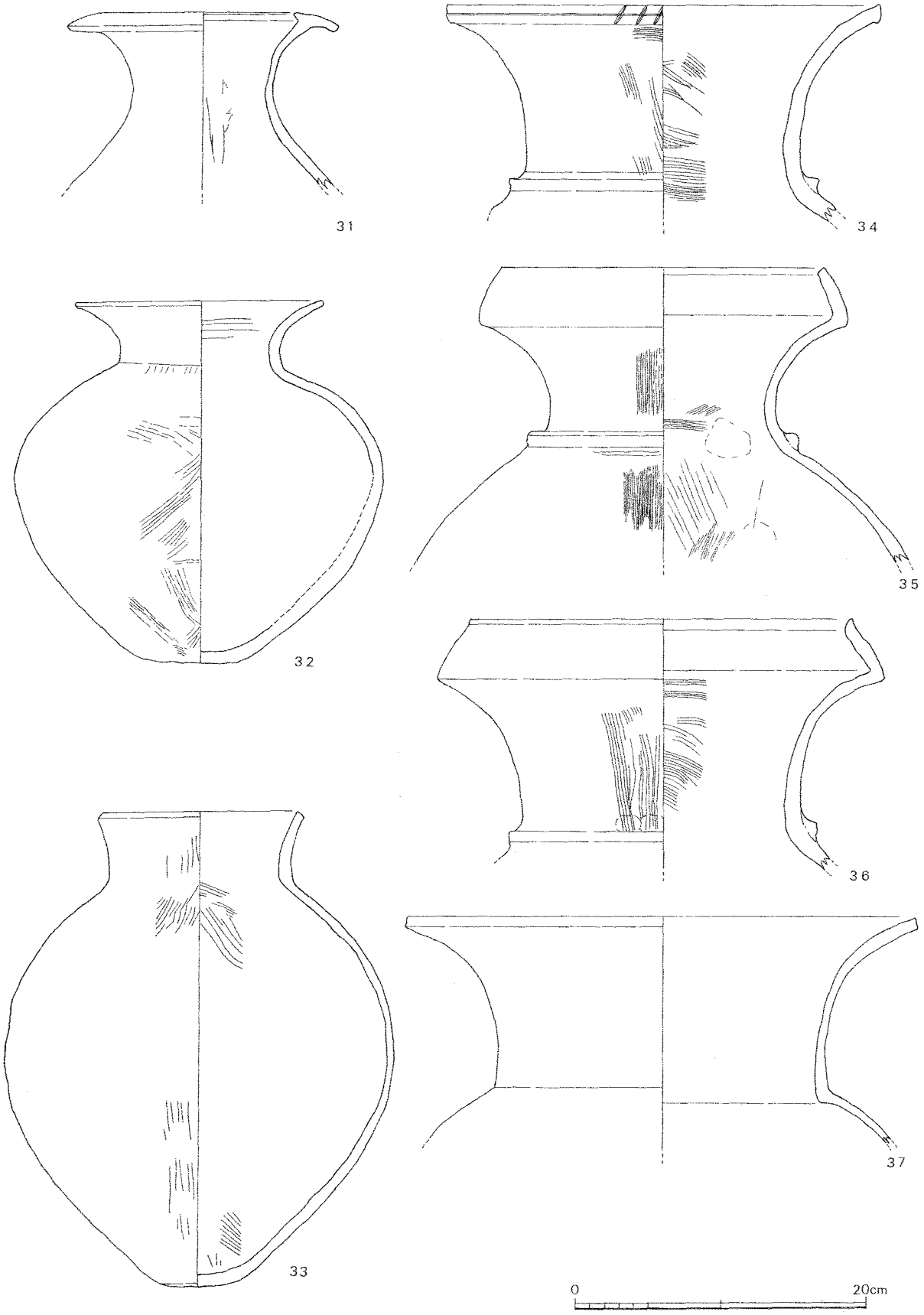
43は西瀬戸内系の土器である。粘土紐を渦巻き状に土器に貼り付けている。

高坏（第47図　44）

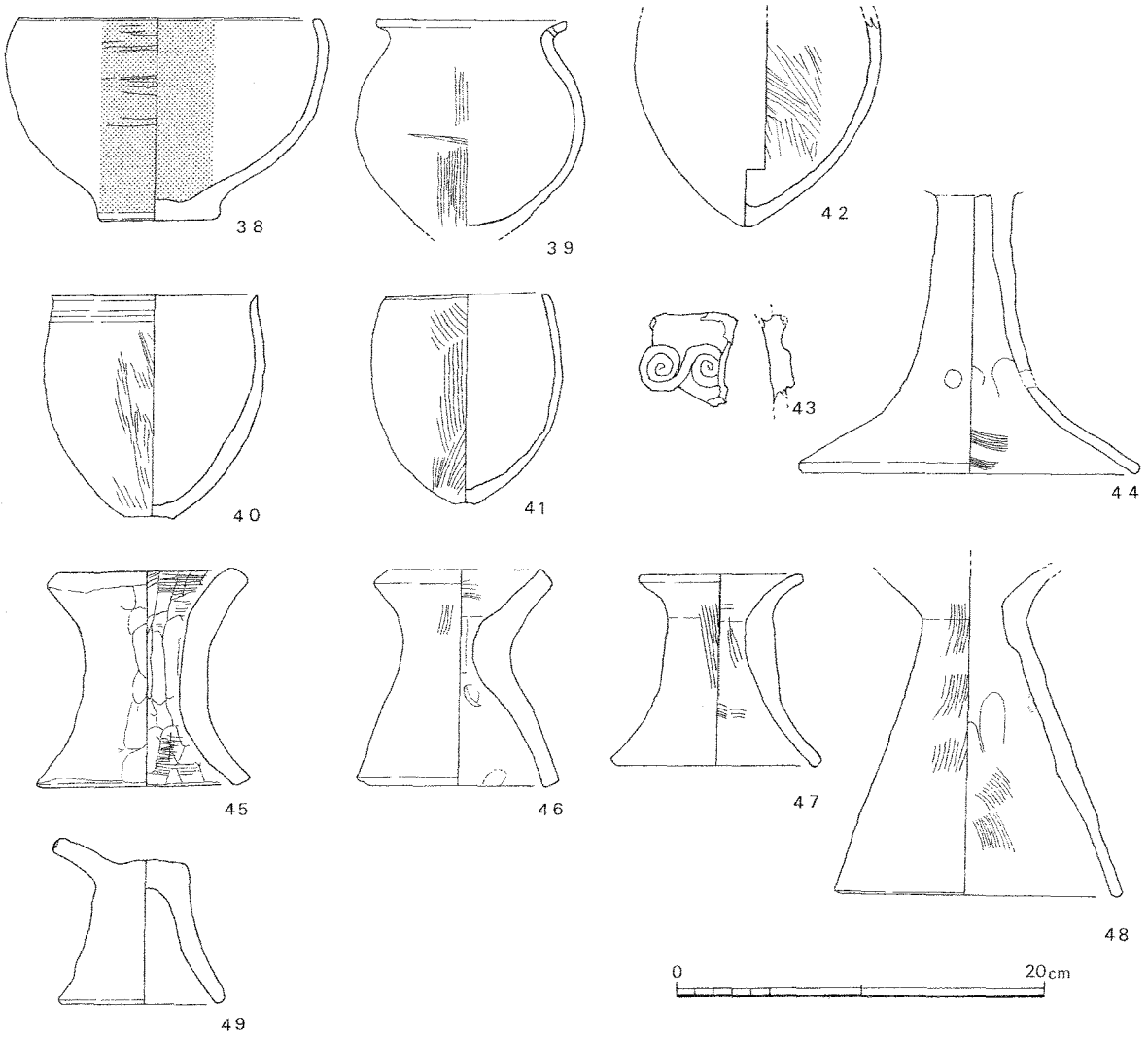
44は高坏の脚部である。裾部端に丸味をもち外反しながら脚中位で直立気味に立ち上がる。また，脚中位に小孔を穿っている。



第45図　ＳＤ３　Ⅱ層出土土器



第46図　ＳＤ３　Ⅱ層出土土器



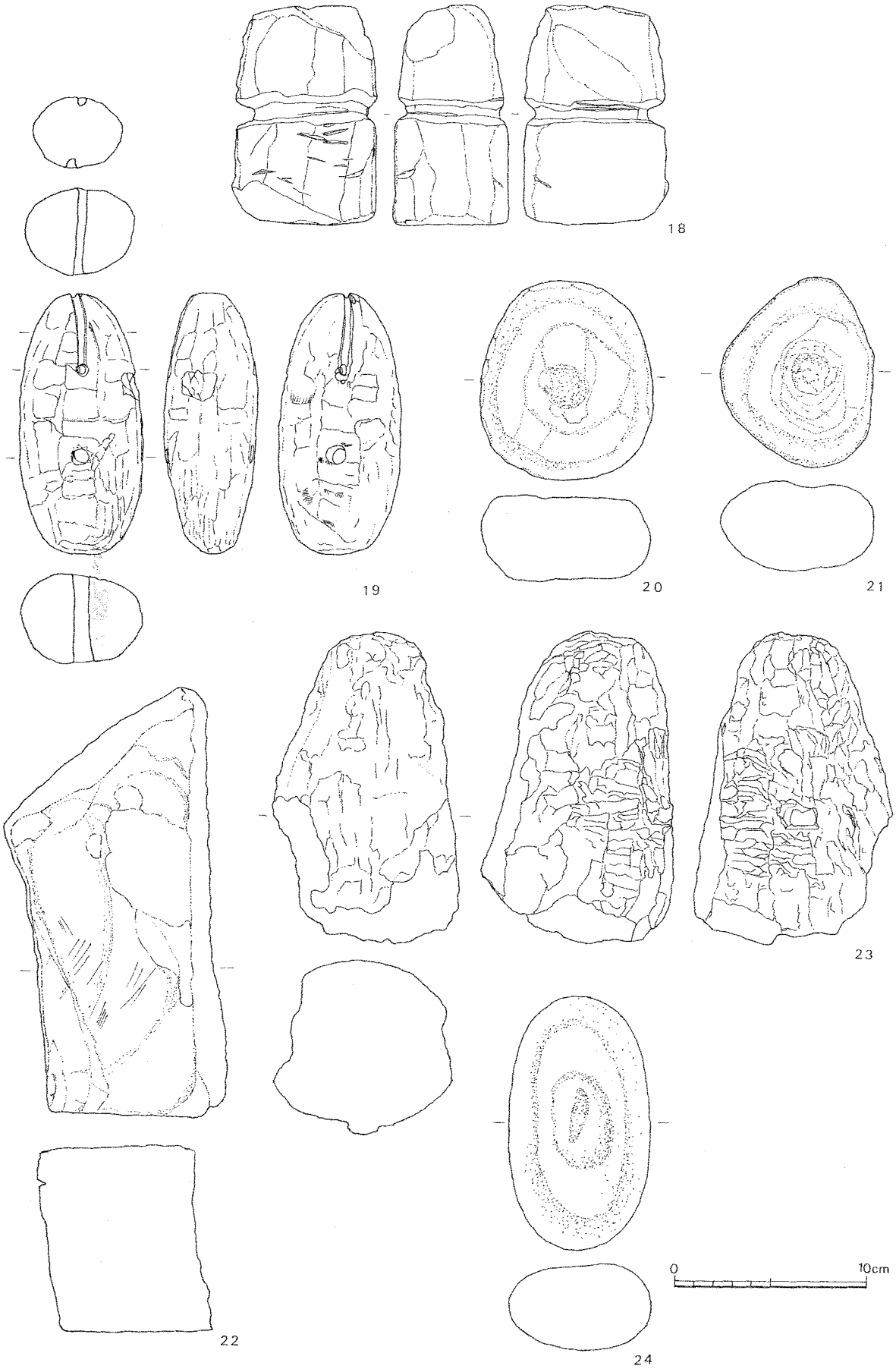
第47図　ＳＤ３　Ⅱ層出土土器（43は1/3，その外は1/4）

器台類（第47図　45～49）

45は脚上位と下位で外反する器台。内面は上位と下位に刷毛目調整し，中位はヘラケズリとしている。46は頸部を肉厚にして上下位を直線的に外方へ開いている。47は脚中位を肉厚にし，上下位を外反させている。48は脚裾部から直線的に頸部へ移行し頸部で反転させている。49は沓形器台。上部端に突起を付けている。上部中央の孔は作られていない。

ＳＤ－３　Ⅱ層石器（第48図　18～23）

18は軽石製の浮き。全面に作出の削りだし痕が残る。中央部の短軸に幅13㎜，深さ８㎜の溝が全周して彫り込まれている。19は滑石製の石錘。器形を卵形にし，鑿状工具で整形している。正裏面の中央部は縦軸に沿って幅20㎜を平坦とし，穿孔を２箇所設けている。中央部の穿孔は径が９㎜で上位の穿孔は５㎜としていずれも貫通している。また上位の穿孔部位から長軸に沿って裏面貫通の穿孔部位まで幅４㎜，深さ５㎜の溝を彫り込んでいる。20は正裏面をスリ石と凹石の兼用で使用している。21



第48図　ＳＤ３　Ⅱ・Ⅲ層出土石器（22，23は1/4，他は1/3）

は正面に敲打による凹が明瞭に残るが裏面は敲打による凹が浅くなっている。22は大型の砥石。使用面が4箇所認められる。比較的きめの細かい砂岩をもちいている。23は支脚。下部は欠損する。把手の作出が良くなく突起状に残っている。体部は鑿の加工痕が全面に付いている。上部端はカットしている。

ＳＤ－３　Ⅲ層土器

壺類（第49図　50）

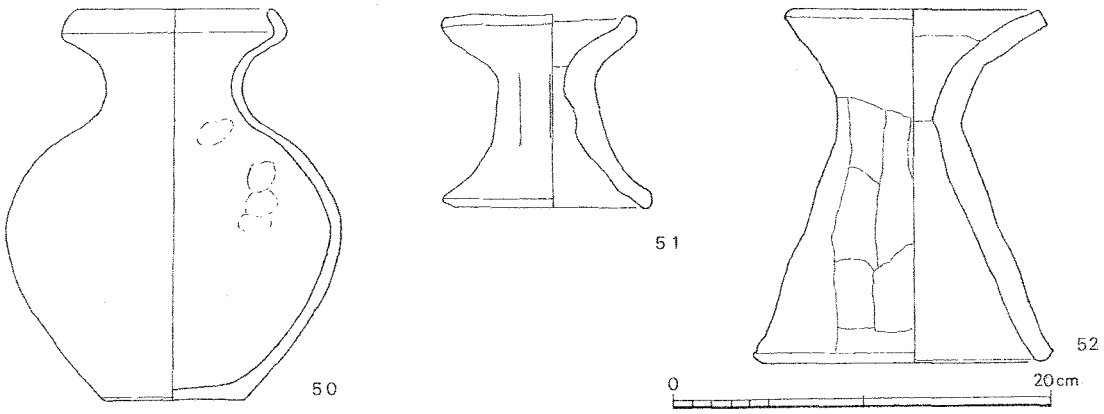
50は平底の底部から最大径をもつ胴部中位へ移行し頸部で締まり，頸部が大きく外反し，丸味をもった口縁部と接続する。

器台類（第49図　51・52）

51は脚部上位で大きく外反する器台。頸部が肉厚で口縁部はやや屈曲している。52は裾端部から丸味をもって直線的に頸部へ移行し，頸部から大きく外反し口縁部は平坦な作りとしている。

ＳＤ－３　Ⅲ層石器（第48図　24）

24は正面の中央部に敲打によって楕円形に浅い凹がついており，凹石の使用が考えられる。



第49図　ＳＤ３　Ⅲ層出土土器

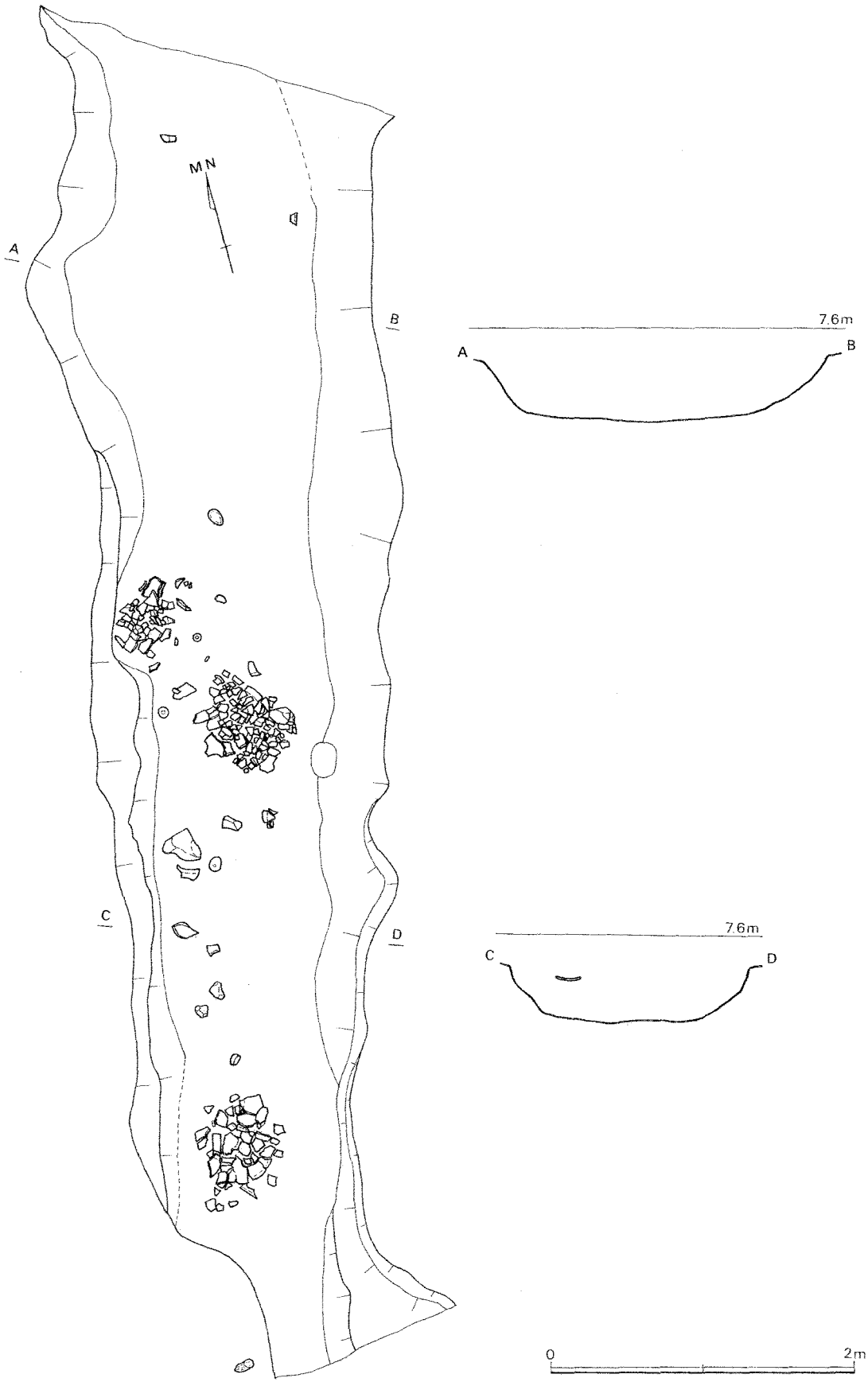
●ＳＤ－４（第６図，第50図）

中央区ＳＤ３と平行にＳＤ１に切られる形でＳＤ４を検出した。土層断面からＳＤ１が掘り直される前に北東方向から南西方向に直線的に掘られたと思われる。おそらく溝は南西方向にも延びていったと考えられるが，後の水田化による地山面の削平で南区では確認できなかった。途切れたところは地山が深く掘り下げられ，それに沿って打ち込まれた杭の跡も確認した。現状で，北東から南西へ約8.5mが残る。最大幅2.3m，最深約40cmを測る。量は少ないが弥生時代後期から古墳時代初頭の土器が出土している。

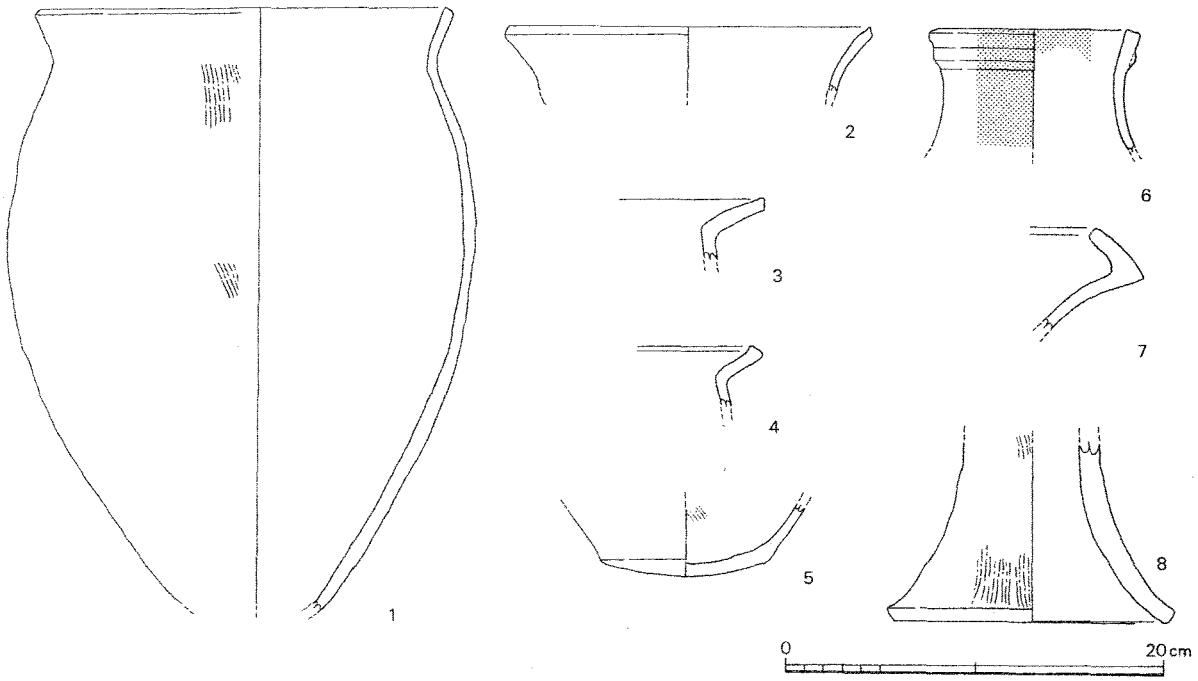
ＳＤ－４　Ⅰ層土器

甕類（第51図　１～５）

１は長胴の甕である。胴部上位に最大径をもち頸部で屈曲し，直線的に外方へ口縁部が伸びる。口縁端部はやや厚味を増している。２は口縁部片の甕で，外反して口縁端部に移行する。３は甕の口縁



第50図　ＳＤ４　遺物出土状況及び断面図（1/40）



第51図　ＳＤ４　Ⅰ層出土土器

部片で頸部で屈曲し直線的に口縁端部が伸びる。口唇部に浅い沈線が見られる。４は屈曲した口縁部をなしている。口縁端部は平坦としている。５はレンズ状の底部片。

壺類（第51図　６・７）

６は直立気味に外反する口縁の壺形土器。口縁下に断面三角形の凸帯を付している。口縁端部は平坦としている。７は大きく外反する頸部に内傾する口縁部を乗せた複合口縁壺。

器台類（第51図　８）

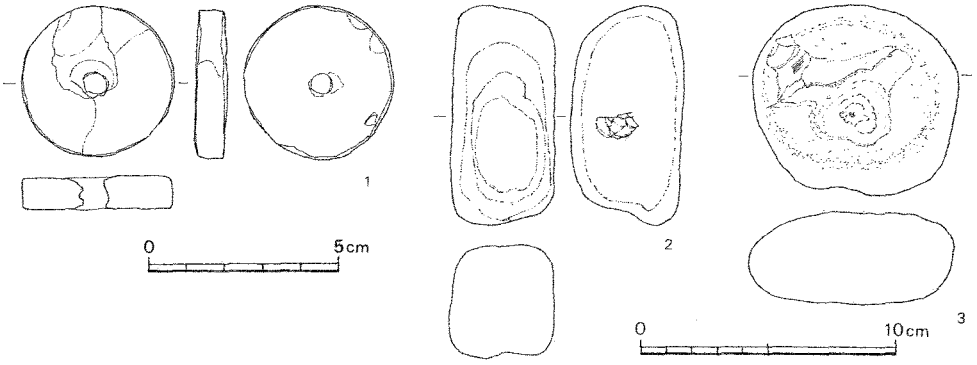
８は外反する器台の脚部で裾端部断面を四角としている。

ＳＤ－４　Ⅰ層石器（第52図　１～３）

１は紡錘車。正裏面・側面ともに研ぎ出され表面は滑らかである。穿孔径は６㎜を測る。２は裏面を凹石として使用している。３は正裏面の中央部を叩き石として使用している。

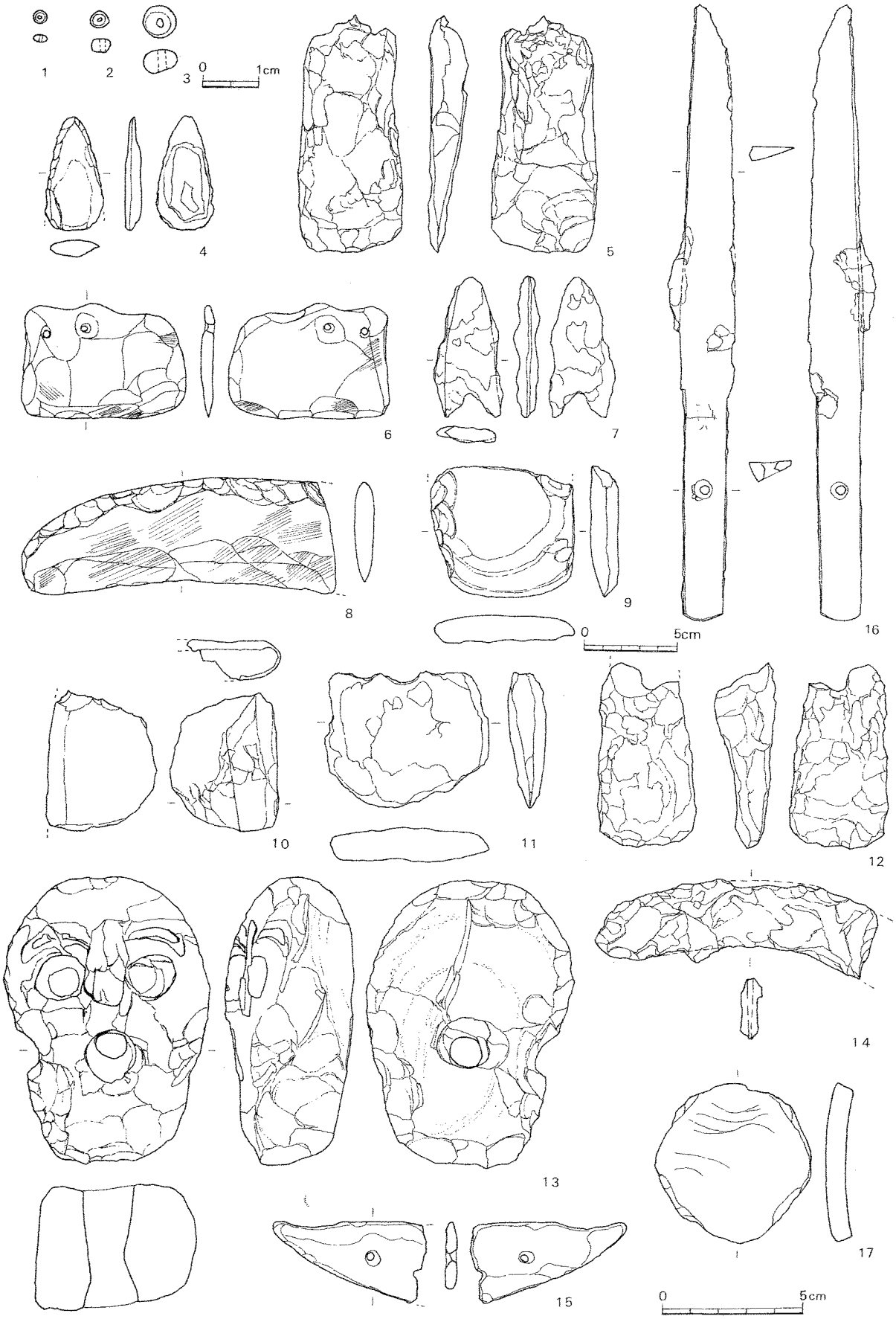
その他の層及び遺構出土遺物（第53図，第54図　１～27）

１～３はガラス製の小玉。１が最小で径が２㎜，孔が0.8㎜を測り，色調は濃紺を呈している。23区Ⅲａ層の出土。２は24区Ⅲａ層の出土。径が2.5㎜，孔が１㎜を測り，濃紺の色調である。３は34区Ⅱ層下の出土。径が5.5㎜，孔径が1.5㎜を測り，色調はライトブルーとなっている。４は24区Ⅲａ層出土。磨製石剣の先端部分と思われる。風化が著しく調整痕は不明。５は２区Ⅲｂ層出土。鍛造鉄斧で基部に鉄片の折り返しが付けられている。６は14区Ⅲｂ層出土。上位２箇所に孔を穿っている。刃部は片刃としている。７は35区Ⅲｂ層出土の鉄鏃。抉りのある無茎鏃である。８は36区Ⅲｂ層出土



第52図　ＳＤ４　Ⅰ層出土石器（１は1/2，その外は1/3）

の石鎌。刃部は正裏面から研ぎ出しを行って両刃としている。背の部分は剥離調整痕を残している。頁岩を素材としている。９は25区Ⅲａ層出土の磨製石斧。風化が著しく研磨状況は確認できない。剥離は左側縁に認められる。10はＳＤ－２区Ⅰ層出土の鉄斧。基部の鉄片折り返しが残っている鍛造鉄斧。11は９区ＳＤ－２区Ⅰ層出土。鍛造鉄斧の刃部片である。錆のため詳細は不明。12はＳＤ－２区Ⅱ層出土。袋状の基部としている鋳造鉄斧。13はＳＤ－２区Ⅱ層出土の人面石。厚味のある凝灰岩を利用して作出している。大きさは，長軸10.2cm，短軸7.4cm，厚さ4.5cmの楕円形をしている。顔面は眉・目・鼻・口を明瞭に彫りだし，口は裏側まで貫通し，両眼はくぼませて頬の部分はやや細める加工をしている。14は16区ＳＤ－３区Ⅰ層出土の鉄鎌。錆による腐食のため詳細は不明。15は７区Ⅲｂ出土の石庖丁。正裏面ともに剥落のため研ぎの調整不明。孔を２箇所設けている。16は刀子で長さ21.7cm，幅2.0cmを測る。目釘穴１個，中茎が８cm，身が13.7cm。銘文があるが判読できない。17から26は円盤状土製品等である。17は35区ＳＤ－３区Ⅰ層出土。布留系甕を転用していて，上位に波状沈線が確認できる。18は25区ＳＤ－３区Ⅰ層出土の紡錘車。周辺を打欠いて円形に整えている。19は35区ＳＤ－３区Ⅰ層出土の土製品。刷毛目調整のある胴部片を円形に加工している。20は35区ＳＤ－３区Ⅱ層出土。胴部片を円形に加工した土製品。21は36区ＳＤ－３区Ⅱ層出土。内外面に刷毛目調整のある胴部片を円形に加工した土製品。22は36区ＳＤ－３区Ⅱ層出土。外面に刷毛目調整のある胴部片を円形に加工した土製品。23は35区ＳＤ－３区Ⅱ層出土。丹塗土器の胴部片を円形に加工した土製品。24は23区Ⅲａ層出土。胴部片を円形に加工した土製品。25は35区Ⅲａ層出土。胴部片を円形に加工した土製品。26は35区Ⅲｂ層出土。刃部付近の鋳造鉄斧と見られるが，錆による腐食のため詳細については不明。27は９区ＳＤ－３区Ⅲ層出土。木製斧柄の未製品で一木からなる曲柄にあたる。加工痕が幹の斧台部分と枝分かれした柄部分に確認される。



第53図　その他の層及び遺構出土遺物（1～3は1/1，9は1/3，その他1/2）

第54図　その他の層及び遺構出土遺物（27は1/4，その他は1/2）

表4　出土石器一覧表①

図番号	出土区	機種名	材質	長軸(cm)	短軸(cm)	厚(cm)	重さ(g)	備　考
1	SD1　I層	石　錘	頁　岩	2.5	1.3	0.9	3.6	
2	SD1　II層	砥　石	砂　岩	11.25	3.3	2.1	165.1	
3	SD1　II層	砥　石	砂　岩	9.42	6.45	3.2	335.3	
4	SD1　II層	凹　石	玄武岩	10.45	10.1	6.1	1049.4	裏面はスリ石
5	SD1　II層	凹　石	玄武岩	12.3	10.3	4.4	920	裏面は叩き石
6	SD1　II層	凹　石	玄武岩	12	10.6	5	839.2	裏面も凹石
7	SD1　II層	叩き石	玄武岩	11	9	5.1	655	四面に使用痕あり
8	SD1　II層	スリ石	玄武岩	12.1	11.1	4.35	889	裏面は叩き石
9	SD1　II層	スリ石	玄武岩	14.4	7.9	7.4	1335.8	裏面は叩き石
10	SD1　II層	叩き石	玄武岩	11.5	9.2	6.35	1080	裏面はスリ石
11	SD1　II層	スリ石	玄武岩	12.65	8	5.5	735	裏面もスリ石
12	SD1　II層	凹　石	玄武岩	13.1	11.1	6.4	1484.2	裏面は叩き石
13	SD1　II層	支　脚	玄武岩	15.9	15.95	7.9	1740	
14	SD1　III層	叩き石	玄武岩	10.15	9.8	6.2	1011	裏面も叩き石
15	SD1　III層	凹　石	玄武岩	13.35	9.7	5	908	裏面は叩き石
16	SD1　III層	凹　石	玄武岩	11.3	9.45	6.85	1085.8	側面を叩き石

図番号	出土区	機種名	材質	長軸(cm)	短軸(cm)	厚(cm)	重さ(g)	備　考
1	SD2　I層	スリ石	玄武岩	10.4	9.4	4.85	720	
2	SD2　I層	スリ石	玄武岩	11	9.5	6.3	810	
3	SD2　I層	叩き石	玄武岩	12	9.25	4.15	640	側面を使用
4	SD2　I層	凹　石	玄武岩	10.75	10.05	7.5	1158.6	側面を叩き石
5	SD2　I層	スリ石	玄武岩	11.5	9.7	6.2	1116.4	
6	SD2　I層	スリ石	玄武岩	12.92	10.6	6.3	1305.9	側面を叩き石
7	SD2　I層	スリ石	玄武岩	12	9.35	5	843.7	側面を叩き石
8	SD2　I層	スリ石	玄武岩	12.45	8.6	4.3	590.2	裏面スリ石、側面叩き石
9	SD2　I層	叩き石	玄武岩	11.6	10.25	8.6	1511.3	裏面も叩き石
10	SD2　I層	スリ石	玄武岩	8.4	7.25	5.6	473.4	裏面もスリ石
11	SD2　I層	凹　石	玄武岩	10.6	8.1	5.4	603	上部端を叩き石
12	SD2　I層	叩き石	玄武岩	15.2	11.8	8.4	2137.8	裏面はスリ石
13	SD2　I層	凹　石	玄武岩	8.7	6.3	3.9	293.2	側面を叩き石
14	SD2　I層	凹　石	玄武岩	11.55	7.05	6.05	745.2	裏面も凹石
15	SD2　I層	スリ石	玄武岩	9.9	8.75	5.5	771.3	正面・右側を叩き石
16	SD2　I層	石　皿	玄武岩	20.9	16.8	7.1	3800	
17	SD2　I層下	石　斧	頁　岩	5.2	2.3	1	21.1	
18	SD2　I層下	砥　石	砂　岩	12.45	8.6	4.4	702.4	裏面を使用する
19	SD2　I層下	凹　石	玄武岩	10.6	8.75	5.5	785	
20	SD2　I層下	凹　石	玄武岩	11.65	11.5	7	1320	右側を叩き石
21	SD2　I層下	凹　石	玄武岩	13.8	8.9	5.3	1019.2	裏面・両側面を叩き石
22	SD2　I層下	凹　石	玄武岩	8.9	7.95	5	560	裏面も凹石
23	SD2　II層	切り子玉	水　晶	2	2	1.4	7.5	
24	SD2　II層	凹　石	玄武岩	10.1	9.15	5	794	側面も凹石
25	SD2　II層	凹　石	玄武岩	12	9.9	5.4	846	裏面はスリ石
26	SD2　II層	スリ石	玄武岩	10.75	8.85	5.2	773	側面は叩き石
27	SD2　II層	叩き石	玄武岩	17	7.55	6.4	1105	上部と下部の叩き石
28	SD2　II層	凹　石	玄武岩	10.35	9.45	6.4	960	裏面と右側を凹石
29	SD2　II層	叩き石	玄武岩	11.3	11.5	7	1289.8	
30	SD2　II層	叩き石	玄武岩	10.35	8.2	4.4	552	裏面も叩き石
31	SD2　II層	凹　石	玄武岩	15.6	7.7	5.1	860	正裏面とも2カ所凹石
32	SD2　II層	スリ石	玄武岩	13.1	6.6	4.8	581.8	
33	SD2　II層	凹　石	玄武岩	12.2	9.7	6.6	1100	裏面のみ
34	SD2　II層	凹　石	玄武岩	11.7	9.6	7.8	1460	裏面も凹石
35	SD2　III層	叩き石	玄武岩	11.3	2.8	3.25	133.3	
36	SD2　III層	スリ石	玄武岩	7.9	7.3	4.4	351.9	裏面もスリ石後叩き石
37	SD2　III層	凹　石	玄武岩	13.9	10.1	5.1	1212.4	裏面も凹石
38	SD2　III層	凹　石	玄武岩	12.4	10.7	6.8	1249.2	
39	SD2　III層	凹　石	玄武岩	13.85	9.5	6.55	1280	裏面も凹石、上下は叩き石
40	SD2　III層	凹　石	玄武岩	17.7	10	4.9	1347.5	裏面はスリ石
41	SD2　III層	凹　石	玄武岩	12.7	10.8	6.5	1235.1	裏面も凹
42	SD2　III層	台　石	堆積岩	20.6	14.2	9	3120	

表5　出土石器一覧表②

図番号	出土区	機種名	材質	長軸(cm)	短軸(cm)	厚(cm)	重さ(g)	備　考
1	SD3　I層	石　錘	頁　岩	7.5	2.6	1.35	17.2	
2	SD3　I層	石包丁	頁　岩	4.4	3.3	0.3	6.9	
3	SD3　I層	石　斧	頁　岩	6.2	4	1.4	44.5	石剣からの転用か
4	SD3　I層	錘	堆積岩	9.15	6.85	6.25	393.6	
5	SD3　I層	浮　き	軽　石	10.5	8.4	7.5	157.2	
6	SD3　I層	叩き石	玄武岩	8.3	8	3.2	322	裏側と側面を叩き石
7	SD3　I層	凹　石	玄武岩	9.5	7.95	5.5	602.2	右側を叩き石
8	SD3　I層	凹　石	玄武岩	12.8	9.8	6.3	1511.4	裏面は凹石とスリ石
9	SD3　I層	凹　石	玄武岩	10.8	8.4	5.4	706.9	
10	SD3　I層	スリ石	玄武岩	17.8	10.3	5.6	1500	上部スリ石、下部叩き石
11	SD3　I層	凹　石	玄武岩	14.7	9.25	6.1	1269.7	裏面は凹石とスリ石
12	SD3　I層	凹　石	玄武岩	11.6	10.35	6	1133.1	裏面は凹石とスリ石
13	SD3　I層	スリ石	玄武岩	14.7	7.2	4.7	733	裏面のみ
14	SD3　I層	凹　石	玄武岩	13.2	10.5	5.3	1139	裏面スリ石
15	SD3　I層	石　錘	玄武岩	11.9	8.3	3	42	
16	SD3　I層	支　脚	凝灰岩	20.4	11.5	14	3080	
17	SD3　I層	支　脚	凝灰岩	24.2	12.9	16.8	4880	
18	SD3　II層	浮　き	軽　石	10.4	7.6	6.1	119.8	
19	SD3　II層	石　錘	滑　石	13.5	6.4	4.9	582.3	
20	SD3　II層	スリ石と凹石	玄武岩	10.3	9	4.4	730	裏面もスリ石と凹石
21	SD3　II層	叩き石	玄武岩	9.8	8	4.6	521.9	裏面も叩き石
22	SD3　II層	砥　石	砂　岩	29.95	15.6	12.9	8800	
23		支　脚	凝灰岩	21.6	13	13.5	3220	
24	SD3　III層	凹　石	玄武岩	13.1	7.3	4.4	678.2	
1	SD4　I層	紡錘車	頁　岩	4.8	4.8	1.1	33.9	
2	SD4　I層	凹　石	玄武岩	10.3	5	5.2	488.2	裏面を使用
3	SD4　I層	叩き石	玄武岩	9.8	8.9	4.5	520	裏面も叩き石

図番号	出土区	機種名	材質	長軸(cm)	短軸(cm)	厚(cm)	重さ(g)	備　考
1	34II下	ガラス小玉	ガラス	1.2	1.12	0.82		
2	24IIIA	ガラス小玉	ガラス	0.7	0.6	0.5		
3	23IIIA	ガラス小玉	ガラス	0.5	0.45	0.29		
4	24IIIA	磨製石剣	頁　岩	4	2	0.6	4.3	
5	2IIIb層	鍛造鉄斧	鉄	8.4	3.75	1.4	63.8	
6	北14IIIB	石包丁	頁　岩	5.8	4.1	0.5	18.6	
7	35IIIB	鉄　鏃	鉄	4.95	2.95	0.95	9.1	
8	36IIIB	石　鎌	頁　岩	11.1	4.1	0.7	51.3	立石系
9	25IIIA	石　斧	頁　岩	7.5	6.9	1.6	109.5	
10	10・SD2　I層	鍛造鉄斧	鉄	4.95	3.89	1.45	34.2	
11	9・SD2　I層	鍛造鉄斧	鉄	5.8	4.8	1.4	81.7	
12	11・SD2　II層	鋳造鉄斧	鉄	6.6	3.5	2.2	50.6	
13	10・SD2　II層	人面石	凝灰岩	10.2	7.4	4.5	320	
14	16・SD3　I層	鉄　鎌	鉄	10.05	3.5	0.85	28.7	
15	7IIIb	石包丁	頁　岩	5.45	2.9	0.4	7	
16	11－3層上面	紡錘車	土製品	21.7	2	0.5	81.3	
17	北35・SD3-I	短　剣	鉄	5.6	5.55	0.91	22.3	
18	北25・SD3-I	円　盤	土製品	4.4	4.2	0.6	8.4	
19	北35・SD3-I	円　盤	土製品	5.21	5	0.75	17	
20	北35・SD3-II	円　盤	土製品	5.2	4.39	1	24.5	
21	36・SD3　II	円　盤	土製品	5.3	5.15	0.8	21.7	
22	36・SD3　II	円　盤	土製品	6.2	5.36	0.85	28	
23	北35・SD3-II	円　盤	土製品	5.8	5.3	0.7	19.1	
24	23IIIA	円　盤	土製品	5.05	4.49	0.99	24	
25	35IIIB	円　盤	土製品	6.85	6.29	0.85	54.4	
26	35IIIb	鉄　斧	鉄	7.4	6.4	2.85	124	
27		斧　柄	木　製					木製品

●その他の遺構

南区や中央区の東側で柱穴やPitを検出した。しかし，地山が大幅に削られ，深いものでも約15cm程度しかなく，用途については不明である。

註文献

註１　『弥生文化の研究』４弥生土器Ⅱ　〈編集〉金関　恕・佐原　眞
「２九州地方の弥生土器」　2.高三潴式と西新町式土器　柳田康雄の土器型式基準に準じた。

註２　『古墳時代の研究』６土師器と須恵器　編集　石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎　「２九州」柳田康雄の土器型式基準に準じた。

註３　『金海良洞里古墳文化』東義大學校博物館「161第280号　三耳附壺（瓦質）」2000

註４　原の辻遺跡調査事務所が株式会社古環境研究所に依頼した原の辻遺跡特定調査におけるプラント・オパール分析2002の資料を報告している。

参考文献

木器集成図録　近畿原始篇（解説）奈良国立文化財研究所資料第36冊奈良国立文化財研究所1993
西新町遺跡Ⅲ－福岡県福岡市早良区西新所在西新町遺跡第12次調査報告２－福岡県文化財調査報告書第157集福岡県教育委員会2001
千々賀遺跡－住宅団地造成工事に係る埋蔵文化財調査－唐津市教育委員会 2001

『九州考古学研究』弥生時代篇　小田富士雄　学生社版 1983
『土器からみた日韓交渉』武末純一学生社 1991
『古文化論集』下巻　森貞次郎博士古稀記念　「原の辻上層式土器の検討」高倉洋彰 1982
『原の辻遺跡』原の辻遺跡発掘調査報告書第11集　長崎県教育委員会 1999

Ⅳ．まとめ

1．遺構について

本年度は芦辺町深江鶴亀触字八反地区の調査を実施し，環濠推定地の確認作業を行った。調査の結果３条の濠と１条の溝を検出した。また，３条の濠から出土した遺物は44,008点を数え，溝からは352点が出土している。以下に各環濠と溝の検出状況と時期について説明を加えて行きたい。

ＳＤ１は調査中央区の東側にあり，現状で最大幅が約2.8m，最深が0.8mの断面Ｕ字形を呈する。ＳＤ１は丘陵の地形に合わせるように丘陵裾の南側から中央部西側へ突きだし110度北東へ折れて丘陵に入り込む。また，濠は一度埋まった後再度掘り直しを行い，丹塗り土器等を大量に投棄している状況が確認された。

ＳＤ２の濠幅は現状で約３ｍ，最深約1.5m，調査南区から北へ湾曲し，調査中央区から調査区外へ出ていく結果を得られている。検出した濠幅約３ｍは，濠幅全体を把握する調査区を設定しておらずＳＤ２の東西の濠幅は確認していないが，過去の試掘調査の結果ではさらに西側へ３ｍ延びた位置に濠の立ち上がりが確認されている。このことから，濠幅は南区で東西約６ｍと予測された。また，ＳＤ２はＳＤ３を切る位置に存在している。この濠は湧水があって水が常時溜まっていたかあるいは水が流れていた状況を想定できる。遺物から判断できることは，水流による遺物自体の破損またはローリング等の状況は見られないといえる。埋まる行程としては，濠内の土層からⅢ層の弥生後期の遺物が出土する時期からしだいに浅くなり，Ⅱ層からⅠ層の古墳時代初頭の時期に急激に埋まりだし，大量の遺物を投棄した状況を示している。

ＳＤ３は調査中央区の南西側から調査北区の東側へ徐々に幅を広げながら延びている。調査中央区北側での濠の最大幅は約2.5m，最深で約1.2mを測る。ＳＤ３も再度掘り直しを行っているが，調査中央区の中央部から西側付近は，近世から近年にかけての水田耕作により地山面削平の影響を受けている箇所がある。このため濠上部も同様に削平を受けていた。調査北区は比較的上部の地山削平を免れており，掘り直し後の投棄土器が多量に残存している状況であった。現存の濠最大幅が約2.8m，最深が約1.3mを測る。濠の断面はＵ字形をしている。なお，濠を検出した上面に焼土の集中箇所を確認している。

ＳＤ４はＳＤ１と切合関係にあり，新旧ではＳＤ４がＳＤ１に切られており，ＳＤ４の溝がＳＤ１より前に掘られていたと言える。溝の全体については，調査南区が地山面を削平されていて溝が消滅し，調査中央区北側についてはＳＤ１によって切断されている状況である。現状で確認できた長さが北東から南西へ約8.5m，最大幅は2.3m，最深は0.4mを測り，断面Ｕ字形を呈する。

2．出土遺物について

ＳＤ１は弥生時代後期の遺物を中心に出土し，その遺物点数は7,479点を数える。Ⅱ層から出土し

た遺物は，弥生中期の須玖Ⅱ式の甕形土器や壺形土器が最も古いが出土数が少ない。これと比較して，後期の土器は多量に出土している。後期の甕形土器は，口縁部が「く」に頸部で外反し胴長であり，壺形土器は複合口縁に変化していることが特色であると言える。これに加えて，楽浪系の鉢形土器が出土している。Ⅲ層は須玖Ⅱ式の壺形土器が出土するがⅡ層同様に，弥生後期の土器が態勢を占めている。例として第14図44の後期３様式[註1]の「く」字状口縁に凸レンズ状平底の底部をなす甕形土器や壺形土器では，後期５様式にあたる直立した口縁部をなす複合口縁壺が出土している。Ⅳ層出土の土器は，濠の掘り返し部分から出土した資料である。口縁部は直線的に「く」字に屈曲し，胴部上位に最大径があり底部は平底とした後期２様式が出土している。

ＳＤ２はⅠ層とⅡ層に古墳時代初頭[註2]の遺物が大量に出土し，さらに三韓系瓦質土器[註3]が出土している。出土点数は，19,024点ある。Ⅰ層下から出土の遺物は，在地系の甕形土器と外来系の甕形土器が混在した状況を呈している。例として，第24図１・３・４が在地系であり，５・６が外来系である。また，壺形土器は二重口縁の土器が出土している。Ⅱ層は弥生後期５様式の口縁部が屈曲気味で端部をコ字に納めた甕形土器やタタキを外面に施した第30図40等の土器が出土している。また一方で，波状沈線文を配した布留系土器が出土している。三韓系瓦質土器もⅡ層からの出土である。石器では，石鑿・砥石・凹石・叩き石・スリ石に加え切子玉・人面石等が出土している。Ⅲ層以下は，弥生後期の４～５様式の遺物を中心に出土している。

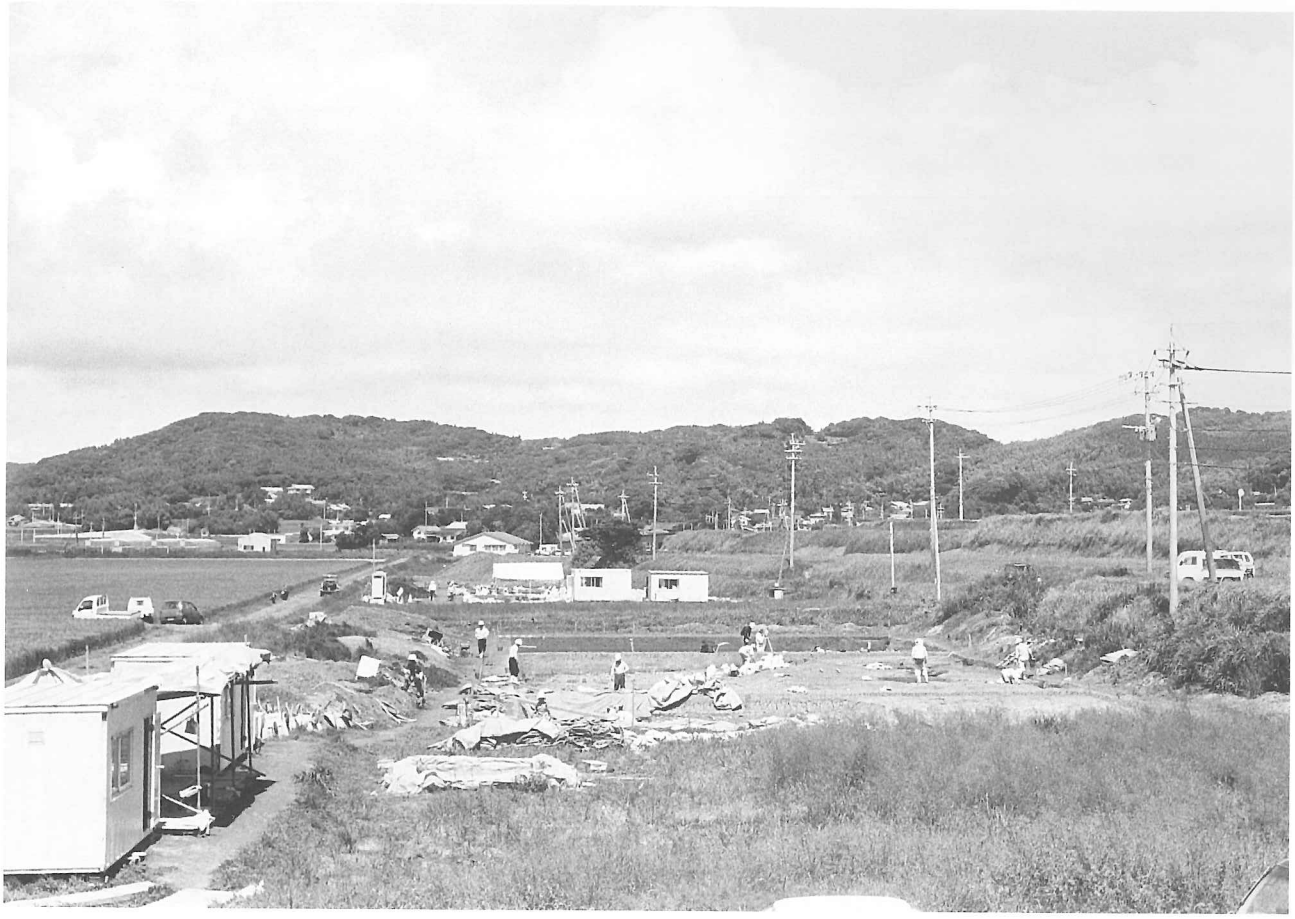
ＳＤ３は弥生時代後期の遺物を中心に弥生中期須玖Ⅱ式の壺形土器と後期後半の遺物が出土している。出土点数は17,825点を数える。Ⅰ層は口縁端部がコ字形をなし頸部に断面三角形の凸帯を付けた甕形土器と後期２様式前半までに見られる丸味のある袋状口縁が第40図６が出土している。器台では胴部最小径が上端にあるものが多い。Ⅱ層の甕形土器は凸レンズ状と凸レンズ状平底とがあり，口縁部は「く」字となる。壺形土器は，複合口縁の土器と頸部から大きく外反する土器が出土している。また，小形の壺では平底の無形・尖り底等が見られる。その他に西瀬戸内系の搬入土器片が出土している。Ⅲ層は２様式前半の壺形土器の出土がある。石器では，滑石製の石錘・軽石製の浮き・支脚石・砥石・叩き石・凹石・スリ石等の生活状況を窺わせる遺物が出土している。

ＳＤ４は弥生時代中期の壺形土器口縁部と後期３様式後半から４様式の甕形土器が出土している。出土量は極端に少なく406点を数えるにすぎない。石器では紡錘車・スリ石・叩き石等が出土している。

３．そ の 他

ＳＤ１とＳＤ３の植物珪酸体によるプラント・オパール分析[註4]結果を報告すると，ＳＤ１は掘り返しを行っていない濠内覆土の10層にイネのプラント・オパールが5,300個／ｇと密度の高い値がでている。ＳＤ３は10層から11層の濠内覆土に3,800個／ｇの値がでている。また，イネ以外の分類群では，ＳＤ１の掘り返した３層と６層の濠内覆土にタケ亜科（おもにメダケ属）を多量に検出している結果を得られた。

図　　版

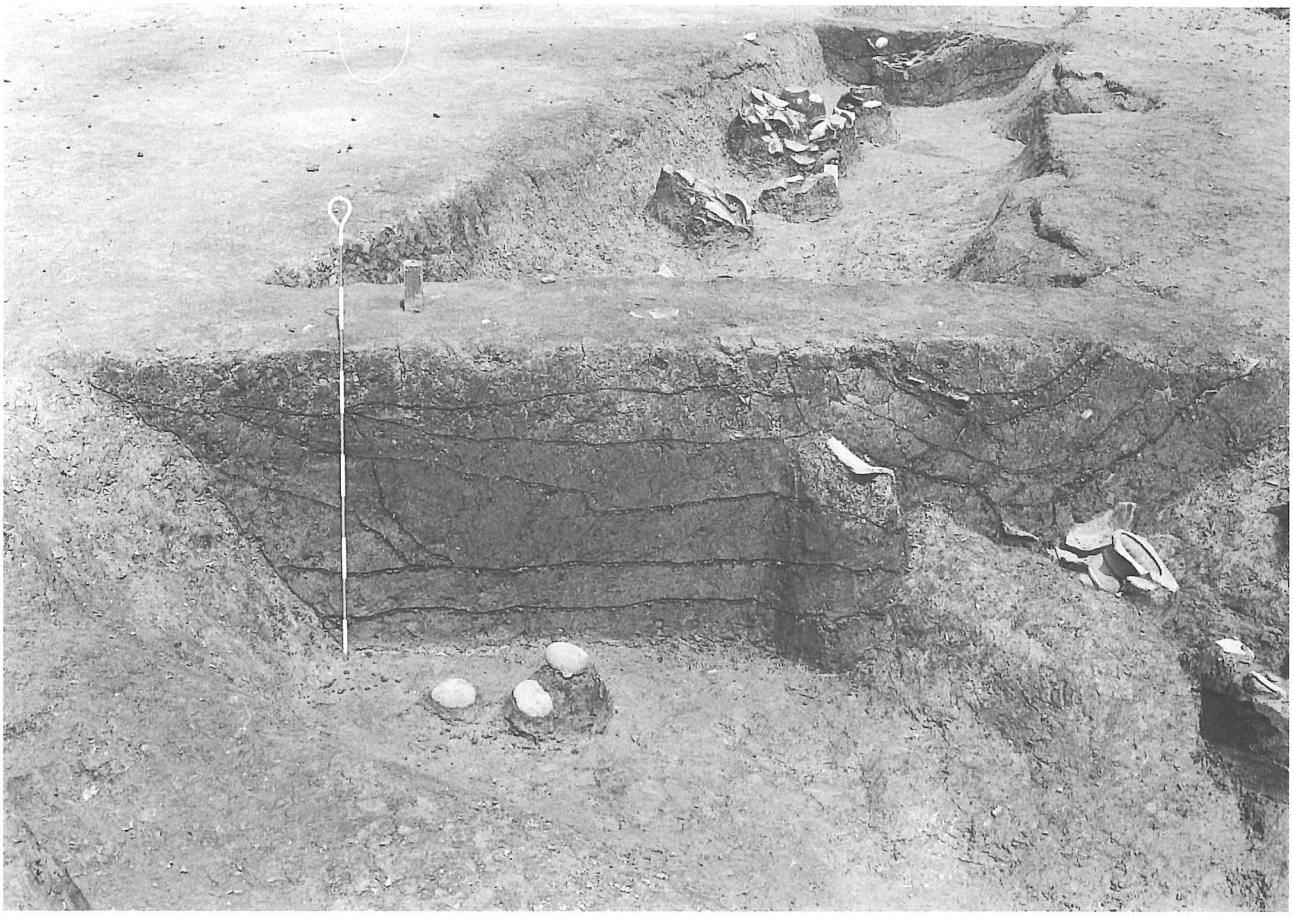


調査区遠景（南から）

中央区　ＳＤ１・ＳＤ４　検出状況

中央区　ＳＤ１　Ⅱ層　遺物出土状況

中央区　ＳＤ１　Ⅲ層　遺物出土状況



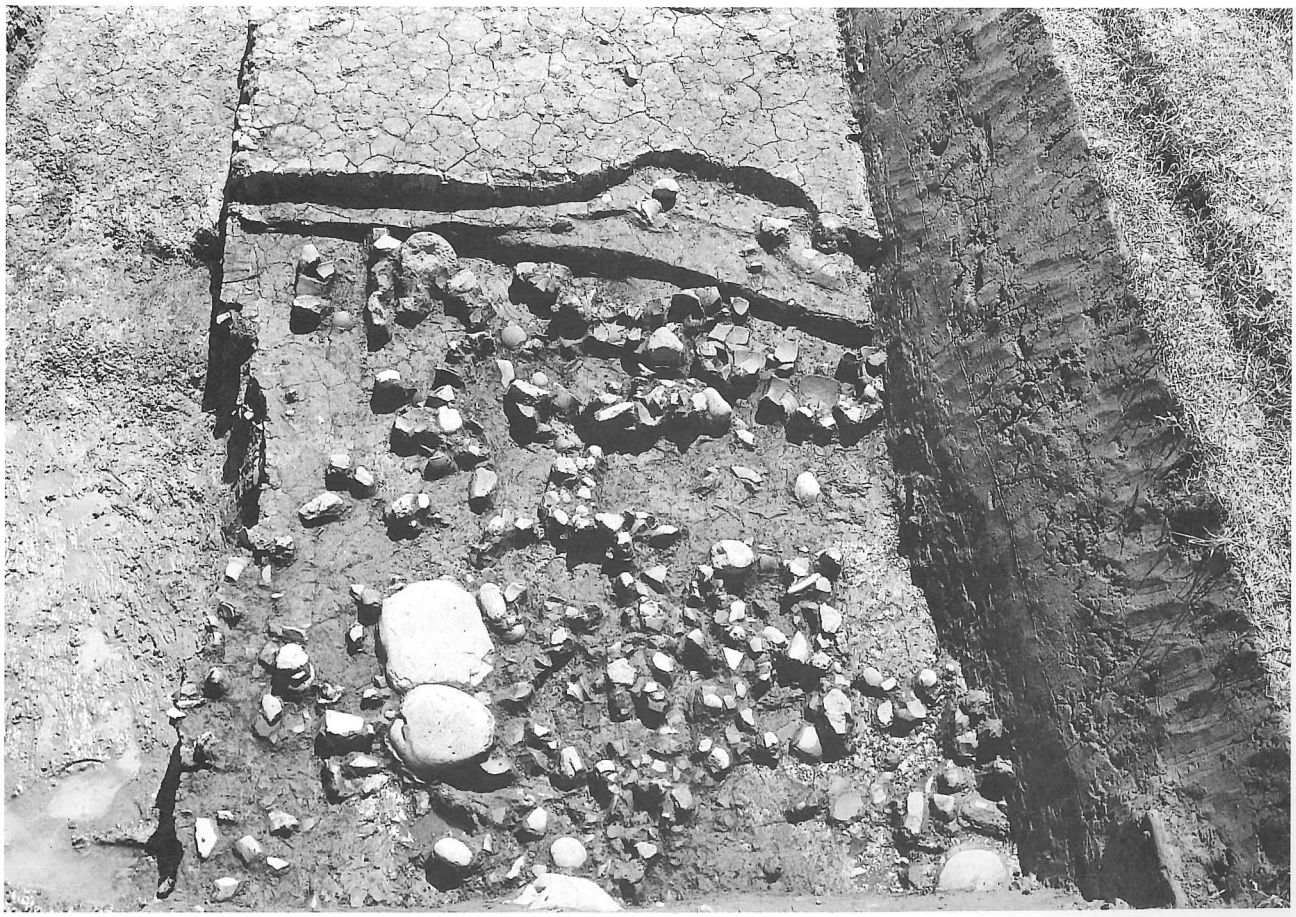
中央区　ＳＤ１　横断土層

中央区　ＳＤ１　横断土層

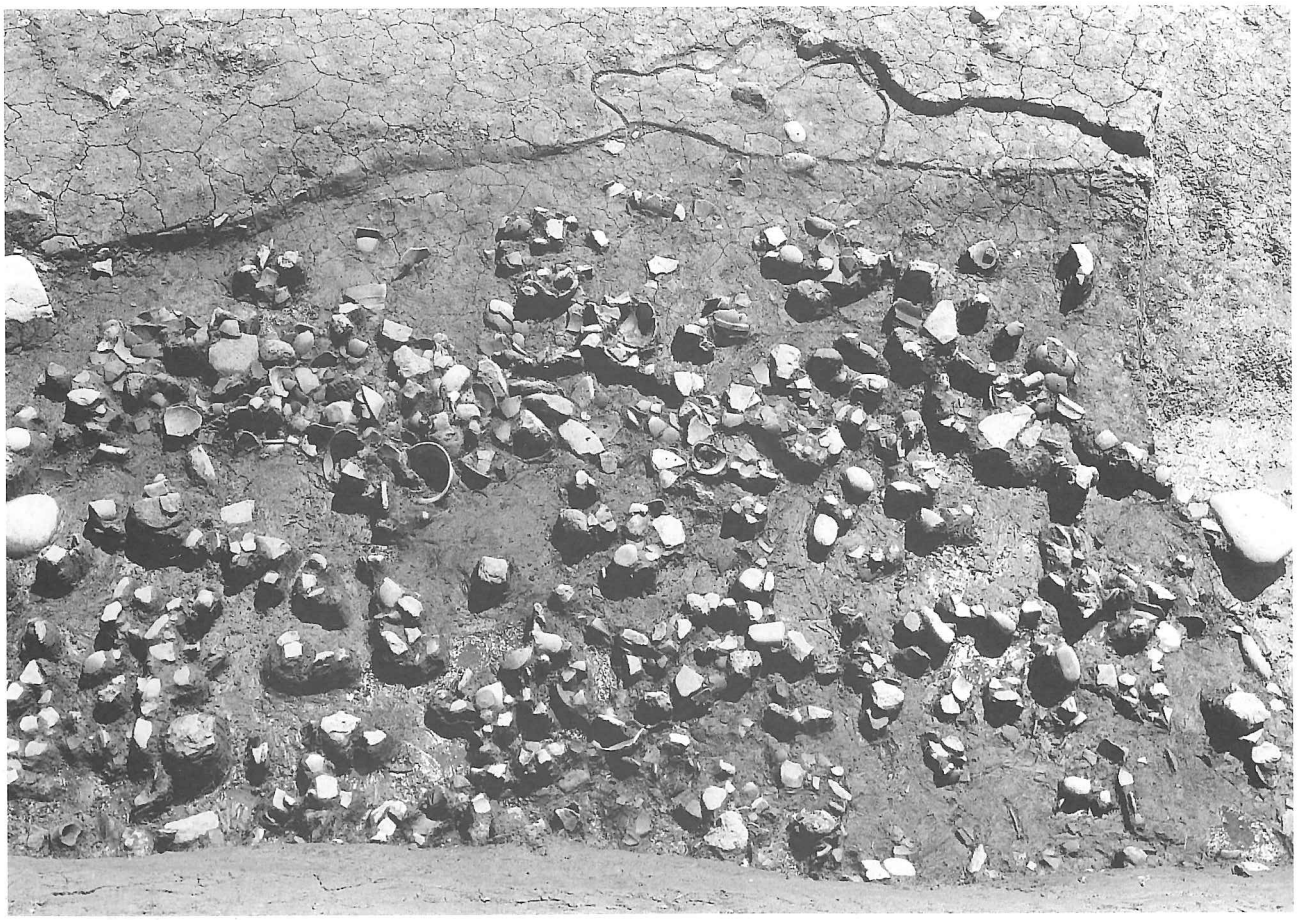
中央区　ＳＤ１・ＳＤ３検出状況

南区　ＳＤ２検出状況

南区　ＳＤ２　Ⅰ層下　遺物出土状況（南から）



南区　ＳＤ２　Ⅰ層下　遺物出土状況（西から）

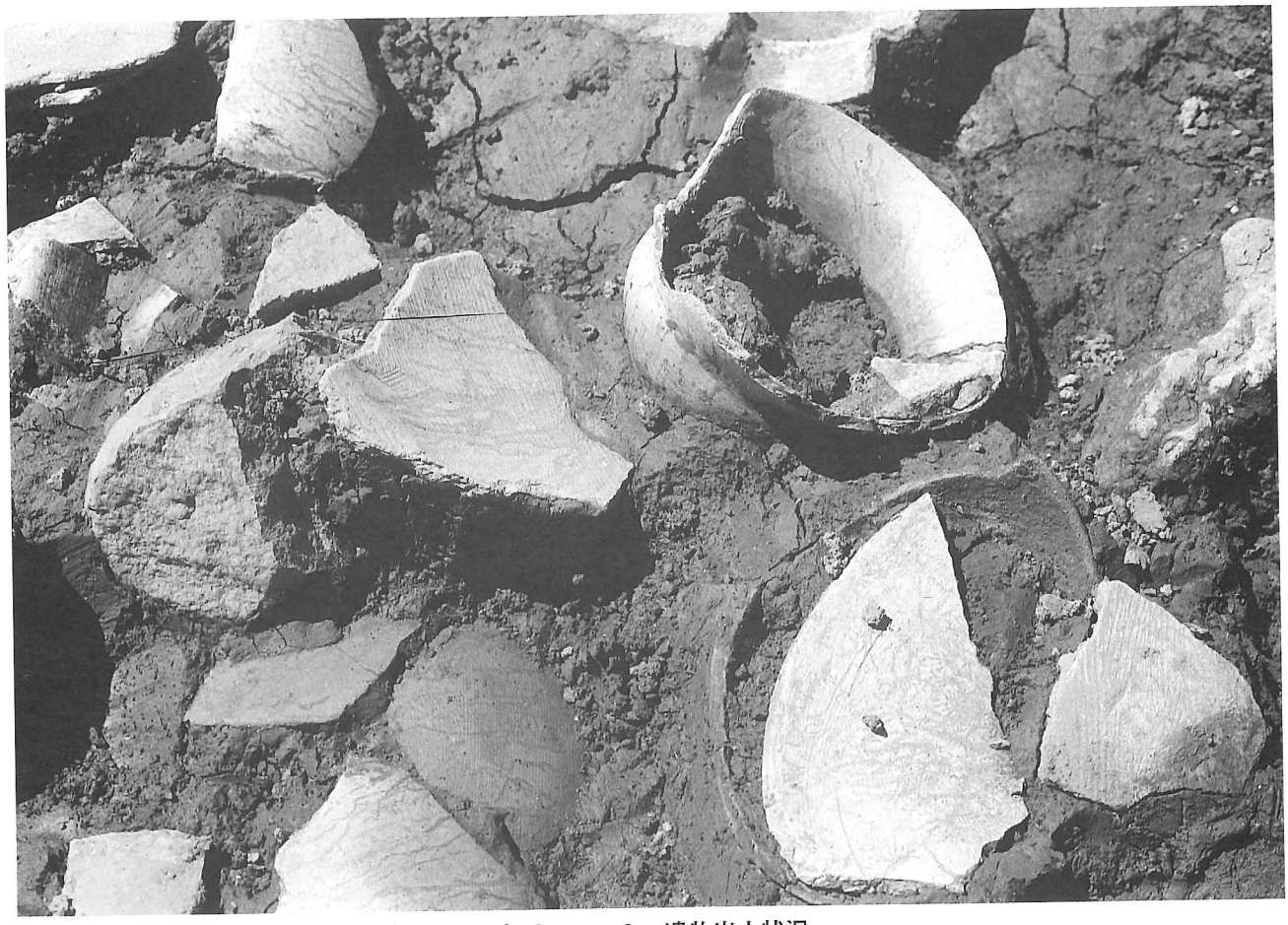


南区　ＳＤ２　Ⅰ層下　遺物出土状況（西から）

南区　ＳＤ２　遺物　出土状況

南区　ＳＤ２　遺構　検出状況（南から）

南区　南壁　ＳＤ２　土層



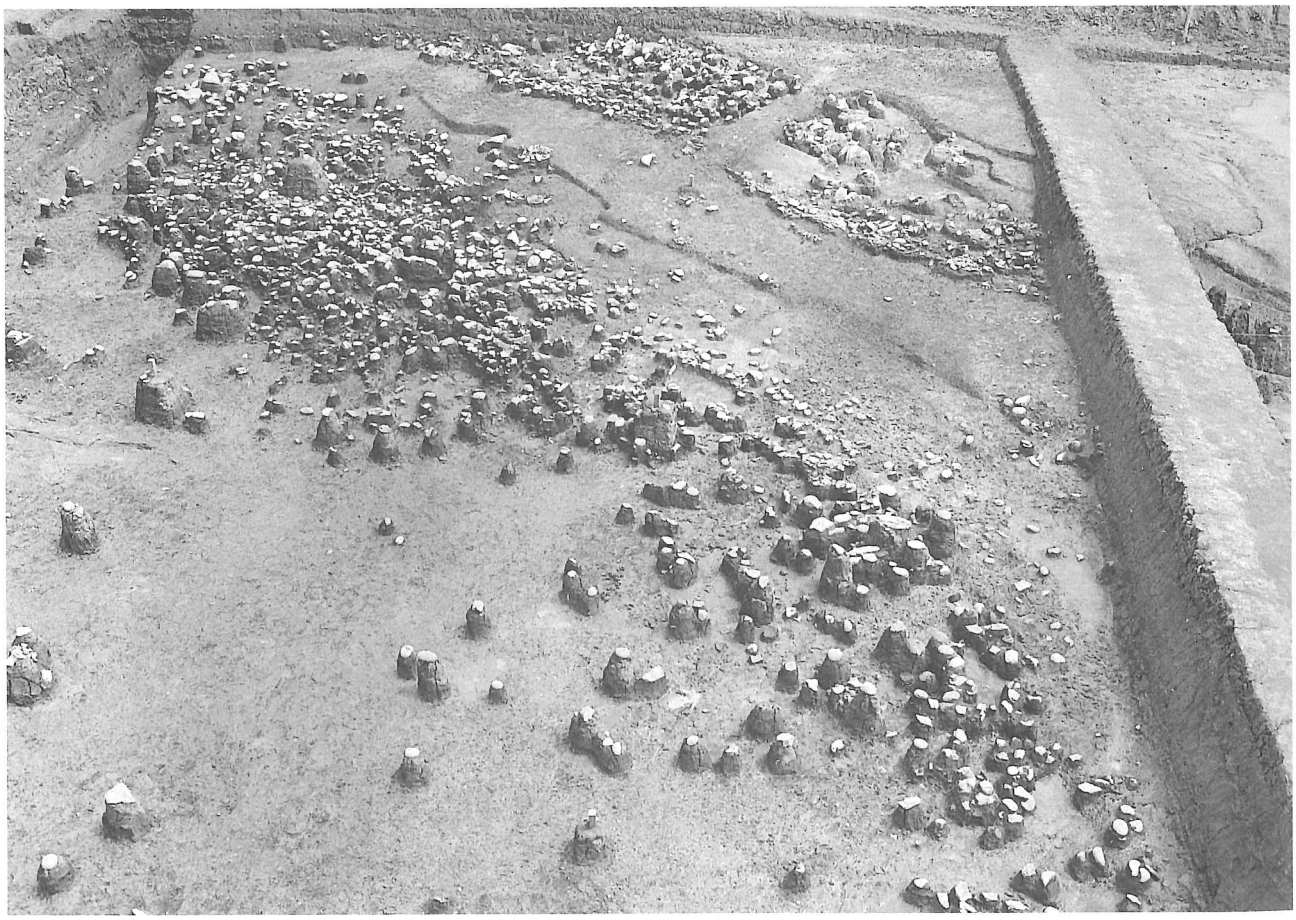
南区　ＳＤ２　遺物出土状況

中央区　ＳＤ１・ＳＤ３・ＳＤ４　検出状況（西から）

中央区　ＳＤ３　調査風景

中央区　ＳＤ３　遺物出土状況

北区　ＳＤ３　礫群　検出状況（北から）



北区　ＳＤ３　礫群　検出状況（南から）

北区　ＳＤ３　遺物出土状況

北区　ＳＤ３　遺物出土状況

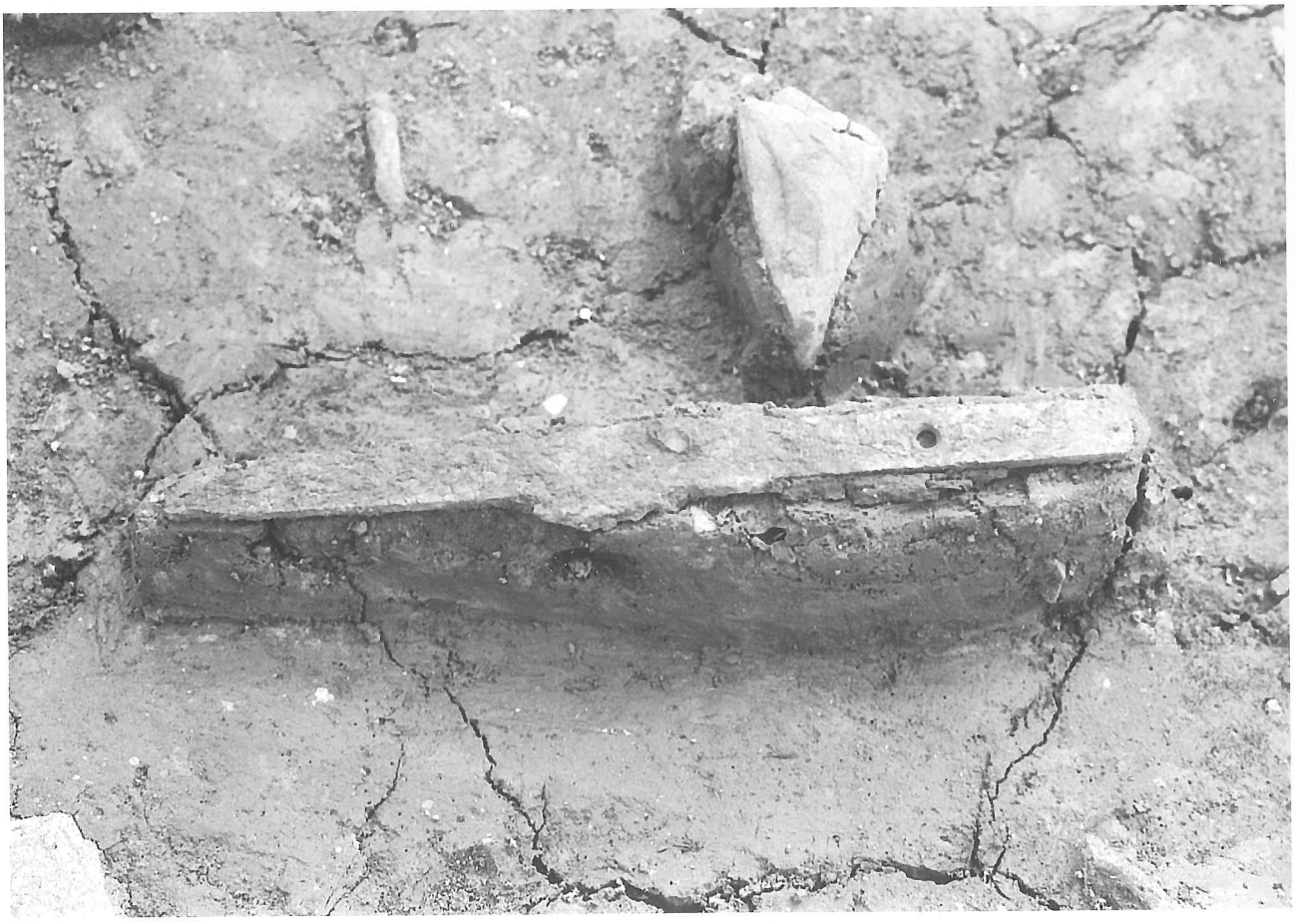
中央区　ＳＤ３　横断土層

中央区　ＳＤ３　横断土層

中央区　ＳＤ２・ＳＤ３　検出状況

北区　ＳＤ３　検出状況

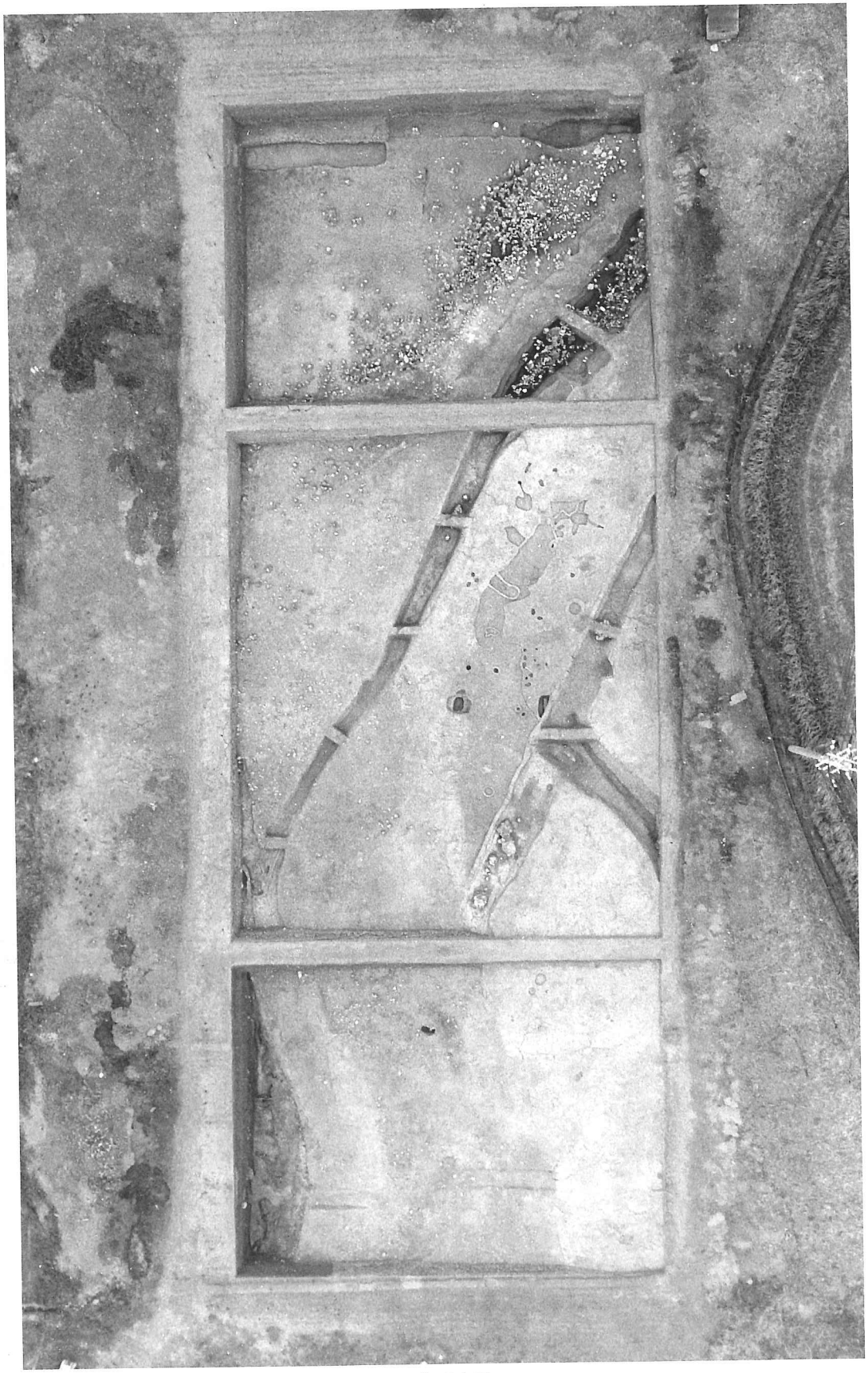
中央区　ＳＤ４　遺物出土状況



南区　Ⅲ層　刀子　出土状況

中央区　ＳＤ４　検出状況（南から）

中央区　ＳＤ１・ＳＤ４　検出状況（南から）



調査区全景

報告書抄録

ふりがな	はるのつじいせき
書名	原の辻遺跡
副書名	原の辻遺跡特定調査事業発掘調査報告書
巻次	Ⅳ
シリーズ名	原の辻遺跡調査事務所調査報告書
シリーズ番号	第24集
編著者名	町田利幸・藤村誠・中尾篤志
編集機関	長崎県教育庁原の辻遺跡調査事務所
所在地	㊥811-5322　長崎県壱岐郡芦辺町深江鶴亀触1092番地1　TEL09204(5)4080
発行年月日	西暦2002年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
原の辻遺跡 (はるつじ)	長崎県壱岐郡 (ながさきけんいきぐん) 芦辺町 (あしべちょう)	42423	73－10	33°45′30″	129°45′55″	20000514 ～ 20010103	1,100m²	特定調査

収録遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
原の辻遺跡	集落	弥生時代 古墳時代	濠2条 溝1条	弥生土器 朝鮮半島系土器 打製・磨製石器 切子玉・ガラス玉 鍛造鉄斧 鉄鏃・鉄鎌 人面石	

原の辻遺跡調査事務所調査報告書第24集

原の辻遺跡

2002. 3. 31

発行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町2番13号

印刷　株式会社　昭和堂